

学校法人太田アカデミー

# 太田医療技術専門学校

厚生労働省指定養成施設

## 看護学科

2024年度 シラバス



## 授業評価の基準

授業では、以下に挙げる方法と基準により授業評価を行う。

### 1 授業評価の方法

各科目の学修成果は、前期及び後期末に行う筆記試験又は実技試験の得点をもって評価する。科目によっては、受講態度や課題の提出状況、小テスト、中間試験等により数値化した得点（平常点等）を試験素点に加減することで評価する（平常点等を考慮する科目はシラバスに記載する）場合もある。

また、各授業における欠席の上限を定めており、この時間を超えて授業を欠席した者には当該科目の試験の受験資格を与えず、単位不認定とする。

なお、授業開始後 30 分を経過するまでに教室に入室した者は「遅刻」、授業終了の定刻前に教室を退室した者は「早退」とし、遅刻及び早退の累計が 3 回となった場合は 1 回の欠席とする。

### 2 授業評価の基準

試験の結果（得点）により、以下の基準で評価する。ただし、これとは別に基準を設定して評価を行う場合には別途授業計画（シラバス）に記載し、またその旨担当教員が授業において告知する。

試験の得点	評価と単位認定
80～100点	評価「優」 単位を認定する。
70～79点	評価「良」 単位を認定する
60～69点	評価「可」 単位を認定する。
60点未満	評価「不可」 <b>単位を認定しない。</b>

なお、本試験の得点が60点未満だった者については再試験を実施し、再試験の得点が60点以上だった者については、評価を「可」として単位を認定する。それ以外の者には単位を認定しない。

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	科学基礎			担当者	戸谷 幸永		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	自作プリント						
科目概要	科学的思考の視点と、看護に必要な計算力および数学・物理の考え方を教授し、理解を深めるための演習を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の基礎となる計算力をつける。</li> <li>2. 自然科学の基礎となる物質の構造を理解する。</li> <li>3. 単位の意味を理解する。</li> <li>4. 看護における濃度・圧力・速度の計算ができる。</li> <li>5. 以上の内容に関連する国家試験の問題を解くことができる。</li> </ol>						
評価方法	定期試験を実施し、60点以上を単位認定する。						
課題に対するフィードバック	単元ごとに問題演習を行い、理解の程度を確認する。必要に応じて解説を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	特になし						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	数と式	数学の基本概念・計算の基礎	講義
2	化学基礎	原子の構造・モルの意味	講義
3	物理基礎	速度の種類・気体の性質	講義
4	単位	単位の持つ意味	講義
5	濃度	薬液の希釈	講義
6	圧力	酸素ポンプの理解	講義
7	速度	点滴の速度調整	講義
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	論理的思考			担当者	非常勤講師		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	オリジナルテキスト「論理的思考の基礎」						
科目概要	看護職に求められる論理的思考と論理的表現を解説する。具体的には、さまざまな事例を観察した成果を普遍的な智慧として「概念化」できる力（帰納的思考力）と、先人が築いてきた英知を現場で生じている問題に適用できる力（演繹的思考力）をさまざまなケースを通じて教授する。さらに、論理的思考の結果を文章やプレゼンテーションを通じて表現できるような力を身につけるための演習を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.論理的思考とは何かを知り、帰納法や演繹法といった論理的思考を実践する。</li> <li>2.看護職として患者やその家族への説明責任が果たせる思考力・表現力を身につける。</li> <li>3.レポートや論文の執筆、論理的発表(プレゼンテーション)などのアカデミックスキルズを習得する。</li> </ol>						
評価方法	提出物、レポート、授業態度などを総合的に判断し、可否を決定する。						
課題に対するフィードバック	単元ごとに問題演習を行い、理解の程度を確認する。必要において解説を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	授業への積極的な参加（出席と発言）を重視する。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	論理的思考の基礎	論理的思考とは何か、なぜ看護職に論理的思考が求められるのか	講義
2	論理的思考の実践①	帰納法①現象の観察と概念化、主張の創造	講義
3	論理的思考の実践②	帰納法②現象を数値化する=定量調査	講義
4	論理的思考の実践③	演繹法①問題解決のフレームワークを知り、現象に適用する	講義
5	論理的思考の実践④	演繹法②折れないしなやかな心=ダルマインドの理解と実践	講義
6	論理的表現の実践①	論理的思考を文章で表現する	講義 演習
7	論理的表現の実践②	論理的思考を口頭表現で発表する	講義 演習
8	試験		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	健康と環境			担当者	非常勤講師		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材							
科目概要	人間を取り巻く環境と、環境問題および環境が健康に与える影響について解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在起こっている環境問題を知る。</li> <li>2. 代表的な環境問題の実態について科学的に理解する。</li> <li>3. 環境問題が人間に与える影響について理解する。</li> </ol>						
評価方法	定期試験を実施し、60点以上を単位認定する。						
課題に対するフィードバック	試験の合否については合格者の学籍番号を掲示する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	積極的に授業に参加し、予習・復習を行うこと。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	健康の定義①	WHOの健康の定義	講義
2	健康の定義②	ウェルネスの概念	講義
3	環境の定義①	外部環境と内部環境	講義
4	環境の定義②	さまざまな環境	講義
5	健康と環境①	健康と環境と人間の関係	講義
6	健康と環境②	健康と環境と人間の関係	講義
7	健康と環境③	健康と環境と人間の関係	講義
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

<b>履修区分</b>	必修	<b>単位数</b>	1	<b>開講時期</b>	前期	<b>形態</b>	講義・演習
<b>学科名</b>	看護学科			<b>配当時間</b>	15	<b>対象年次</b>	1年次
<b>科目名</b>	スタディスキル			<b>担当者</b>	佐野 陽子		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
<b>使用教材</b>	看護学生の勉強と生活まるごとナビ(日本看護協会出版会)						
<b>科目概要</b>	看護師としての実務経験を活かして、看護専門職を目指す看護学生として、主体的に学ぶためのスキルを教授し、以後の学習活動が活性化するよう支援する。						
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. タイムマネジメントの必要性を認め、その基本的スキルを習得する。</li> <li>2. 学習スキルの基本を習得する。</li> <li>3. グループワークの技法を理解し、主体的に参加する意義を見出す。</li> <li>4. 学習スキル習得の意義を認め、今後の学習への自己の課題を見出す。</li> </ol>						
<b>評価方法</b>	授業態度、提出物、レポートなど総合的に判断し、合否を決定する						
<b>課題に対するフィードバック</b>	課題の提出物に不備があった場合、再提出をする。						
<b>履修要件 (準備学習の具体的な内容)</b>	授業前、指示された課題に取り組み、授業に臨む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	看護学生の学習の基本①	学ぶとは 「生徒」と「学生」の学習の違い タイムマネジメントの基本的スキル	講義・演習
2	看護学生の学習の基本②	予習・授業の受け方・復習のスキル 書く・調べる・聴く・述べる等のスキル	講義・演習
3	看護学生の学習の基本③	目標設定と実現のための行動計画立案スキル 実施後の評価のスキル クリティカルシンキングとは	講義・演習
4	看護学生の学習の基本④	学習効果を最大限に生かすための学習スキル	講義・演習
5	看護学生の学習の基本⑤	学習効果を最大限に生かすための学習スキル 科目試験に向けた学習スキル	講義・演習
6	看護学生の学習の基本⑥	様々なグループワーク グループワークの実際（看護ラベルワーク）	講義・演習
7	看護学生の学習の基本⑦	グループワークの実際（看護ラベルワーク）	演習
8		まとめ	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義	
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次	
科目名	研究的視点			担当者	諏訪 由美子			
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	講義や演習ごとに資料配布							
科目概要	看護師としての実務経験を活かして、研究や文献、研究成果の検索方法と読み方について解説し、今後の学習に活かすための演習を行う。							
到達目標	<p>1.研究の特徴と種類を学び、研究を発展するための基本的なプロセスを述べる。</p> <p>2.看護学の論文のクリティークを通し、課題を具体化し、看護活動への研究的アプローチ方法を知る。</p> <p>3.文献検索を実施し、文献の検索方法を身につける。</p>							
評価方法	試験、文献検索、論文のクリティーク、出席点により評価する。							
課題に対するフィードバック	文献検索、論文のクリティークの演習後の提出物に関して理解が不足している点は後日解説する。							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	特になし							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	研究とプロセス①	研究とは 研究のプロセス	講義
2	研究とプロセス②	研究デザインの分類、研究成果の活用 研究における倫理的配慮	講義
3	文献検索①	文献検索の意義と目的 文献の種類	講義
4	文献検索②	参考文献、引用文献、文献表記の方法 文献検索の方法	講義
5	文献検索の実際③	Webでの文献検索	演習
6	文献検索の実際④	Webでの文献検索	演習
7	文献検索の実際⑤	学内模擬看護研究発表会	演習
8	論文クリティーク	クリティークの視点 課題、論文のクリティーク	講義
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	情報科学Ⅰ			担当者	戸谷 幸永		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	30時間でマスターOffice2019 (実教出版)						
科目概要	看護実践に必要な情報の収集や分析ができるよう、また医療施設において必要なコンピュータ操作ができるように、文書作成や計算処理などのパソコンの基本操作を習得するための演習を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パソコンの基礎知識（OS、ブラウザ、操作方法）を理解する。</li> <li>2. ワードソフトで実務的文書（ビジネス文書、連絡・報告書など）を作成する。</li> <li>3. 表計算ソフトで実務的（会計処理、統計計算、成績処理など）な表計算処理ができる。</li> </ol>						
評価方法	ワードソフト、表計算ソフト、それぞれ単元終了後に、与えられた課題をもとに作品を完成させ提出する。クリアしなければならない項目が70%以上で合格とする。						
課題に対するフィードバック	作品提出後、問題の完全解説をクラス全体に行う。細かい質問は個別対応する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	特になし						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	コンピュータ基礎	OS(Windows 10)の基礎 ファイルとフォルダ・ブラウザの使い方	講義 演習
2	Word基礎	Wordの画面構成 日本語入力システム・文字入力	講義 演習
3	文章入力・書式・表・画像・図形の挿入	ビジネス文書の構成、文書の装飾 表、画像や図形を活用した文書の作成	講義 演習
4	Wordテスト	問題の沿って文書作成・提出 解説	講義 演習
5	Excel基礎	Excelの画面構成 データ入力	講義 演習
6	ワークシート編集 計算式	計算式の作り方 関数を使った表計算	講義 演習
7	グラフ作成	様々なグラフの作成方法 グラフのカスタマイズ	講義 演習
8	ビジネスメール	アウトルックを使ったビジネスメールの基本 宛先の入れ方、添付ファイル等	講義 演習
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	情報科学Ⅱ			担当者	非常勤講師		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材							
科目概要	当校情報校教員としての実務経験を活かして、プログラミングの基本を学ぶことでプログラミング的思考を培い、物事をうまく解決するための手順を論理的に考える力を身につけるための演習を行う。						
到達目標	1.プログラミングの基本の考え方を理解する。 2.プログラミング思考をもとに、簡単な機器操作を実施する。						
評価方法	授業態度、提出物、レポートなどを総合的に判断し、合否を決定する						
課題に対するフィードバック	細かい質問は個別対応する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	情報科学Ⅰの単位を取得していること						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	プログラミングの基礎	プログラミング用語 医療の中でのプログラミング	講義
2	プログラミング思考	プログラミング的思考とは	講義
3	プログラミングの実際①	プログラミングの実際	講義
4	プログラミングの実際②	プログラミングの実際	演習
5	PowerPointの基礎	PowerPointの画面構成 スライドの作成	演習
6	表や画像の活用	アニメーションのつけ方 スライドショーの設定	講義
7	PowerPoint	Power Pointを使用して学びを効果的に まとめる	講義
8	PowerPointテスト	Power Pointを使用して資料提出	講義
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	実技
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	スポーツ科学			担当者	非常勤講師		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	なし						
科目概要	<p>保健体育教師としての実務経験を通し、様々な運動・スポーツの実技を通して心身の健康と調和的な発達を促し、健康とスポーツの主体的な実践力を身につけるとともに、健康とスポーツについて科学的に考える力を身につける方法について教授する。仲間とともに協力し、コミュニケーションを深めながら、スポーツの社会的・文化的価値について考える機会とする。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動やスポーツの楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、自らコミュニケーションをとり意欲的に活動する。</li> <li>2. 生涯にわたって健康の保持増進のための自己管理能力を身に付けるとともに、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につける。</li> </ol>						
評価方法	<p>①授業中の意欲・関心・態度 ②技能 ③思考・判断 ④出席状況の4観点を点数化し総合的に判断する。総合点60点以上得点した者に単位を認定する。</p> <p>評価基準 80点以上はA、70～79点はB、60～69点はC、60点以下は可の判断にてレポート及び補講実技にて認定する。</p>						
課題に対するフィードバック	必要時に個別に対応する						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	特になし						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	授業の約束・流れ・準部運動	自動車校体育館
2	ソフトバレーボール	簡易ゲームⅠ（バドミントンコート5：5） ルールは6人制バレーボール規定	自動車校体育館
3	バレーボール	簡易ゲームⅠ（バドミントンコート3：3） 無数の返球可、投げ入れサーブ場所の指定な	自動車校体育館
4	バレーボール	簡易ゲームⅡ（バドミントンコート4：4） 4回以内の返球 サーブからプレー、サーブ	自動車校体育館
5	バレーボール	簡易ゲームⅢ（バドミントンコート5：5） 3回以内の返球 サーブ1回目バックライ	自動車校体育館
6	球技大会	バレーボール	市民体育館
7	球技大会	バレーボール	市民体育館
8	バスケットボール・ドッジボール	バスケ簡易ゲームⅠ（ランダムゲーム）フリー タイム・ドッジ対抗戦	自動車校体育館
9	バスケットボール・ドッジボール	バスケ簡易ゲームⅡ（4対4）15×4・ドッジ 対抗戦	自動車校体育館
10	バスケットボール・ドッジボール	バスケ簡易ゲームⅡ（4対4）15×4・ドッジ 対抗戦	自動車校体育館
11	バスケットボール・ドッジボール	バスケ対抗戦5対5・ドッジ対抗戦	自動車校体育館
12	バスケットボール・ドッジボール	バスケ対抗戦5対5・ドッジ対抗戦	自動車校体育館
13	バスケットボール・ドッジボール	バスケ対抗戦5対5・ドッジ対抗戦	自動車校体育館
14	体育理論	テーピング理論（手・指）	トレーニングルーム
15	体育理論	テーピング理論（肘・足）	トレーニングルーム

<b>履修区分</b>	必修	<b>単位数</b>	1	<b>開講時期</b>	後期	<b>形態</b>	講義
<b>学科名</b>	看護学科			<b>配当時間</b>	30	<b>対象年次</b>	1年次
<b>科目名</b>	英語		<b>担当者</b>	西浦 昭次			
	□ 実務経験のある教員による授業						
<b>使用教材</b>	最新医学用語演習 (南雲堂)						
<b>科目概要</b>	様々な環境に暮らす人間の生活を幅広く理解するために必要な語学の知識を身につけることを目指す。また、医療従事者が知っておくべき基本的な英語の知識の習得を目指す。						
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学英語の構成要素を理解する。</li> <li>2. 主要な連結形を理解する。</li> <li>3. 主要な接尾辞を理解する。</li> <li>4. 学習した連結形や接尾辞を使い、平易な医学用語を造語する。</li> </ol>						
<b>評価方法</b>	学期末に筆記試験を行う。また、受講態度を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上の得点を獲得した者に単位を認定する。						
<b>課題に対するフィードバック</b>	試験の採点后、その結果を担当教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。						
<b>履修要件 (準備学習の具体的な内容)</b>	特になし						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	医学英語の基本構造①	語要素の詳細と造語	講義
2	医学英語の基本構造②	基本的な語要素と造語形を学習する	講義
3	接尾辞①	基本的な接尾辞を学習する	講義
4	接尾辞②	基本的な接尾辞を学習する	講義
5	接頭辞①	基本的な接頭辞を学習する	講義
6	接頭辞②	基本的な接頭辞を学習する	講義
7	大小・形状・色・数①	大小・形状・色・数に関する語要素等を学習する	講義
8	大小・形状・色・数②	大小・形状・色・数に関する語要素等を学習する	講義
9	接尾辞③	基本的な接尾辞を学習する	講義
10	接尾辞④	基本的な接尾辞を学習する	講義
11	人体と位置・方向	人体や位置・方向を示す語要素を学習する	講義
12	人体臓器・器官	人体の内部の各器官や臓器の名称について学習する	講義
13	体内物質	体内物質の語要素を学習する	講義
14	まとめ	まとめ	講義
15	テスト	試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	芸術			担当者	高木 道代		
	□ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	なし						
科目概要	様々な文化や芸術に触れることで人間的な豊かさや、感性を高め、看護の基盤となる人間性を養う。						
到達目標	1.活動を通して感じたこと、考えたことを共有する。 2.自分の学びを振り返り成長を俯瞰するとともに、今後に向けて自己の課題を見出す。						
評価方法	レポート課題・グループワーク発表により評価する。						
課題に対するフィードバック	個別に対応する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	なし						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	人間と芸術	芸術が持つ力 心が動く経験とは	講義・演習
2	人間と芸術	心が動いた経験を人に伝える方法	演習
3	人間と芸術	心が動いた経験を人に伝える方法	演習
4	発表	心が動いた経験を人に伝える実践	演習
5	地域の自然に触れる、文化施設探索	地域の自然、文化施設探索	演習
6	地域の自然に触れる、文化施設探索	地域の自然、文化施設探索	演習
7	地域の自然に触れる、文化施設探索	地域の自然、文化施設探索	演習
8	地域の自然や文化に触れ、感じたこと	まとめ 発表	演習
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	心理学			担当者	非常勤講師		
	□	実務経験のある教員による授業					
使用教材	カラー版徹底図解 心理学 生活と社会に役立つ心理学の知識 (新星出版社)						
科目概要	臨床心理士としての実務経験を活かして、環境に適応しながらよりよく生きていくために、人間に備わっている心の仕組みや働きについて教授し、人間理解の基本的な知識や考え方を習得できるよう支援する。自己理解や自分らしさの気づきを通して自分の傾向を知ること、自己と他者の違いを認め、尊重していくための基盤を築けるよう支援する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学諸分野の基礎的な知識を理解する。</li> <li>2. 人間の心理・社会に関する幅広い知識を得る。</li> <li>3. 自己や他者の行動と心理を理解する。</li> </ol>						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最終授業時に試験を行い、その結果60点以上を合格とする。</li> <li>2. 授業出席数を満たすこと。</li> </ol>						
課題に対するフィードバック	合格点に満たない学生には、再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	各自、積極的に学習に臨むこと。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	心理学とは	講義
2	心理学の基礎①	心理学の歴史	講義
3	心理学の基礎②	心理学の基礎	講義
4	心の機能と働き①	心に備わった機能（知覚・認知・感情）	講義
5	心の機能と働き②	心の働き（学習と心理・記憶・知能）	講義
6	心理テスト①	私らしさの分析（性格）・心理テストの実践	講義
7	心理テスト②	私らしさの分析（性格）・心理テストの分析	講義
8	心理学概論①	対人関係の心理学	講義
9	心理学概論②	人間の心の発達	講義
10	心理学概論③	心のトラブル（精神疾患と防衛機制）	講義
11	心理療法①	心理療法	講義
12	心理療法②	心理療法の実践	講義
13	メンタルヘルス概論	青年期のメンタルヘルス	講義
14	まとめ	試験対策と講義のまとめ	講義
15		試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	コミュニケーションスキル		担当者	非常勤講師			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	人間関係論（医学書院）・教員作成資料 他						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし、対象理解のために人間関係の形成過程について解説し、基本的なコミュニケーションスキルを身につけられるよう支援する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間関係の考え方と基礎的理論を説明する。</li> <li>2. 自己の理解、他者の理解を深める。</li> <li>3. コミュニケーションの大切さを理解する。</li> </ol>						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習の態度と出席数を満たすこと。</li> <li>2. 最終授業時にレポート作成。</li> </ol>						
課題に対するフィードバック	レポート作成が不十分な場合は再提出						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	各自、積極的に学習に臨むこと。						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	人間関係基礎論①	人間存在と人間関係	講義
2	人間関係基礎論②	社会的相互作用と社会的役割	講義
3	人間関係基礎論③	コミュニケーション	講義
4	人間関係基礎論④	人間関係向上のスキル 体験学習プログラム（1）	講義 演習
5	人間関係基礎論⑤	人間関係向上のスキル 体験学習プログラム（2）	講義 演習
6	人間関係基礎論⑥	人間関係向上のスキル 体験学習プログラム（3）	講義 演習
7	人間関係基礎論⑦	人間関係向上のスキル 体験学習プログラム（4）	講義 演習
8		まとめ	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	教育学		担当者	非常勤講師			
	□ 実務経験のある教員による授業						
使用教材							
科目概要	<p>各自の学習経験を振り返り、教育とは何かを考えるとともに、主体的学習の意義を理解できるように教授する。また対象に教育的支援を行うために必要な基本的理論について解説する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人の発達と学習について理解する。</li> <li>2. 教育学の基本的内容を理解し、対象に教育的支援を行うために必要な理論について学ぶ。</li> <li>3. 対象に教育的支援を行うために必要な各種技法について理解する。</li> <li>4. 個別の配慮をふまえた教育について理解する。</li> </ol>						
評価方法	筆記試験、授業態度、提出物などから総合的に評価し、60点以上の者に単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	試験の採点後、その結果を担任教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	特になし						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	教育の現状と課題	日本の教育の現状と課題	講義
2	人の発達と学習	発達と学習の心理	講義
3	教育活動の実際（1）	メタ認知	講義
4	教育活動の実際（2）	協同学習	講義
5	教育活動の実際（3）	対人スキル、リーダーシップ	講義
6	対象への関わり	看護における対象への教育的かかわり	講義
7	教育と評価	形成的評価、ルーブリック評価	講義
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	人間工学		担当者	非常勤講師 井波 敬三			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	看護の環境と人間工学（サイオ出版）						
科目概要	<p>看護師を目指す学生として適正な看護動作を身につけるために、理学療法士としての実務経験を活かし、ポディメカニクスの概念を活用して人体の力学的特性を解説する。また、臨床工学技士としての実務経験を活かし、人間を取り巻く周囲（道具・環境等）を最適に、安全に活用するための力学的視点、デザインの考え方を解説する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.人間の生活を豊かにするために人間工学がどのような役割を持つかについて考察する。</li> <li>2.ポディメカニクスの概念を活用し、人間の力を効果的に、最大限に生かすための方法を理解する。</li> <li>3.工学的視点から見たヒューマンエラーについて考え、看護の現場における事故防止対策について考察する。</li> <li>4.人間工学の視点をもって、人間を取り巻く周囲（道具・環境等）を最適に、安全に整えることに意義を認める。</li> </ol>						
評価方法	<p>後期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。</p> <p>&lt; 配点 &gt;</p> <p>田村：80点 井波：20点</p>						
課題に対するフィードバック	<p>試験の採点後、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。</p>						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	<p>特になし</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	人間工学とは	看護の人間工学	講義
2	力学的視点から見た人間①	動作を理解するための物理・力学	演習
3	力学的視点から見た人間②	ボデーメカニクスを活用した動作	演習
4	工学的視点から見た人間①	安全と看護	講義
5	工学的視点から見た人間②	看護の事故防止対策	講義
6	工学的視点から見た人間③	医療用電子機器とフィードバック制御	講義
7	工学的視点から見た人間④	人間工学とデザイン	講義
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	生化学		担当者	非常勤講師			
	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	生化学（医学書院）						
科目概要	人間の生命の営みがどのように成り立っているかを、人間の内部環境・外部環境との関係から解説する。						
到達目標	1.人間の体を正常に保ち、生活を維持する仕組みについて説明する。 2.基礎事項の理解と問題発掘・解決能力の獲得のための基盤をつくる。						
評価方法	前期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	特になし						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	化学の基礎	化学の基礎	講義
2	酸・塩基	酸・塩基平衡	講義
3	糖①	糖の生化学Ⅰ	講義
4	糖②	糖の生化学Ⅰ、脂質Ⅰ	講義
5	脂肪	脂肪（コレステロール、リポタンパク） タンパク質	講義
6	タンパク質①	脂質復習、タンパク質Ⅱ	講義
7	タンパク質②	タンパク質Ⅲ	講義
8	核酸	核酸	講義
9	酵素①	酵素Ⅰ	講義
10	酵素②	酵素Ⅱ、糖質代謝、総論	講義
11	糖質代謝①	糖質代謝、各論	講義
12	脂質代謝②	糖質代謝のまとめ、脂質代謝Ⅰ	講義
13	脂質代謝③	脂質代謝Ⅱ、タンパク質代謝Ⅰ	講義
14	まとめ	タンパク質代謝Ⅱ、まとめ	講義
15	試験	試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	生物と微生物			担当者	非常勤講師		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	生物学、微生物学（医学書院）						
科目概要	臨床検査技師としての実務経験を活かして、生物の進化や生命現象を学ぶとともに人間が生きていくために生活環境を支えている微生物について解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間の営みのもととなる生命現象について理解し、生体維持や固体の調節機能について学ぶ。</li> <li>2 微生物の特徴、人体への影響及び対策を理解する。</li> </ol>						
評価方法	筆記試験を期末試験として実施し60点以上を合格とする。						
課題に対するフィードバック	各授業に質問時間を設け理解できないところを自由に質問してわかるまで説明をする。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	中学校の生物とできれば高校生物程度の理解を準備学習とします。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	生命体のつくりとはたらき	細胞のはたらき	講義
2	生体維持のエネルギー	生体内の化学反応 ATPの生合成	講義
3	細胞の増殖とからだの成り立ち	細胞分裂 細胞の分化と固体の成り立ち	講義
4	遺伝情報と伝達、発現のしくみ	遺伝、DNA、遺伝情報	講義
5	生殖と発生	無性生殖と有性生殖 動物の授精と発生	講義
6	固体の調節	ホメオスタシス 各器官系のはたらき	講義
7	生命の進化と多様性	ヒトの起源と進化 進化にのしくみ	講義
8	地球環境とヒトとの共存	人間活動による環境への影響 生物多様性への保全	講義
9	微生物学の基礎	細菌、真菌、原虫、ウイルスの性質	講義
10	感染とその防御①	感染と感染症 感染に対する生体防御機構	講義
11	感染とその防御②	滅菌と消毒 感染症の検査と診断	講義
12	感染とその防御③	感染症の治療 感染症の現状と対策	講義
13	主な病原微生物①	病原細菌と細菌感染症 病原真菌と真菌感染症	講義
14	主な病原微生物②	病原原虫と原虫感染症 病原ウイルスとウイルス感染症	講義
15	まとめ	試験、まとめ	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	60	対象年次	1年次
科目名	解剖生理学Ⅰ			担当者	非常勤講師		
	☑ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	解剖生理学（医学書院）						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし、人体の構造と機能について解説する。						
到達目標	1. 生命の維持・活動にはたらく機能と構造、及びその形態についてわかる。						
評価方法	前期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	特になし						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	解剖生理学の基礎知識①	構造からみた人体	講義
2	解剖生理学の基礎知識②	人体のさまざまな器官	講義
3	解剖生理学の基礎知識③	細胞の構造 細胞を構成する物質とエネルギーの生成	講義
4	解剖生理学の基礎知識④	細胞膜の構造と機能	講義
5	解剖生理学の基礎知識⑤	染色体、上皮組織、筋組織、結合組織 神経組織	講義
6	身体の支持と運動①	骨格、骨の連結、骨格筋	講義
7	身体の支持と運動②	体幹の骨格と筋	講義
8	身体の支持と運動③	上肢の骨格と筋	講義
9	身体の支持と運動④	頭頸部の骨格と筋	講義
10	身体の支持と運動⑤	筋の収縮	講義
11	身体の支持と運動⑥	運動と代謝	講義
12	情報の受容と処理①	神経系の構造と機能	講義
13	情報の受容と処理②	脊髄と脳	講義
14	情報の受容と処理③	脊髄神経と脳神経	講義
15	情報の受容と処理④	運動機能と下行伝導路 体性感覚と上行伝導路	講義

回	単元	内容	備考
16	情報の受容と処理⑤	感覚機能、目の構造と視覚	講義
17	情報の受容と処理⑥	耳の構造と聴覚・平衡覚	講義
18	情報の受容と処理⑦	味覚と嗅覚、痛み	講義
19	情報の受容と処理⑧	脳の統合機能	講義
20	身体機能の防御と適応①	皮膚の構造と機能	講義
21	身体機能の防御と適応②	生体の防御機構	講義
22	身体機能の防御と適応③	体温とその調節	講義
23	生殖・発生と老化のしくみ①	男性生殖器	講義
24	生殖・発生と老化のしくみ②	女性生殖器	講義
25	生殖・発生と老化のしくみ③	成長と老化	講義
26	体表からみた人体の構造①	骨格部分	講義
27	体表からみた人体の構造②	大きな筋	講義
28	体表からみた人体の構造③	動脈	講義
29	まとめ	まとめ	講義
30	まとめ	試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	60	対象年次	1年次
科目名	解剖生理学Ⅱ			担当者	佐藤 友彦		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	解剖生理学 (医学書院)						
科目概要	理学療法士としての実務経験を活かし、人体の主要な臓器の構造や働き、および人体の起こる生理学について解説する。						
到達目標	1. 生命の維持・活動にはたらく機能についてわかる。						
評価方法	前期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	試験の採点後、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	特になし						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	栄養の消化と吸収①	口腔・咽頭・食道の構造と機能	講義
2	栄養の消化と吸収①	腹部消化管の構造と機能	講義
3	栄養の消化と吸収①	腹部消化管の構造と機能	講義
4	栄養の消化と吸収①	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義
5	栄養の消化と吸収①	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義
6	栄養の消化と吸収④	腹膜	講義
7	呼吸と血液①	呼吸器の構造	講義
8	呼吸と血液②	内呼吸と外呼吸、呼吸運動、呼吸器量	講義
9	呼吸と血液③	ガス交換、肺の循環と血流、呼吸運動	講義
10	呼吸と血液④	呼吸器系の病態生理	講義
11	呼吸と血液⑤	血液の組成と機能	講義
12	呼吸と血液⑥	血液の凝固と繊維素溶解 血液型	講義
13	血液の循環とその調節①	心臓の構造	講義
14	血液の循環とその調節②	心臓の拍出機能	講義
15	血液の循環とその調節③	心臓の拍出機能	講義

回	単元	内容	備考
16	血液の循環とその調節④	末梢循環器系の構造	講義
17	血液の循環とその調節⑤	血液の循環の調節	講義
18	血液の循環とその調節⑥	血液の循環の調節	講義
19	血液の循環とその調節⑦	リンパとリンパ管	講義
20	体液の調節と尿の生成①	腎臓	講義
21	体液の調節と尿の生成②	腎臓	講義
22	体液の調節と尿の生成③	排尿路	講義
23	体液の調節と尿の生成④	体液の調節	講義
24	体液の調節と尿の生成⑤	体液の調節	講義
25	内蔵機能の調節①	自律神経による調節	講義
26	内蔵機能の調節②	内分泌系による調節	講義
27	内蔵機能の調節③	全身の内分泌腺と内分泌細胞	講義
28	内蔵機能の調節④	全身の内分泌腺と内分泌細胞	講義
29	内蔵機能の調節⑤	ホルモン分泌の調節 ホルモンによる調節の実際	講義
30		試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	病態生理学		担当者	非常勤講師			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	病態生理学 (医学書院)						
科目概要	臨床検査技師としての実務経験を活かして、身体に起こる病的変化の機序や恒常性の維持の仕組みについて解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病態生理学についての基礎知識を理解する。</li> <li>2. 皮膚・体温調節のしくみとその異常を理解する。</li> <li>3. 免疫による防御のしくみとその異常を理解する。</li> <li>4. 体液調節のしくみとその異常を理解する。</li> </ol>						
評価方法	前期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	試験の採点後、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	特になし						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	病態生理の基礎知識①	病態生理学を学ぶための基礎知識 正常と病気の状態	講義
2	病態生理の基礎知識②	皮膚・体温調整のしくみ	講義
3	病態生理の基礎知識③	免疫のしくみ	講義
4	病態生理の基礎知識④	体液調節のしくみ	講義
5	病態生理の基礎知識⑤	血液のはたらき	講義
6	病態生理の基礎知識⑥	循環のしくみ	講義
7	病態生理の基礎知識⑦	呼吸のしくみ	講義
8	病態生理の基礎知識⑧	消化・吸収のしくみ	講義
9	病態生理の基礎知識⑨	肝臓・膵臓の機能としくみ	講義
10	病態生理の基礎知識⑩	腎・泌尿器のしくみ	講義
11	病態生理の基礎知識⑪	内分泌・代謝のしくみ	講義
12	病態生理の基礎知識⑫	生殖のしくみ	講義
13	病態生理の基礎知識⑬	脳・神経・筋肉のはたらき	講義
14	病態生理の基礎知識⑭	感覚器のはたらき	講義
15		試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	栄養学		担当者	非常勤講師			
	☑ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	栄養学・栄養食事療法（医学書院） 新ビジュアル食品成分表（大修館書店）						
科目概要	栄養士としての実務経験を活かし、学生が健康の保持・増進のために必要な栄養や食事の基本的な知識を身につけ、治療や発達・嚥下状態、健康状態に合わせた栄養とはどのようなものかを理解できるように支援する。						
到達目標	1. 栄養状態の評価方法がわかる。 2. 成長発達、加齢による栄養状態の変化と食事・栄養管理について説明する。 3. 病院食・治療食の特徴がわかる。 4. 栄養状態のアセスメントがわかる。 5. 状態に応じた栄養と補給方法が説明する。 6. 患者の栄養管理に必要な看護師の役割を説明する。 7. NSTチームの活動と役割を説明する。						
評価方法	前期末に筆記試験を行う。また、レポートの結果を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。  配点 石井：70点 伊藤：20点 小林：10点						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	特になし						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	健康と栄養①	食事と食品	講義
2	健康と栄養②	ライフステージと栄養 健康づくりと食生活	講義
3	健康と栄養③	健康・栄養状態の評価方法	講義
4	臨床栄養 (栄養管理) ①	病院食、治療食 疾患別の栄養管理 腎疾患、肝疾患	講義
5	臨床栄養 (栄養管理) ②	疾患別の栄養管理 代謝性疾患 (糖尿病、脂質異常症、高血圧、心疾患、肥満など)	講義
6	臨床栄養 (栄養管理) ③	NSTにおける管理栄養士の役割	講義
7	臨床栄養 (栄養と看護) ①	1. 看護の視点で栄養を考える (PFMの視点から)	講義
8	臨床栄養 (栄養と看護) ②	2. 浸襲を受けた身体の反応と栄養 栄養アセスメント	講義
9	臨床栄養 (栄養と看護) ③	3. 術前・術後の栄養と看護	講義
10	臨床栄養 (栄養と看護) ④	4. がん（慢性疾患）と栄養	講義
11	臨床栄養 (栄養と看護) ⑤	5. 栄養補給法（経管栄養と経静脈栄養）	講義
12	臨床栄養 (栄養と看護) ⑥	6. 栄養補給法と看護（嚥下、口腔ケア）	講義
13	臨床栄養 (栄養と看護) ⑦	7. NSTチームと看護活動の実際（事例） 栄養アセスメントの実際 栄養指導の実際	講義
14	臨床栄養 (栄養と看護) ⑧	臨床栄養まとめ	講義
15	臨床栄養 (栄養と看護) ⑨	臨床栄養まとめ	講義

回	単元	内容	備考
16		まとめ・試験	
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	薬理学		担当者	非常勤講師			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	薬理学、臨床薬理学(医学書院)						
科目概要	<p>薬剤師としての実務経験を活かし、学生が治療や健康増進のために使用される薬物が人体に与える影響の基本的な知識を身につけ、成長発達段階や代謝・吸収による違いなど対象に合わせた服薬方法・評価について理解できるように教授する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物代謝と神経系への薬物の作用について理解する。</li> <li>2. 心血管系・呼吸器系・消化器系への薬物の作用について理解する。</li> <li>3. 看護実践に生かす臨床薬理について理解する。</li> </ol>						
評価方法	<p>後期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。</p> <p>&lt; 配点 &gt;</p> <p>原澤：80点 森下：20点</p>						
課題に対するフィードバック	<p>試験の採点后、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>特になし</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	薬理学総論①	薬物治療の意義と薬物治療における 看護師の役割	講義
2	薬理学総論②	薬の作用機序 薬の体内挙動	講義
3	薬理学総論③	有害事象・有害反応・副作用、使用禁忌	講義
4	薬理学総論④	薬剤の保管と管理（麻薬・向精神薬など）	講義
5	薬理学各論①	抗感染症薬・消毒薬	講義
6	薬理学各論②	抗がん剤・免疫治療薬	講義
7	薬理学各論③	抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義
8	薬理学各論④	末梢神経作用薬 神経による情報伝達	講義
9	薬理学各論⑤	心臓・血管系に作用する薬物 抗高血圧薬・狭心症治療薬・うっ血性心不全治療薬・抗不整脈薬・ 利尿薬など	講義
10	薬理学各論⑥	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 気管支喘息薬・鎮咳薬・去痰薬・呼吸促進薬など	講義
11	薬理学各論⑦	消化性潰瘍治療薬・消化管運動促進薬など 性ホルモンなど	講義
12	薬理学各論⑧	中枢神経作用薬：中枢神経系のはたらきと薬物 全身麻酔・睡眠薬・抗不安薬・抗精神病薬など	講義
13	臨床薬理学①	主要疾患の臨床薬理学	講義
14	臨床薬理学②	特定行為に関する臨床薬理学	講義
15		試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	臨床検査と画像診断		担当者	非常勤講師			
	□ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	臨床検査・臨床放射線医学・臨床外科看護総論（医学書院）						
科目概要	疾患を診断するため、あるいは身体の状態を正しく把握するために行われる検査について解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床検査の種類と概要について理解する。</li> <li>2. 麻酔と輸液の目的・適応について理解する。</li> <li>3. 主な放射線検査と治療法について理解する。</li> <li>4. 内視鏡・超音波検査の診断と治療について理解する。</li> <li>5. 輸血療法の特徴と臓器移植適応について理解する。</li> </ol>						
評価方法	<p>前期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。</p> <p>&lt;配点&gt;</p> <p>正田：40点 塩崎：30点 堀越：30点</p>						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	解剖生理学の復習を行って臨む						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	臨床検査の種類と概要①	臨床検査とその役割	講義
2	臨床検査の種類と概要②	血液学的検査の目的と適応、結果の解釈	講義
3	臨床検査の種類と概要③	一般検査の目的と適応、結果の解釈	講義
4	臨床検査の種類と概要④	生化学検査の目的と適応、結果の解釈	講義
5	臨床検査の種類と概要⑤	血清学・内分泌学的検査の目的と適応、結果の解釈	講義
6	臨床検査の種類と概要⑥	生理機能検査の目的と適応、結果の解釈	講義
7	主な治療法①	外科的治療の目的と適応 麻酔の目的 全身麻酔・局所麻酔の基本 輸液療法の目的と適応	講義
8	主な治療法②	放射線等による診断の目的と適応、結果の解釈（1）	講義
9	主な治療法③	放射線等による診断の目的と適応、結果の解釈（2）	講義
10	主な治療法④	放射線等による診断の目的と適応、結果の解釈（3）	講義
11	主な治療法⑤	放射線治療の目的と適応	講義
12	主な治療法⑥	内視鏡を用いる診断と治療の目的と適応	講義
13	主な治療法⑦	超音波を用いる診断と治療の目的と適応	講義
14	主な治療法⑧	輸血療法の目的と適応 臓器移植の種類と適応	講義
15		試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	疾病と治療Ⅰ			担当者	非常勤講師		
	□ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	病態生理学、呼吸器、循環器、血液・造血器（医学書院）						
科目概要	疾病をもつ人々に対して、科学的裏付けのある看護を提供するための知識について解説する。呼吸器、循環器、血液・造血にかかわる疾病とその検査と治療について解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸に関連する健康障害と治療について理解する。</li> <li>2. 循環器に関連する健康障害と治療について理解する。</li> <li>3. 血液・造血に関連する健康障害と治療について理解する。</li> </ol>						
評価方法	<p>後期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。</p> <p>内園 70点    塩崎 30点</p>						
課題に対するフィードバック	試験の採点後、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、臨床検査と画像診断を復習して臨む						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	呼吸に関連する 障害と治療①	呼吸器系の検査	講義
2	呼吸に関連する 障害と治療②	呼吸器系の疾患と治療	講義
3	呼吸に関連する 障害と治療③	〃	講義
4	呼吸に関連する 障害と治療④	〃	講義
5	呼吸に関連する 障害と治療⑤	〃	講義
6	循環に関連する 障害と治療①	循環器系の検査	講義
7	循環に関連する 障害と治療②	虚血性心疾患	講義
8	循環に関連する 障害と治療③	心不全	講義
9	循環に関連する 障害と治療④	不整脈	講義
10	循環に関連する 障害と治療⑤	高血圧 心筋症など	講義
11	血液・造血に関連する 障害と治療①	血液検査	講義
12	血液・造血に関連する 障害と治療②	血液とは 造血とは	講義
13	血液・造血に関連する 障害と治療③	白血病 悪性リンパ種	講義
14	血液・造血に関連する 障害と治療④	貧血 出血傾向	講義
15		試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	疾病と治療Ⅱ			担当者	非常勤講師		
	□ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	病態生理学、消化器、内分泌・代謝、アレルギー・膠原病・感染症（医学書院）						
科目概要	疾病をもつ人々に対して、科学的裏付けのある看護を提供するための知識について解説する。消化器、内分泌、自己免疫にかかわる疾病とその検査と治療について解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化器系に関連する健康障害と治療について理解する。</li> <li>2. 内分泌・代謝に関連する健康障害と治療について理解する。</li> <li>3. 自己免疫に関連する健康障害と治療について理解する。</li> </ol>						
評価方法	後期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、臨床検査と画像診断を復習して臨む						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	消化吸収に関連する障害と治療①	食道・胃疾患の診断と治療	講義
2	消化吸収に関連する障害と治療②	腸疾患の診断と治療	講義
3	消化吸収に関連する障害と治療③	大腸がんの診断と治療	講義
4	消化吸収に関連する障害と治療④	肝疾患の診断と治療	講義
5	消化吸収に関連する障害と治療⑤	胆・膵疾患の診断と治療	講義
6	内分泌に関連する障害と治療①	内分泌器官とホルモン	講義
7	内分泌に関連する障害と治療②	主な症状と病態・検査	講義
8	内分泌に関連する障害と治療③	糖尿病	講義
9	内分泌に関連する障害と治療④	高脂血症・高尿酸血症	講義
10	内分泌に関連する障害と治療⑤	食事療法	講義
11	自己免疫に関連する障害と治療①	アレルギー、免疫の仕組み	講義
12	自己免疫に関連する障害と治療②	検査と治療	講義
13	自己免疫に関連する障害と治療③	疾患理解	講義
14	自己免疫に関連する障害と治療④	〃	講義
15		試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	疾病と治療Ⅲ			担当者	非常勤講師		
	□ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	病態生理学、腎・泌尿器、女性生殖器、運動器（医学書院）						
科目概要	<p>疾病をもつ人々に対して、科学的裏付けのある看護を提供するための知識について解説する。排泄、運動、生殖にかかわる疾病とその検査と治療について解説する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 排泄に関連する健康障害と治療について理解する。</li> <li>2. 運動に関連する健康障害と治療について理解する。</li> <li>3. 生殖に関連する健康障害と治療について理解する。</li> </ol>						
評価方法	<p>後期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。</p> <p>&lt; 配点 &gt;  塩崎：65点 黒沢：35点</p>						
課題に対するフィードバック	<p>試験の採点後、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、臨床検査と画像診断を復習して臨む</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	腎・泌尿器に関連する障害と治療①	腎・泌尿器系の構造と機能、症状、検査	講義
2	腎・泌尿器に関連する障害と治療②	腎不全など	講義
3	腎・泌尿器に関連する障害と治療③	ネフローゼ症候群	講義
4	腎・泌尿器に関連する障害と治療④	尿路疾患	講義
5	腎・泌尿器に関連する障害と治療⑤	結石、腫瘍	講義
6	運動に関連する障害と治療①	外傷総論	講義
7	運動に関連する障害と治療②	大腿骨頸部骨折	講義
8	運動に関連する障害と治療③	脊椎疾患	講義
9	運動に関連する障害と治療④	変形性関節症	講義
10	運動に関連する障害と治療⑤	手の外科、神経	講義
11	性・生殖に関連する傷害と治療①	女性生殖器の構造と機能	講義
12	性・生殖に関連する傷害と治療②	症状と病態	講義
13	性・生殖に関連する傷害と治療③	診察・検査・治療	講義
14	性・生殖に関連する傷害と治療④	疾患理解 (性分化異常、臓器別疾患、機能的疾患)	講義
15		試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	疾病と治療Ⅳ			担当者	非常勤講師		
	☑ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	病態生理学、脳・神経、皮膚、眼、耳鼻咽喉、歯・口腔（医学書院）						
科目概要	<p>医師・看護師としての実務経験を活かして、学生が疾病をもつ人々に対して、科学的裏付けのある看護を提供するための知識について理解できるように教授する。知的活動（脳・神経）・感覚にかかわる疾病とその検査と治療について解説する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的活動に関連する健康障害と治療について理解できる。</li> <li>2. 感覚に関連する健康障害と治療について理解できる。</li> </ol>						
評価方法	<p>後期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。</p> <p>&lt;配点&gt; 萩原：60点 黒沢：20点 曾我部：10点 鎌田：10点</p>						
課題に対するフィードバック	<p>試験の採点後、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。</p> <p>&lt;配点&gt; 萩原：60点 黒沢：20点 曾我部：10点 鎌田：10点</p>						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、臨床検査と画像診断を復習して臨む						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	知的活動に関連する健康障害①	脳神経系の解剖生理	講義
2	知的活動に関連する健康障害②	病状と病態生理	講義
3	知的活動に関連する健康障害③	〃	講義
4	知的活動に関連する健康障害④	検査と診断	講義
5	知的活動に関連する健康障害⑤	脳血管疾患	講義
6	知的活動に関連する健康障害⑥	脳腫瘍 頭部外傷 感染	講義
7	感覚に関する健康障害①	眼の構造と機能	講義
8	感覚に関する健康障害②	眼の疾患	講義
9	感覚に関する健康障害③	耳鼻咽喉の構造と機能	講義
10	感覚に関する健康障害④	耳鼻咽喉の疾患	講義
11	感覚に関する健康障害⑤	皮膚の構造と疾患	講義
12	感覚に関する健康障害⑥	皮膚疾患	講義
13	感覚に関する健康障害⑦	口腔の構造と機能	講義
14	感覚に関する健康障害⑧	口腔の疾患	講義
15		試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	健康障害の臨床判断		担当者	岩崎 恵理 非常勤講師			
	☑ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	臨床外科看護総論 (医学書院)						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし、学生が解剖生理・病態生理・薬理などの既習の知識を活用して対象の状態変化に気づけるよう、臨床判断の基盤である「気づき」の視点について演習及び解説により知識の統合を図る。						
到達目標	1.臨床判断とは何かを、具体的例を挙げて説明する。 2.KIDUKIの視点をもとに、対象に起こっている病態を判断する。 3.解剖生理や病態生理、薬理など基礎科目の知識を臨床判断に活用することができる。						
評価方法	60点以上得点した者に単位を認定する。筆記試験のほか、発表内容やグループワークでの役割遂行等も含め、合計100点で計算する。 <配点> 岩崎 80点 内藤 20点						
課題に対するフィードバック	試験の採点後、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、臨床検査と画像診断、疾病と治療Ⅰ～Ⅳ、病態生理学、薬理学を中心に、履修済みの科目の復習をしっかりと臨む						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	臨床判断とは	臨床判断とは	講義
2	気づきのトレーニング①	KIDUKI	講義・演習
3	気づきのトレーニング②	KIDUKI	講義・演習
4	身体と病態の理解①	グループワーク 気づきにつながる既習の知識を活用する	講義・演習
5	身体と病態の理解②	グループワーク 気づきにつながる既習の知識を活用する	講義・演習
6	身体と病態の理解③	グループワーク 気づきのアセスメント	講義・演習
7	身体と病態の理解④	グループワーク 学びの共有・カンファレンス	講義・演習
8	試験	まとめ&試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	関係法規		担当者	非常勤講師			
	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	看護関係法令(医学書院)						
科目概要	看護の質を保障するため、看護の基盤となる法律について解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健師助産師看護師法の概要がわかる。</li> <li>2. 医療及び患者を支えるための各種法令の概要がわかる。</li> </ol>						
評価方法	後期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	特になし						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	法の概念と看護 関係法令の歴史	1.法の一般的、基本的事項 2.看護関係法規の歴史的背景 3.厚生行政のしくみ	講義
2	保健師助産師看護師法	1.法の目的及び各職種の定義・試験・各職種の業務 2.学校・養成所 3.医療過誤・その他法律違反について	講義
3	医師法 医療法	1.医師法 2.医療法	講義
4	医療法及び他医療 職種関係法規について	1.医療法 2.関係資格法と保健師助産師看護師法との相違点	講義
5	薬務法	1.薬事法 2.薬剤師法 3.毒物等関係法	講義
6	健康保険法	1.健康保険法・国民健康保険法・各種共済組合法・船員保険法 2.高齢者医療の確保に関する法律 3.介護保険法	講義
7	労働関係法 保健衛生法	1.労働関係法 2.保健衛生法	講義
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	生命倫理			担当者	非常勤講師		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	なし						
科目概要	人間の存在的意義について知るために生命倫理について解説する。						
到達目標	1. 生命倫理の概念を理解する。 2. 医療に関連する倫理的諸問題について理解し自分の考えを述べる。						
評価方法	後期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。 <配点> 大石：50点 出雲：50点						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	特になし						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	生命倫理の概念①	倫理とは、生命・医療倫理の四原則 患者の「尊厳」	講義
2	生命倫理の概念②	インフォームド・コンセントとその背景 原則の倫理	講義
3	生命倫理の概念③	自己決定と代理決定、徳の倫理	講義
4	生命倫理と技術①	生命誕生の意味 —技術の進歩による影響—	講義
5	生命倫理と技術②	生命倫理における問題① (人工授精・人工中絶・出生前診断など)	講義
6	生命倫理と技術③	生命倫理における問題② (人工授精・人工中絶・出生前診断など)	講義
7	生命倫理と技術④	生命倫理における問題③ (遺伝情報の利用と操作、優生思想)	講義
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	2年次
科目名	人間関係論		担当者	非常勤講師			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	人間関係論（医学書院）・教員作成資料 他						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし、援助を必要とする人と良好な人間関係を構築するための基本的な方法について教授する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活の場での人間関係のあり方について説明する。</li> <li>2. 現代社会における人間関係の特徴を説明する。</li> <li>3. 対人関係場面での基本的コミュニケーションスキルを修得する。</li> </ol>						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習の態度と出席数を満たすこと。</li> <li>2. 最終授業時に、レポート作成。</li> </ol>						
課題に対するフィードバック	レポート作成が、不十分な場合は再提出。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	心理学、コミュニケーションスキルの授業を復習して臨む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	自己理解と他者理解	コミュニケーションの基本について復習	講義
2	カウンセリングの基礎	実習中の対人関係を振り返る	講義
3	ストローク①	自他を学ぶ	講義
4	ストローク②	自分と他者の価値観に触れる	講義
5	アサーション①	かかわりを学ぶ 「さわやかな自己表現」	講義 演習
6	アサーション②	かかわりを学ぶ 「他者の体験を聞き、分かち合う」(1)	講義 演習
7	アサーション③	かかわりを学ぶ 「他者の体験を聞き、分かち合う」(2)	講義 演習
8		まとめ	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	ヘルスケアシステムⅠ (公衆衛生)			担当者	非常勤講師		
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	社会保障・社会福祉、 公衆衛生(医学書院)						
科目概要	保健師としての実務経験を活かして、我が国の健康を支えるための保健医療のしくみを解説し、それぞれの場における保健活動について教授する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康を支えるための保健医療のしくみについて理解する。</li> <li>2. それぞれの場における保健活動について理解する。</li> </ol>						
評価方法	前期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	試験の採点後、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	関係法規の復習をして臨む						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	公衆衛生の概念	公衆衛生とは 疫学とは 公衆衛生の変遷	講義
2	健康を支える 保健医療①	現在の公衆衛生システムと政策 WHO	講義
3	健康を支える 保健医療②	現在の公衆衛生システムと政策 厚生労働省	講義
4	健康を支える 保健医療③	現在の公衆衛生システムと政策 県・市町村	講義
5	健康を支える 保健医療④	ヘルスプロモーション	講義
6	それぞれの場 における保健活動①	学校・地域の保健活動	講義
7	それぞれの場 における保健活動②	〃	講義
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	ヘルスケアシステムⅡ (社会福祉)		担当者	非常勤講師			
	☑ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	社会保障・社会福祉、医療福祉総合ガイドブック(医学書院)						
科目概要	社会福祉士としての実務経験を活かし、我が国の社会保障制度のしくみを解説し、保健医療福祉チームにおける看護職の役割と多職種との協働・連携について理解が深まるよう教授する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健医療福祉についての理念、制度、政策の現状、課題、各種施策の方向性について理解する。</li> <li>2. 保健医療福祉チームにおける看護職の役割と多職種との協働や連携について理解する。</li> </ol>						
評価方法	前期末に筆記試験を行う。また、レポートや発表などの結果を点数化し、筆記試験の得点に加減する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	試験の採点後、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	関係法規、ヘルスケアシステムⅠの復習をして臨む						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	概論①	ヘルスケアシステムを学ぶ意義	講義
2	概論②	社会保障・社会福祉とは何か 理念、目的、制度の概要	講義
3	各論①	社会保障制度の発展過程	講義
4	各論②	所得補償を知る 年金制度、社会手当、生活保護制度とその課題	講義
5	各論③	医療保障 医療を取り巻く状況、医療保険制度、公的負担	講義
6	各論④	医療保障 公的負担費、難病対策	講義
7	各論⑤	介護保障 介護保険制度の概要と課題	講義
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	看護学概論			担当者	岩崎 恵理		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	看護学概論（医学書院） 実践に生かす看護理論19（サイオ出版）						
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かし、看護の機能と役割、看護理論や倫理、健康回復過程の基礎を解説する。また、看護から見た健康とは何か、人間とは何かを深く考えることで、看護に興味関心を持ち、「看護職者の倫理綱領」を学ぶことに意義を見出せるよう支援する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.看護の歴史と変遷、ナース-ルやハンダー-ソンの看護、人間の健康について学習し、今後学んでいくべき「看護とは何か」について説明する。</li> <li>2.人間の健康レベルやライフサイクル、基本的欲求を関連付けて考え、看護の対象である人間とは、健康とは何かについて説明する。</li> <li>3.看護実践につながる概念や理論を述べた理論家について調べ学習をもとに、今後求められる看護の役割と機能について説明する。</li> <li>4.上記の学習を通して、看護を行う上で「看護職者の倫理綱領」を学ぶことに意義を見出す。</li> </ol>						
評価方法	<p>授業終了後筆記試験 80点、グループワーク参加状況・提出物 20点 とする。 総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>						
課題に対するフィードバック	<p>試験の採点后、答案を返却する。合格者の学籍番号のみを提示する。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>グループワークや調べ学習を多く出します。期限までに必ず提出できるように注意してください。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	看護とは何か①	看護とは 看護の歴史と変遷（課題として出題）	講義
2	看護とは何か②	看護の主要概念	講義
3	看護とは何か③	ナイチンゲール、ヘンダーソンの看護	講義
4	看護の対象とその理解①	統合体としての人間の理解 マズローの欲求段階説	講義
5	看護の対象とその理解②	健康モデルと予防、健康レベル (急性期・周術期・回復期・慢性期・終末期)	講義
6	看護の対象とその理解③	人間の発達段階（エリクソン・ハウィグ・スト）とライフサイクル	講義
7	看護の対象とその理解④	人間の発達段階（エリクソン・ハウィグ・スト）とライフサイクル（発表）	演習
8	看護の専門的役割	保健・医療・福祉の連携	講義
9	看護の役割と機能	看護の役割、機能、責務 医療機関の機能と役割	講義
10	看護実践における重要な概念と看護理論①	1.看護実践のための看護理論 (広範囲理論・中範囲理論・小範囲理論)	講義 演習
11	看護実践における重要な概念と看護理論②	2.看護実践のための看護理論 (理論家調べ学習)	講義 演習
12	看護実践における重要な概念と看護理論③	3.看護実践のための看護理論 (発表、学びの振り返り)	講義 演習
13	看護と倫理①	1.倫理とは（倫理の原則・患者の権利）	講義
14	看護と倫理②	2.看護学生としての倫理	講義 演習
15	試験		

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	2年次
科目名	看護理論の活用			担当者	佐野 陽子		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会) 実践に生かす看護理論19 (サイオ出版)						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし看護理論を実践に活用する意義およびその方法を解説し、理解を深めるための演習を行う。						
到達目標	1.看護実践上の課題解決に活用可能な理論・概念の特徴を説明する。 2.既存の理論・概念を用いて、看護実践上の問題を明らかにする。 3.看護実践の質向上に向けた看護理論の活用方法を知る						
評価方法	授業態度・提出物・レポート課題・筆記試験を統合的に判断し、合否を決定する。						
課題に対するフィードバック	提出課題を確認し、テーマに関する考察が不十分だと考えられる場合は個別に指導する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	既習教科の復習や実習レポートに目を通し知識や経験の確認をしておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	看護理論の概念	看護理論とは何か 看護学と看護理論の関係	講義
2	看護理論の理解①	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を読み解く	講義・演習
3	看護理論の理解②	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を読み解く	演習
4	看護理論の理解③	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の活用	演習
5	看護理論の理解④	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の理解を深める発表会	演習
6	看護理論の活用①	看護理論の分析	講義・演習
7	看護理論の活用②	それぞれの理論の活用	演習
8	看護理論の活用③	まとめ	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習	
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	2年次	
科目名	看護倫理			担当者	非常勤講師			
	☑ 実務経験のある教員による授業							
使用教材	看護倫理（医学書院）							
科目概要	看護師の実務経験を活かして看護師として遵守すべき看護倫理や看護の考え方について教授する。							
到達目標	1.倫理とは何か、看護における倫理の重要性を説明する。 2.看護師の倫理綱領の意味について事例をもとにして考え述べることができる。 3.医療現場が抱える倫理的課題について考え述べるができる。							
評価方法	レポート課題と筆記試験により評価する。							
課題に対するフィードバック	試験の採点后、答案を返却する。不合格者については、学籍番号のみを提示する。							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	看護学概論の復習をして授業に臨む。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	看護倫理とは①	看護倫理を学ぶ意義	講義
2	看護倫理とは②	看護職の倫理綱領	講義
3	看護職と倫理①	看護職の倫理綱領	講義
4	看護職と倫理②	倫理の原則と患者の権利	講義
5	看護職と倫理③	コンプライアンスとアドヒアランス	講義
6	看護職と倫理④	コンコーダンス、インフォームドコンセント	講義
7	実践への活用	看護における責任	講義
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	3年次
科目名	看護管理		担当者	非常勤講師			
	☑ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	看護管理 (医学書院)						
科目概要	看護管理者としての実務経験を活かして、看護を必要とする人に組織的に最善のケアを提供するための看護管理の知識・技術及び組織における看護や看護管理者の役割について、教授する。						
到達目標	1. 看護管理に必要な基礎的知識・仕組み・機能について説明する。 2. 組織における看護管理者の役割について説明する。						
評価方法	後期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。 < 配点 > 野本：10点 三枝：45点 岩澤：45点						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	看護管理の概念	・看護管理とは ・マネジメントとは ・看護マネジメント	講義
2	看護管理の基礎知識①	・看護業務の実際 看護業務指針 ・チーム医療と看護の役割 ・看護情報活用論	講義
3	看護管理の基礎知識②	・看護組織論 ・看護管理者の役割と倫理 ・看護観の実践	講義
4	望ましい病院、看護部を考える①	・病院の機能・看護部の理念 ・人材・施設・環境設備、物品、情報のマネジメント	講義
5	望ましい病院、看護部を考える②	・組織におけるリスクマネジメント ・医療におけるサービスの質の評価	講義
6	マネジメントに必要な知識と技術	・組織とマネジメント・リーダーシップとマネジメント ・組織の調整・組織と個人	講義
7	看護を取り巻く諸制度	・看護職と法制度・看護職の法的責任、職業倫理 ・看護職の教育制度・看護政策と制度	講義
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	基本技術Ⅰ (看護技術概念、コミュニケーション、バイタルサイン、感染予防)		担当者	滝沢 香苗 (1、15)			
	☐ 実務経験のある教員による授業			近藤 桂子 (7～14) 佐野 陽子 (2～6)			
使用教材	基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 看護がみえる (1) 基礎看護技術 (2) 臨床看護技術 (3) フィジカルアセスメント (メディックメディア)						
科目概要	看護師としての実務経験を活かして、学生が看護技術を学ぶにあたり、初回は、看護における技術概念を教授する。次いで、看護実践能力の基盤となる基本的な看護技術のうち、共通技術である「コミュニケーション」「バイタルサイン測定」「感染予防」について解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の特徴と実践するための要素を述べる。</li> <li>2. コミュニケーション・バイタルサイン測定・感染予防の技術に関する基礎的知識を説明する。</li> <li>3. 効果的コミュニケーションの基本技術を習得する。</li> <li>4. プロセスレコードを用いた看護場面の再構成の基本を習得する。</li> <li>5. 正確にバイタルサインを測定できる。</li> <li>6. 感染予防の技術を習得する。</li> </ol>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術試験、筆記試験、受講態度、レポートを点数化し、評価対象とする。</li> <li>・技術試験は、80%以上を合格とする。</li> <li>・総合的に、60点以上を得点した者に単位を認定する。</li> <li>・評価基準は学科の規定による。</li> </ul> <p>&lt;配点&gt; 佐野：35点 近藤：65点</p>						
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験後、採点結果を返却する。</li> <li>・合格者については、教室に学籍番号を掲示する。</li> </ul>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前、指示された課題を行い、授業に臨む。</li> </ul>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	看護技術とは	1. 看護技術の特徴 2. 看護技術を実践するための要素	講義
2	コミュニケーション①	1. 看護と医療におけるコミュニケーション 2. 関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義 演習
3	コミュニケーション②	3. 効果的なコミュニケーションの実際 1) 傾聴の技術 2) 質問の技術 3) 説明の技術	講義 演習
4	コミュニケーション③	4. アサーティブネス 5. コミュニケーション障害への対応の基本	講義 演習
5	コミュニケーション④	6. プロセスレコードを用いた看護場面の再構成 1) プロセスレコードの基礎知識、再構成の方法	講義 演習
6	コミュニケーション⑤	2) プロセスレコードの自己評価 3) プロセスレコードカンファレンス	講義
7	バイタルサイン①	1. バイタルサイン測定のための目的 2. 血圧測定の基礎知識 3. 聴診器の名称・使い方	講義 演習
8	バイタルサイン②	4. 血圧計名称、マンシェットの選択 5. 血圧測定方法（触診法・聴診法） 6. 自己練習方法説明（課題）	講義 演習
9	バイタルサイン③	1. 体温測定の基礎知識 2. 体温測定方法（腋窩体温）	講義 演習
10	バイタルサイン④	1. 脈拍測定の基礎知識 2. 脈拍測定方法（橈骨動脈測定・心拍同時測定） 3. 左右差の観察方法	演習
11	バイタルサイン⑤	1. 呼吸測定の基礎知識 2. 呼吸測定方法 3. 経皮的酸素飽和度測定の基礎知識と測定方法	講義 演習
12	バイタルサイン⑥	1. 総合事例演習 1) バイタルサイン測定とアセスメント 2) フリーシート記載 3) 実施後の報告	演習
13	感染予防①	1. 感染成立の条件・感染経路の基礎知識 2. 標準予防策・手指衛生・感染経路別予防策	講義 演習
14	感染予防②	1. スタンダードプリコーションに基づく手洗い 2. 個人防護具の選択・着脱	講義
15		試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義・演習	
学科名	看護学科			配当時間	45	対象年次	1年次	
科目名	基本技術Ⅱ (看護過程)			担当者	諏訪 由美子			
	☑ 実務経験のある教員による授業							
使用教材	基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 黒田裕子のしっかり身につく看護過程 (照林社) 実習でよく挙げる看護診断・計画ガイド (照林社)							
科目概要	看護師の実務経験を通して、看護記録の基礎を解説するとともに、対象の諸問題を解決するために看護過程を展開する意義とプロセスを教授する。また、看護過程展開技術を身につけるための演習を行う。							
到達目標	1.看護過程とは何か、看護過程を身につける理由を説明する。 2.事例の対象に関して、アセスメント、看護診断、看護計画を考え、記載する。							
評価方法	提出物により評価する。							
課題に対するフィードバック	提出物を確認し、看護過程の展開についての理解度が低いと考えられる場合は個別に指導する。							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	既習学習を復習をしておくこと。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	看護過程の概念	1. 看護過程とは 2. 看護過程の5つの構成要素 3. 看護過程の利点 4. クリティカルシンキング	講義
2	アセスメント <情報収集>①	1. 情報とは何か 2. 看護場面における情報 3. 看護的な視点を持つ情報	講義
3	看護記録	1. 看護記録とは 2. 記載・管理における留意点 3. 看護記録の構成 4. クリニカルパス	講義
4	アセスメント <情報収集>②	1. どのように情報収集するのか 2. 情報源	講義
5	アセスメント <情報の分析と解釈>①	1. アセスメントとは 2. 解釈、判断、推理・推論という頭脳労働 3. アセスメントの進め方	講義
6	アセスメント <情報の分析と解釈>②	1. 看護的な視点をもつアセスメント 2. 情報の分析のために必要な力	講義
7	事例展開 <アセスメント>①	A 氏のアセスメント	演習
8	事例展開 <アセスメント>②	〃	演習
9	事例展開 <アセスメント>③	〃	演習
10	事例展開 <アセスメント>④	〃	演習
11	事例展開 <アセスメント>⑤	〃	演習
12	事例展開 <アセスメント>⑥	〃	演習
13	事例展開 <アセスメント>⑦	〃	演習
14	看護診断 <問題の明確化>	1. 全体像の描写 2. 関連図 3. 関連図の書き方	講義
15	看護診断	1. 看護診断とは 2. 看護診断のタイプ 3. NANND-Iについて 4. 優先順位 5. 医療問題（共同問題） 6. 看護診断リストの記載	講義

回	単元	内容	備考
16	看護計画立案	1. 期待される結果 2. 期待される結果(長期目標) 2. 介入計画	講義
17	事例展開 <関連図、診断リスト>①	A氏の関連図、診断リスト	演習
18	事例展開 <関連図、診断リスト>②	〃	演習
19	事例展開 <関連図、診断リスト>③	〃	演習
20	事例展開 <看護計画立案>①	A氏の看護計画立案	演習
21	事例展開 <看護計画立案>②	〃	演習
22	計画発表	発表	演習
23	実施・評価	1. 実施 2. 評価 3. 再査定とは 4. 評価の書き方	講義
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

<b>履修区分</b>	必修	<b>単位数</b>	1	<b>開講時期</b>	後期	<b>形態</b>	講義・演習	
<b>学科名</b>	看護学科				<b>配当時間</b>	30	<b>対象年次</b>	1年次
<b>科目名</b>	基本技術Ⅲ (フィジカルアセスメント)			<b>担当者</b>	滝沢 香苗			
	☐ 実務経験のある教員による授業							
<b>使用教材</b>	基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 看護がみえる (1) 基礎看護技術 (2) 臨床看護技術 (3) フィジカルアセスメント (メディックメディア)							
<b>科目概要</b>	さまざまな健康レベルにある人に、適切な援助を実施するため、看護の視点から身体の状態を客観的に把握する意義と技術について教授する。看護師としての実務経験を活かし、フィジカルイグザミネーションの手順や留意点について解説し、ケアにつなげるフィジカルアセスメントについて講義する。							
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護を实践するうえでのフィジカルアセスメントの意義について説明する。</li> <li>2. 呼吸器系・循環器系・脳神経系・運動神経・腹部のアセスメントの基礎的知識を説明する。</li> <li>3. 解剖生理の知識を基に、系統別フィジカルアセスメントの基本技術を説明する。</li> <li>4. 2・3を適用し、フィジカルアセスメントができる。</li> <li>5. 呼吸を整える技術の基礎的知識について説明する。</li> </ol>							
<b>評価方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験、受講態度、レポートを点数化し、評価対象とする。</li> <li>・60点以上を得点した者に単位を認定する。</li> <li>・評価基準は学科の規定による</li> </ul>							
<b>課題に対するフィードバック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験後、採点結果を返却する。</li> <li>・合格者については、教室に学籍番号を掲示する。</li> </ul>							
<b>履修要件 (準備学習の具体的な内容)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前、指示された課題を行い、授業に臨む。</li> </ul>							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	フィジカルアセスメント	問診・視診の基本的知識 触診・打診 聴診の基礎知識	講義
2	呼吸器系のアセスメント ①	目的・呼吸の仕組み（解剖） 呼吸音聴取部位・正常音・ 観察項目 異常呼吸音	講義
3	呼吸器系のアセスメント ②	呼吸音聴取方法 自己練習説明	演習
4	呼吸を整える技術 ①	排痰援助の基礎知識 体位ドレナージ・吸入療法	講義 演習
5	呼吸を整える技術 ②	吸引の基礎知識 吸引（口腔吸引・鼻腔吸引・開放式気管吸引）	講義
6	呼吸を整える技術 ③	口腔・鼻腔吸引 開放式気管吸引	演習
7	呼吸を整える技術 ④	酸素吸入療法の基礎知識 酸素ボンベ残量計算	講義
8	循環器系のアセスメント ①	目的・循環器の仕組み（体循環・肺循環） 心音聴取部位・観察事項・Ⅰ音 Ⅱ音	講義 演習
9	循環器系のアセスメント ②	心音聴取（正常・異常） 自己練習方法（課題）	演習
10	循環器系のアセスメント ③	末梢循環系のアセスメントの基礎知識 浮腫・チアノーゼ・アレンテスト・ホーマンズ 徴候	講義 演習
11	腹部のアセスメント ①	目的・腹部の解剖 腹部体表区分（4区分・9区分） 観察事項・アセスメントの順番・測定時の体位	講義 演習
12	腹部のアセスメント ②	腹水の観察・腹囲測定・腸蠕動音の聴取 打診法・触診法 （マクハーンネ点・ランツ点・ブルベルグ 徴候・筋性防御）	講義 演習
13	脳神経系のアセスメント	意識のアセスメント目的・見当識障害・JCS・GCS 瞳孔反射	講義 演習
14	運動神経のアセスメント 反射のアセスメント	麻痺のスクリーニング 検査（上肢バレー徴候・下肢バレー徴候） 腱反射	演習 演習
15	試験	試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			担当時間	30	対象年次	1年次
科目名	生活援助技術Ⅰ (環境・活動と休息)			担当者	石澤 美千代 (1～5) 福永 紫乃 (6～9) 近藤 桂子 (10～12) 高木 道代 (13～15)		
	■ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護がみえる (メ'ックメ'イア)						
科目概要	1.看護師としての実務経験を活かし、患者にとって安全で快適な生活環境を整えるための援助方法を解説し、環境調整の意義と看護の役割を教授する。 2.看護師の実務経験を通して、患者にとって安全・安楽・自立に向けた活動・休息の意義と看護の役割を教授する。						
到達目標	1.環境因子が人間に及ぼす影響を説明する。 2.療養環境の調整に対する看護師の役割を認める。 3.環境整備・リネン交換・ベッドメイキングを正確に実施する。 4.人間にとっての活動の意義と不活動状態による心身の状態を説明する。 5.体位変換・移動移送を安全に行う為の知識を認め、安全・安楽・自立に配慮し正確に実施する。 6.安楽をもたらすための知識を認め、安楽・正確に実施する必要性を認める。						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術試験、筆記試験、受講態度、レポートを点数化し、評価対象とする。</li> <li>・ 技術試験は80点以上を合格点にする。</li> <li>・ 総合的に、60点以上を得点した者に単位を認定する。</li> <li>・ 評価基準は学科の規定による。</li> </ul> 石澤：35 福永：30 近藤：20 高木：15						
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験後、採点結果を返却する。</li> <li>・ 合格者については、教室に学籍番号を掲示する。</li> </ul>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業前、指示された課題を行い、授業に臨む。</li> </ul>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	人間と環境	人間と環境	講義
2	療養環境を整える技術①	環境調整に対する看護の役割 療養環境のアセスメント・環境整備	講義
3	療養環境を整える技術②	ベッドメイキング (シーツの使用方法・たたみ方・オープンベッド作成)	講義・演習
4	療養環境を整える技術③	ベッドメイキング	講義・演習
5	療養環境を整える技術④	臥床患者のシーツ交換	講義
6	活動と休息の意義	1) 人間にとっての「活動」「休息」の意義について 2) ボディメカニクスの原則・自然な動作 3) 体位変換の目的・ポジショニング・廃用症候群の観察	講義・演習
7	活動を促すための援助 体位変換①	①水平移動(単独・複数・スライディングシート) ②上方移動(単独・複数・スライディングシート)	講義・演習
8	体位変換②	③仰臥位⇔側臥位(膝関節屈曲・屈曲不可・半身麻痺) ④仰臥位⇔長坐位(部分・前介助)	講義・演習
9	体位変換③	⑤仰臥位⇔端坐位(部分・全介助) ⑥端坐位⇔車椅子 ①～⑥一連の流れ	講義・演習
10	移動①	車いすの構造と各部の名称・使用前の具体的確認方法 ⑦車いすの移送(段差・坂道・エレベーター)	講義・演習
11	移動②	ストレッチャーの構造と各部の名称・使用前の確認方法 ⑧ストレッチャーの移動	講義・演習
12	休息をもたらすための援助	リラクゼーション 睡眠	講義・演習
13	電法①	電法の基礎知識	講義・演習
14	電法②	冷電法・温電法	講義・演習
15	試験	試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	生活援助技術Ⅱ (食事・排泄)		担当者	滝沢 香苗 (4～9) 高木 道代 (1～3)			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護がみえる (1) 基礎看護技術 (2) 臨床看護技術 (メディックメディア)						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし、人間にとって健康の維持・生命の維持・生活の質の向上のために不可欠な食事・排泄について講義する。また、食事・排泄の意義を理解して、安全で快適な生活を支援するための援助技術について指導する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養状態および食欲・摂食能力をアセスメントする。</li> <li>2. 対象に合わせた食事摂取の援助を実践する。</li> <li>3. 排泄のアセスメントを行い、排泄の援助方法を選択する。</li> <li>4. 自然排泄の援助を手順に従って実践する。</li> <li>5. 導尿・浣腸の援助方法を理解する。</li> </ol>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験、受講態度、レポートを点数化し、評価対象とする。・総合的に、60点以上を得点した者に単位を認定する。</li> <li>・評価基準は学科の規定による。</li> </ul> 滝沢：60 高木：40						
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験後、採点結果を返却する。</li> <li>・合格者については、教室に学籍番号を掲示する。</li> </ul>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前、指示された課題を行い、授業に臨む。</li> </ul>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	食事援助の基礎知識	1. 食事援助の基礎知識 2. 摂食・嚥下訓練	講義
2	食事援助の基礎知識	1. 食事援助の方法 2. 非経口の栄養摂取の援助 ①経鼻経管栄養 ②中心静脈栄養	講義・演習
3	食事援助の実際	1. 食事援助の実際	演習
4	自然排泄の基礎知識	1. 自然排尿・排便の基礎知識 2. 自然排尿・排便援助の実際 ①トイレ・ポータブルトイレでの排泄援助	講義・演習
5	床上排泄援助	1. 自然排尿・排便援助の実際 ②尿器・便器での排泄援助 ③おむつによる排泄援助	講義・演習
6	導尿 1	1. 一時的導尿 2. 持続的導尿	講義・演習
7	導尿 2	1. 一時的導尿	演習
8	排便を促す援助	1. グリセリン浣腸 2. 摘便	講義・演習
9	試験	試験	
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	生活援助技術Ⅲ (清潔)			担当者	滝沢 香苗 (1~13、16) 金子 聖美 (14、15)		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護がみえる (1) 基礎看護技術 (2) 臨床看護技術 (メディックメディア)						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし、清潔が身体・精神・社会に及ぼす影響と清潔保持における基礎的知識について講義する。また、健康が障害され清潔を保つことができない対象に必要な援助技術について指導する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとっての衣生活・清潔の意義を述べる。</li> <li>2. 人間にとっての清潔援助の効果と全身への影響を述べる。</li> <li>3. 安全・安楽に寝衣交換・全身清拭・陰部洗浄の援助を実践する。</li> <li>4. 安全・安楽に足浴の援助を実践する。</li> <li>5. 安全・安楽に洗髪の実践する。</li> <li>6. 整容の目的と手順を述べる。</li> <li>7. 清潔援助を受ける患者の心理を考える。</li> </ol>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験、受講態度、レポートを点数化し、評価対象とする。・総合的に、60点以上を得点した者に単位を認定する。</li> <li>・評価基準は学科の規定による。</li> </ul>						
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験後、採点結果を返却する。</li> <li>・合格者については、教室に学籍番号を掲示する。</li> </ul>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前、指示された課題を行い、授業に臨む。</li> </ul>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	清潔援助の概要	1. 清潔援助の基礎知識	講義
2	寝衣交換	1. 寝衣交換の基礎知識 2. 点滴を行っている場合の寝衣交換	講義・演習
3	清拭1	1. 全身清拭の基礎的知識 2. 全身清拭の実施方法	講義
4	清拭2	1. 臥床患者の清拭・寝衣交換の援助計画	講義・演習
5	清拭3	1. 臥床患者の清拭・寝衣交換（全身）	演習
6	清拭4		
7	陰部洗浄1	1. 陰部洗浄の基礎的知識 2. 陰部洗浄の実施方法	講義
8	陰部洗浄2	1. 陰部洗浄演習	演習
9	部分浴の基礎知識	1. 手浴・足浴の清潔援助の基礎知識	講義
10	部分浴の実際	1. ベッド上での足浴の援助方法	演習
11	洗髪の基礎知識	1. 臥床患者の洗髪の基礎知識	講義
12	洗髪の実際1	1. 洗髪の援助方法 ①ケリーパッド ②洗髪車 ③洗髪台	演習
13	洗髪の実際2		
14	口腔ケア1	1. 口腔ケア	講義・演習
15	口腔ケア2		

回	単元	内容	備考
16	試験	試験	
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	診療に伴う看護技術 (創傷処置・与薬)		担当者	佐野 陽子 (1～10、15) 田崎 隆将 (11～14)			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	基礎看護技術Ⅱ、臨床看護総論 (医学書院) 看護がみえる (1) 基礎看護技術 (2) 臨床看護技術 (メディックメディア)						
科目概要	看護師としての実務経験をいかし、看護師の役割である「診療の補助」にかかわる基礎的技術と、臨床工学士としての実務経験をいかし、医療機器に関する知識を教授し、学生が対象の健康状態を正確に判断し、適切な「診療の伴う看護技術」を安全・安楽に実施するための基礎的能力を身につけるための支援を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.対象に必要な治療や処置における看護技術の基本的な手技を説明する。</li> <li>2.医療機器の目的と使用方法について説明する。</li> <li>3.対象に必要な看護技術を習得するために自発的に行動する。</li> <li>4.医療機器の安全な操作方法を習得するために自発的に行動する。</li> <li>5.医療の現場を想定し、看護技術を安全に、正確に実施する。</li> <li>6.手順に基づいて、医療機器を正確に操作する。</li> </ol>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術試験、筆記試験、受講態度、レポートを点数化し、評価対象とする。</li> <li>・技術試験は、80%以上を合格とする。</li> <li>・総合的に60点以上を得点した者に単位を認定する。</li> <li>・評価基準は学科の規定による。</li> </ul> <p>&lt;配点&gt; 佐野：70点 田崎：30点</p>						
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験後、採点結果を返却する。</li> <li>・合格者については、教室に学籍番号を掲示する。</li> </ul>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	授業前に指示された課題を行い、授業に臨む。						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	与薬	与薬に関する基礎知識	講義
2	注射①	注射法に関する基礎知識 注射の準備の実際	講義・演習
3	注射②	筋肉内注射、皮下注射、皮内注射	講義・演習
4	注射③	筋肉内注射の実際（モデル）	演習
5	注射④	静脈路確保 点滴静脈内注射の管理（モデル）	講義・演習
6	採血①	採血の種類、静脈血採血に関する基礎知識	講義・演習
7	採血②	静脈血採血の実際（モデル）	講義・演習
8	輸血	輸血に関する基礎知識、輸血の管理	講義・演習
9	創傷管理①	創傷管理の基礎知識、創傷処置（褥瘡含む）	講義・演習
10	創傷管理②	包帯法（巻軸帯・三角巾）	講義・演習
11	医療機器の原理と実際①	心電図の基礎知識 （モニター心電図、十二誘導、ホルター）	講義・演習
12	医療機器の原理と実際②	人工呼吸器、非侵襲的陽圧換気の基礎知識	講義・演習
13	医療機器の原理と実際③	輸液ポンプ、シリンジポンプの基礎知識	講義・演習
14	医療機器の原理と実際④	血液透析、腹膜透析の基礎知識	講義・演習
15	試験	試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	看護技術開発論Ⅰ		担当者	淀川 竜也			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	基礎看護技術Ⅱ、臨床看護総論、救急看護（医学書院） 看護がみえる（1）基礎看護技術（2）臨床看護技術（メディックメディア） （3）フィジカルアセスメント（メディックメディア）						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし、身体を損傷した事例をもとに、学生に一次救命の方法を指導する。また、不調の原因を考察し、どのように対処すべきかを倫理的視点・法的視点・道徳的視点から考え対象に最も必要とされる看護援助を安全安楽に実施するための方法を検討する演習を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>救命が必要な対象の状態観察を行い、アセスメントする。</li> <li>倫理的視点・法的視点・道徳的視点から、対象に必要なとされる援助を考える。</li> <li>対象に必要な看護援助を安全安楽に実施するための方法を考え実施する。</li> </ol>						
評価方法	後期に筆記試験を行う。また、受講態度やレポートを点数化し評価対象とする。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については、学科の規定による。						
課題に対するフィードバック	試験後、採点結果を返却する。合格者については、教室に学籍番号を掲示する。						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	事前に配付した演習シートで学習し、演習に臨む。						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	対象を理解する①	対象の状態を正確に理解するために	講義
2	対象を理解する②	救命のための倫理的視点・法的視点・道徳的視点	講義
3	対象を理解する③	事例提示・BLS演習	演習
4	対象を理解する④	BLS演習	演習
5	対象を理解する⑤	BLS演習	演習
6	対象を理解する⑥	BLS演習	演習
7	必要な援助を考える①	事例提示・グループワーク	演習
8	必要な援助を考える②	グループワーク	演習
9	必要な援助を考える③	グループワーク	演習
10	必要な援助を考える④	グループワーク	演習
11	技術検討会①	1. グループで担当した場面の援助を発表する。 2. 全体討議で援助技術は適切であったかを検討する	演習
12	技術検討会②		演習
13	技術検討会③		演習
14	振り返り	行った看護技術を振り返り、改善点などを考える	演習
15		試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	3年次
科目名	看護技術開発論Ⅱ			担当者	諏訪 由美子		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	3年次までに使用したテキスト（参考テキストとして）						
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かし、学生が、研究された成果と対象の健康状態をもとに、よりよい看護技術を提供するために看護技術を創意工夫し、創造した技術、あるいは改善した技術とその科学的根拠をまとめられるように指導する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.既習の看護技術について、よりよい技術の提供をするために、グループで意見交換のもとテーマを決定し、看護研究論文を活用し、技術を創意工夫、あるいは創造する。</li> <li>2.上記の研究成果をパワーポイントおよび実演にて発表する。</li> <li>3.看護の専門職として、よりよい看護を提供するために最新の知識および技術を意欲的に、主体的に学ぶことに意義を認める。</li> </ol>						
評価方法	グループワークや発表での積極性、協調性、意欲・態度、提出資料の内容、見やすさなどを基に総合的に評価する。						
課題に対するフィードバック	発表後、クラス内で講評を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	看護技術学、情報科学の授業を基本とし、既習の科目をしっかり復習をして臨む。						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	テーマの決定	テーマの決定 概要の説明	演習
2	看護技術開発①	研究・文献検索とその活用、グループワーク	演習
3	看護技術開発②	研究・文献検索とその活用、グループワーク	演習
4	看護技術開発③	研究・文献検索とその活用、グループワーク	演習
5	看護技術開発④	研究・文献検索とその活用、グループワーク	演習
6	看護技術発表①	援助発表会（パワーポイント・実演）	演習
7	看護技術発表②	援助発表会（パワーポイント・実演）	演習
8	看護技術発表③	援助発表会（パワーポイント・実演） 講評	演習
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	3年次
科目名	統合技術 (ICLS)		担当者	野本 悦子 (1~7) 鈴木 俊彦 (8~15)			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	看護学総論、基礎看護技術Ⅱ、臨床看護技術 (医学書院) 看護がみえる (メディックメディア)						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし、医療現場を想定、多重課題の中で看護の優先順位を決定し、対象にとって必要な看護を円滑に実施するための判断力や状況把握力を養う。また、対象の急激な状態変化に対応するために、救急救命士としての実務経験を活かし、ICLSの実際と緊急時の看護行為の根拠と目的を理解できるよう説明する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多重課題、突発事項に対する対応について考察する。</li> <li>2. 患者安全や時間管理、優先度などの状況を考えた看護を提供する。</li> <li>3. 急変時のICLSを学び、急変時の看護行為を安全に実践する。</li> <li>4. ICLSの学習を通して、行った看護行為の根拠や目的を明確に述べる。</li> <li>5. 今後 (統合実習) における個々の課題を明確にする。</li> </ol>						
評価方法	<p>授業・演習の参加状況を40点、課題の提出、評価を60点とする。総合得点60点以上を単位習得とし、成績評定、成績表示は学科の規程による。</p> <p>&lt;配点&gt; 野本：50点      鈴木：50点</p>						
課題に対するフィードバック	課題等提出物はコメントを記入し本人に返却する。不合格者は、担任をとおして通知する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	基礎分野、専門分野、専門基礎分野を修得していること、および専門分野Ⅰ・Ⅱを含むこれまで学習したことが基盤となる。						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	看護の統合と実践とは	①看護観②「卒業時到達目標」「社会人基本力」③統合技術演習のオリエンテーション	講義
2	多重課題への対応①	「よくある場面から学ぶ」予定変更1 グループ演習・全体ディスカッション	講義・演習
3	多重課題への対応②	予定変更2 グループ演習・全体ディスカッション	講義・演習
4	多重課題への対応③	複数の行為1 グループ演習・全体ディスカッション	講義・演習
5	多重課題への対応④⑤	複数人とのかかわり1 2 グループ演習・全体ディスカッション	講義・演習
6	多重課題への対応（実践）	2事例受け待ち患者看護の行動計画と突発事項への対応	講義・演習
7	統合実習に向けて私の課題	科目目標に沿って自身の到達度と今後の目標・課題についてレポート作成	講義・演習
8	ICLSについて	ICLSの概要・実際の活動 心停止4つの波形の理解	講義・演習
9	一次救命処置	一次救命処置の実際 安全に配慮した一次救命処置	演習
10	気道管理	酸素投与・バックバルブマスクの使用 気管挿管および介助	演習
11	除細動	マニュアル式除細動の使用法	演習
12	輸液経路	輸液経路・薬剤投与	演習
13	シナリオステーション①	シナリオステーション	演習
14	シナリオステーション②	シナリオステーション	演習
15	まとめ	演習から学んだこと・レポート作成	演習

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	実習
学科名	看護学科			配当時間	7	対象年次	1年次
科目名	基礎看護学実習Ⅰ-1			担当者	滝沢 香苗		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	DVD等適宜用意する						
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かし、臨地実習にて実習病院・看護部の理念と、そこで働く人々や対象の生活環境について学べるよう支援する。また、その病院の持つ機能と役割について学生の理解が進むよう補足説明する。既習の知識・技術・態度を用いて対象とかかわり、日常生活援助を安全に実施するとともに、健康障害を持つ対象に関心を寄せ、看護を志す学生としての基本的な姿勢・態度を習得できるよう支援する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.病院理念と看護部の理念から、その病院が対象や地域医療などに果たしている役割を理解する。</li> <li>2.病院で働く医療従事者の種類とその活動を理解する。</li> <li>3.療養生活を送る対象の環境について調査し、環境が対象に与える影響について考える。</li> <li>4.実習全体を通して、看護師になるために必要な姿勢や態度について考察する。</li> </ol>						
評価方法	<p>成績評価を受ける資格は、所定時間数の6分の5以上の出席とする。  実習評価は、実習要綱のルーブリックにより総合的に行う。  基礎看護学実習Ⅰ-1（10点）と基礎看護学実習Ⅰ-2（90点）合計100点とし、総合して評価する。</p>						
課題に対するフィードバック	実習評価に基づいて面談を実施し、次回の実習に生かせるようにする。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習要綱を熟読し、その内容を理解し目標を持って実習に臨む。</li> <li>2. 事前学習の課題を学習ノートにまとめ、活用できるよう準備する。</li> </ol>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	基礎看護学実習Ⅰ-1	実習の心得(DVD)	学内
2	基礎看護学実習Ⅰ-1	全体オリエンテーション	学内
3	基礎看護学実習Ⅰ-1	病院見学（病院理念・看護部理念の確認、病院における多職種の確認、看護の対象の療養環境の調査、等）	臨地
4	基礎看護学実習Ⅰ-1	見学実習のまとめ	学内
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	実習	
学科名	看護学科			配当時間	38	対象年次	1年次	
科目名	基礎看護学実習Ⅰ-2			担当者	滝沢 香苗			
	☐ 実務経験のある教員による授業							
使用教材	看護技術、フィジカルアセスメント等に関連する文献、解剖生理学、成人看護学、薬理学、臨床検査のテキスト等							
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かし、臨地実習にて実習病院・看護部の理念と、そこで働く人々や対象の生活環境を知ること、その病院の持つ機能と役割について理解が深まるよう説明する。また既習の知識・技術・態度を用いて対象とかわり、日常生活援助を安全に実施するとともに、健康障害を持つ対象に関心を寄せ、看護を志す学生としての基本的な姿勢・態度を習得できるよう支援する。</p> <p>臨地実習 7時間×4日 学内実習 10時間</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)看護実践の場面に適した行動がとれる。</li> <li>2)対象の身体的状況を把握するために、フィジカルアセスメントを実施する。</li> <li>3)対象の日常生活状況を査定し、必要な日常生活援助計画を立案する。</li> <li>4)対象に必要な日常生活援助を根拠に基づいて安全・安楽に実施する。</li> <li>5)実習全体を通して、看護を志す学生としての基本的な態度を習得する。</li> </ol>							
評価方法	<p>成績評価を受ける資格は、所定時間数の6分の5以上の出席とする。</p> <p>実習評価は、実習要綱のルーブリックにより総合的に行う。</p> <p>基礎看護学実習Ⅰ-1（10点）と基礎看護学実習Ⅰ-2（90点）合計100点とし、総合して評価する。</p>							
課題に対するフィードバック	実習評価に基づいて面談を実施し、次回の実習に生かせるようにする。							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習要綱を熟読し、その内容を理解し目標を持って実習に臨む。</li> <li>2. 事前学習の課題を学習ノートにまとめ、活用できるよう準備する。</li> <li>3. 既習の日常生活援助技術をまとめ、必要技術を身につけて臨む。</li> </ol>							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	基礎看護学実習Ⅰ-2	実習概要オリエンテーション①・事前学習	学内
2	基礎看護学実習Ⅰ-2	実習概要オリエンテーション②・事前学習	学内
3	基礎看護学実習Ⅰ-2	病棟別オリエンテーション	学内
4	基礎看護学実習Ⅰ-2	グループ別事前学習	学内
5	基礎看護学実習Ⅰ-2	看護実践	臨地
6	基礎看護学実習Ⅰ-2	看護実践	臨地
7	基礎看護学実習Ⅰ-2	看護実践	臨地
8	基礎看護学実習Ⅰ-2	看護実践	臨地
9	基礎看護学実習Ⅰ-2	学習のまとめ	学内
10	基礎看護学実習Ⅰ-2	評価面談	学内
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	実習
学科名	看護学科			配当時間	90	対象年次	2年次
科目名	基礎看護学実習Ⅱ			担当者	諏訪 由美子		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	看護技術、フィジカルアセスメント等に関連する文献、解剖生理学、成人看護学、薬理学、臨床検査のテキスト、看護過程展開に関する文献等						
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かして、病院で療養生活を行う対象の個別の健康問題を考え、解決していく方法を看護過程の展開を通して考えていけるよう支援する。また、実習での学び方や自己の学習の仕方を身につけられるよう支援する。</p> <p>臨地実習 7.0時間×8日      学内実習 34時間</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習目的・目標を達成するために必要な学習を実施し実習に臨む。</li> <li>2. 対象の健康問題・健康課題について看護過程の展開を通して、看護を実践する。</li> <li>3. 倫理的配慮をもって対象に必要な援助を安全・安楽に実施する。</li> <li>4. 看護実践の場面に適した行動を取る。</li> <li>5. 実習を振り返り、自己の成長を確認する。</li> </ol>						
評価方法	<p>成績評価を受ける資格は、所定時間数の6分の5以上の出席とする。</p> <p>実習評価は、実習要綱のルーブリックにより総合的に行う。</p>						
課題に対するフィードバック	実習評価に基づいて面談を実施し、次回の実習に生かせるようにする。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習要綱を熟読し、その内容を理解し目標を持って実習に臨む。</li> <li>2. 基本技術Ⅱで学習した看護過程の展開の技術を用いて看護を実践していく。</li> </ol>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	基礎看護学実習Ⅱ	全体オリエンテーション、事前学習	学内
2	基礎看護学実習Ⅱ	フロアオリエンテーション、事前学習	学内
3	基礎看護学実習Ⅱ	病棟オリエンテーション・受け持ち患者決定	臨地
4	基礎看護学実習Ⅱ	看護実践	臨地
5	基礎看護学実習Ⅱ	看護過程記録の整理	学内
6	基礎看護学実習Ⅱ	看護実践	臨地
7	基礎看護学実習Ⅱ	看護実践	臨地
8	基礎看護学実習Ⅱ	看護実践(中間カンファレンス)	臨地
9	基礎看護学実習Ⅱ	看護実践(中間カンファレンス)	臨地
10	基礎看護学実習Ⅱ	看護実践(中間カンファレンス)	臨地
11	基礎看護学実習Ⅱ	看護実践	臨地
12	基礎看護学実習Ⅱ	学習成果のまとめふり返し	学内
13	基礎看護学実習Ⅱ	自己の成長、自己の課題	学内
14	基礎看護学実習Ⅱ	評価面談	学内
15			

<b>履修区分</b>	必修	<b>単位数</b>	2	<b>開講時期</b>	前期	<b>形態</b>	実習
<b>学科名</b>	看護学科			<b>配当時間</b>	90	<b>対象年次</b>	3年次
<b>科目名</b>	統合実習		<b>担当者</b>	佐野 陽子			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
<b>使用教材</b>	看護管理 (医学書院)						
<b>科目概要</b>	<p>看護師としての実務経験を活かして、看護管理や看護専門職としての役割を理解し、看護チームの一員として他部門との連携の実際を知るとともに、多重課題への対応の能力を身につけられるよう支援する。また、現在に至る自己の成長を認識し、現時点での看護観を言語化するための支援も行う。</p> <p>臨地実習 7.5時間×8日(60時間)      学内実習 30時間</p>						
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.病院組織の看護部における看護管理の実際を理解する。</li> <li>2.医療・看護チームにおける業務の調整、他職種・他部門との連携の実際を理解する。</li> <li>3.複数の患者を受け持ち、看護チームの一員として看護を実践する。</li> <li>4.実習病棟における医療安全対策、災害・防災対策の実際を理解する。</li> <li>5.3年間の学習を通じた現在の自分の看護観を言語化する</li> </ol>						
<b>評価方法</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①成績評価を受ける資格は、所定時間数の6分の5以上の出席とする。</li> <li>②実習評価は、実習要綱のルーブリック、レポート、ポストテストにより総合的に行う。</li> <li>③詳細については、実習要項の実習評価表を参照。</li> </ol>						
<b>課題に対するフィードバック</b>	実習評価に基づいて面談を実施し、その後の学習に生かせるようにする。						
<b>履修要件(準備学習の具体的な内容)</b>	実習要綱を熟読し、その内容を理解し、目標を持って実習に臨む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	統合実習	実習オリエンテーション 事前課題 事前学習	学内
2	統合実習	フロアオリエンテーション プレテスト、事前学習、技術練習	学内
3	統合実習	管理実習① 看護部 医療安全管理室 地域連携室	臨地
4	統合実習	管理実習② 所属長業務、リーダー業務、メンバー業務	臨地
5	統合実習	管理実習③ 所属長業務、リーダー業務、メンバー業務	臨地
6	統合実習	管理実習④ 所属長業務、リーダー業務、メンバー業務	臨地
7	統合実習	学習のまとめ 複数患者受け持ち実習の準備	学内
8	統合実習	複数患者受け持ち実習① 患者決定・情報収集	臨地
9	統合実習	複数患者受け持ち実習② 看護実践	臨地
10	統合実習	複数患者受け持ち実習③ 看護実践	臨地
11	統合実習	複数患者受け持ち実習④ 看護実践 病棟最終カンファレンス	臨地
12	統合実習	実習のまとめ 看護ラベルワーク、示説による発表準備	学内
13	統合実習	実習のまとめ 「私の看護観」発表会	学内
14	統合実習	実習評価 ポストテスト	学内
15			

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	45	対象年次	2年次
科目名	急性期と看護			担当者	淀川竜也 金子久美子 大屋真由美 福永紫乃 近藤桂子 非常勤講師		
	□ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	成人看護学総論、臨床外科看護総論、精神看護の基礎①精神看護の展開②、母性看護学各論15～18、 小児看護学概論・総論、小児看護学各論、老年看護学、老年看護 病態・疾患論（医学書院）						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし、学生が健康回復過程における急性期の症状・治療・経過やライフサイクルの特徴をもとに全人的看護を考え、実践していくための基盤となる知識と技術を身につけられるよう講義する。時には死に直結する急激な健康状態の変化や危機的状況に応じて、意思決定を迫られる対象や家族の心理的状況を理解するために、ライフサイクルの多様な事例を用いて解説する。また、対象の多様性に応じた多職種との連携の中で専門性を発揮できるよう指導する。						
到達目標	1.急性期の危機的状況にある対象の特徴とその看護について、危機理論を使って説明する。 2.救命救急や集中治療室における対象およびその家族の特徴と看護について説明する。 3.様々なライフサイクルにおける、健康の急激な破綻による急性期の危機的状況にある人たちの看護について説明する。 4.急性期の対象を全人的にとらえ、回復に導く援助を行うために多職種連携の中で看護を行うことに意義を認める。						
評価方法	試験結果および提出物・授業態度などを含め総合的に評価し、60点以上を合格とする。 <配点> 淀川：10点 金子：20点 川村：15点 内藤：10点 清水：5点 大屋：5点 福永：5点 近藤：20点 岩崎：10点 計100点						
課題に対するフィードバック	試験採点后、採点結果を掲示する。問題用紙、および答案用紙は返却しないが、正答率に応じて問題解説を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	初回講義時に説明する。 各領域の「概論」、「健康障害と看護」「技術と実践」等の既習の科目を復習して臨む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	急性期にある対象の理解と看護（成人期）①	科目のガイダンス 急性期の看護と臨床判断 健康の急激な破綻	講義
2	急性期にある対象の理解と看護（成人期）②	急性期の危機的状況にある人の看護 危機理論（フィンク）	講義
3	急性期にある対象の理解と看護（成人期）③	急性期の判断 （ショック、炎症、熱中症、外傷、他）	講義
4	急性期にある対象の理解と看護（成人期）④	急性期の判断 （循環障害、中毒、熱傷、凍傷、他）	講義
5	急性期にある対象の理解と看護（成人期）⑤	急性期にある対象とその家族への看護	講義
6	救急医療における看護①	救急医療を必要とする人々	講義
7	救急医療における看護②	救急看護、救急における家族の看護	講義
8	救急医療における看護③	クリティカルケア	講義
9	救急医療における看護④	集中治療中下における家族の看護	講義
10	救急医療における看護（老年）⑤	認知症を持った高齢者の救急看護	講義
11	急性期における高齢者の看護（老年）①	高齢者の診察・検査・入院・行動制限①	講義
12	急性期における高齢者の看護（老年）②	高齢者の診察・検査・入院・行動制限②	講義・演習
13	急性期における小児の理解と看護①	救急医療を必要とする小児 事故（溺水、火傷、誤飲等）、虐待、先天性疾患	講義
14	急性期における小児の理解と看護②	急性期から回復期への看護と連携	講義
15	妊娠期の異常	妊婦にみられる異常	講義

回	単元	内容	備考
16	分娩期の異常	産婦にみられる異常	講義
17	新生児期の異常①	新生児にみられる異常	講義
18	新生児期の異常②	新生児にみられる異常	講義
19	急性期にある対象の理解と 看護（精神）①	入院時・入院直後の対象の特徴 安全管理と倫理的配慮	講義
20	急性期にある対象の理解と 看護（精神）②	治療環境 看護の視点	講義
21	急性期にある対象の理解と 看護（精神）③	セルフケアの援助	講義・グループ ワーク
22	急性期にある対象の理解と 看護	急性期にある対象の看護とチーム連携	講義
23	試験	90分試験 学習のまとめ	
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			



授業計画

回	単元	内容	備考
1	手術を受ける対象の理解 (成人期) ①	科目のガイダンス 手術の定義 ムーアの分類と生体反応①	講義
2	手術を受ける対象の理解 (成人期) ②	ムーアの分類と生体反応② 外来看護の役割	講義
3	手術を受ける対象の看護 (術前) ①	術後のリスクマネジメント、不安のアセスメント インフォームド・コンセント、意思決定支援、家族への看護	講義
4	手術を受ける対象の看護 (術前) ②	ERAS、クリニカルパスとバリエーション 術前訪問、術前学習、日帰り手術	講義
5	手術を受ける対象の看護 (術中) ①	手術の種類と看護の特徴（解放手術、内視鏡手術など） 手術体位とそれにより生じるリスク	講義
6	手術を受ける対象の看護 (術中) ②	麻酔、手術による身体侵襲と生体反応 手術室の安全管理	講義
7	手術を受ける対象の看護 (術後) ①	術後の合併症予防と発生時の対応 ドレーン管理、ルート類の管理	講義
8	手術を受ける対象の看護 (術後) ②	社会復帰と就労支援に向けた看護	講義
9	手術を受ける対象の看護 (高齢者の手術) ③	高齢者に起こりやすい合併症とその予防	講義
10	術後合併症予防と看護 (成人期)	術後の合併症を予防する看護 (間欠的空気圧迫装置、弾性ストッキング、呼吸機能訓練)	演習
11	小児と手術①	手術を受ける小児と家族への支援① (小児期の手術の特徴)	講義
12	小児と手術②	手術を受ける小児と家族への支援②	講義
13	出産と手術①	帝王切開を受ける対象の看護	講義
14	出産と手術②	分娩の異常と看護（常位胎盤早期剥離・前置胎盤・子宮外妊娠）	講義
15	試験	60分試験 学習のまとめ	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	45	対象年次	2年次
科目名	健康回復と看護			担当者	金子久美子 福永紫乃 近藤桂子 大塚智文 小林雅津良 非常勤講師		
	☑ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	リハビリテーション看護、母性看護学各論13.14、小児看護学概論・総論、小児看護学各論、老年看護学、老年看護 病態・疾患論（医学書院）						
科目概要	健康回復過程における回復期の症状・治療・経過に伴う看護をさまざまなライフサイクルの特徴をもとに考え、実践していくための基盤となる知識と技術を身につける。急性期から回復期への身体的変化や在宅、地域等への療養の場の移行に伴い、対象の意思や生活上のニーズを、在宅療養支援職種を含めたチームが連携して支えていく重要性を理解する。また、対象の残存機能を最大限に高め、より高い健康状態を目指すための健康教育やリハビリテーションの役割を理解し、回復促進のためのかかわりについて考える。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.健康回復の過程における回復期の特徴について説明する。</li> <li>2.対象者の残存機能を限りなく高めるためのリハビリテーションについて説明する。</li> <li>3.様々なライフサイクルにおいて、対象の疾患や症状に合わせて回復を促進するための看護の役割について説明する。</li> <li>4.健康回復過程の対象を全人的にとらえ、生活の質向上のために、チーム連携を促進する看護の意義を理解する。</li> </ol>						
評価方法	<p>試験結果および提出物・授業態度などを含め総合的に評価し、60点以上を合格とする。</p> <p>&lt;配点&gt;</p> <p>金子：25点 大塚：20点 小林：10点 岩崎：10点 清水：5点 福永：5点 上野：5点 近藤：10点 湯澤：5点 松澤：5点 計100点</p>						
課題に対するフィードバック	試験採点后、採点結果を掲示する。問題用紙、および答案用紙は返却しないが、正答率に応じて問題解説を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	初回講義時に説明する。 各領域の「概論」「健康障害と看護」「技術と実践」「生活援助技術」等の既習科目を復習して臨む。						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	回復期にある対象の看護 (成人期) ①	リハビリテーション看護に用いられる主要な概念	講義
2	回復期にある対象の看護 (成人期) ②	危機的状況・セルフケア再獲得を支援する方法 (人的システム・法的システム)	講義
3	リハビリテーションと看護 (理学療法) ①	経過別リハビリテーション 成人期のリハビリテーション (交通外傷・スポーツ)	講義 演習
4	リハビリテーションと看護 (理学療法) ②	成人期のリハビリテーション (循環器)	講義 演習
5	リハビリテーションと看護 (理学療法) ③	老年期のリハビリテーション (運動器・脳血管・神経疾患・脊髄損傷)	講義 演習
6	リハビリテーションと看護 (理学療法) ④	老年期のリハビリテーション (徒手筋力テスト、等尺運動、関節可動域訓練)	講義 演習
7	リハビリテーションと看護 (作業療法) ①	老年期のリハビリテーション (ADL評価)	講義 演習
8	リハビリテーションと看護 (作業療法) ②	老年期のリハビリテーション (運動障害・感覚障害)	講義 演習
9	リハビリテーションと看護 (言語療法)	老年期の嚥下・言語のリハビリテーション 看護 (ST)	講義
10	治療を受ける高齢者の看護 (老年)	リハビリテーション	講義
11	回復期における小児の理解 と看護①	小児の回復期の特徴と看護 (慢性期から回復期 連携)	講義
12	回復期における小児の理解 と看護②	回復期における小児特有の看護と連携 小児期のリハビリテーション	講義 演習
13	褥婦にみられる異常①	異常経過にみられる褥婦の看護	講義
14	褥婦にみられる異常②	異常経過にみられる褥婦の看護	講義
15	回復期にある対象の理解と 看護 (精神) ①	対象の特徴・症状 看護の視点	講義

回	単元	内容	備考
16	リハビリテーションと看護 (作業療法) ③	回復期における治療環境 精神障害者とリハビリテーション 精神科作業療法	講義
17	回復期にある対象の理解と 看護(精神) ②	回復期における看護・事例を通して考える (アセスメントの視点・看護の実際など)	講義・グループ ワーク
18	回復期にある対象の理解と 看護(精神) ③	回復期における看護・事例を通して考える (看護の実際・看護の留意点など)	講義・グループ ワーク
19	療養時期別の看護Ⅰ (在宅)	療養の場移行期～回復期の看護 意思決定支援	講義
20	在宅リハビリテーション (在宅)	「生活」の中での自立へ向けてのリハビリ テーション	講義
21	回復過程の看護①	事例別のリハビリテーション (徒手筋力テスト、等尺運動、関節可動域訓練)	演習
22	回復過程の看護②	事例別のリハビリテーション	演習
23	試験	90分試験 学習のまとめ	
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	45	対象年次	2年次
科目名	慢性期と看護		担当者	諏訪由美子 金子久美子 福永紫乃 非常勤講師			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	成人看護学概論、呼吸器、循環器、血液・造血器、消化器、内分泌・代謝、脳・神経、腎・泌尿器、 小児看護学概論・総論、小児看護学各論（医学書院）						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし、学生が健康回復過程における慢性期の症状・治療・経過に合わせた看護をさまざまなライフサイクルの特徴から考え、実践していくための基盤となる知識と技術を身につけられるように講義する。対象が健康問題を抱えて生活していくために必要なセルフケア能力を査定し、セルフマネジメント力を高めていくために必要な制度や社会資源についての学習を通して在宅療養移行への看護について解説する。また、コンプライアンス、アドヒアランスを高めていくための看護について様々な理論や概念を用いて解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康回復の過程における慢性期の特徴について説明する。</li> <li>2. 慢性疾患を持つ成人期の看護について、理論や概念を使って説明する。</li> <li>3. 様々なライフサイクルにおける、慢性期にある対象の特徴と看護の特徴について説明する。</li> <li>4. 慢性期の対象を全人的にとらえ、セルフケアを促進するための社会資源と多職種連携に意義を認める。</li> </ol>						
評価方法	<p>試験結果および提出物・授業態度などを含め総合的に評価し、60点以上を合格とする。</p> <p>&lt;配点&gt;</p> <p>諏訪：15点    金子：20点    山崎：5点    川野：5点    福永：25点  岩崎：10点    井上：10点    湯澤：10点    計100点</p>						
課題に対するフィードバック	試験採点后、採点結果を掲示する。問題用紙、および答案用紙は返却しないが、正答率に応じて問題解説を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	初回講義時に説明する。 各領域の「概論」「健康障害と看護」「生活援助技術」等の既習科目の復習をして臨む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	慢性期疾患を持つ対象への看護（成人期）①	慢性期看護に有用な概念（セルフマネジメント・障害受容・行動変容・病みの軌跡・危機）	講義
2	慢性期疾患を持つ対象への看護（成人期）②	セルフマネジメントを促進するための看護（行動変容を意識した関わり）	講義
3	慢性期疾患を持つ対象への看護（成人期）③	セルフマネジメントを促進するための看護（セルフモニタリング・セルフマネジメントの具体例）	講義
4	慢性期疾患を持つ対象への看護（成人期）④	セルフマネジメントを促進するための看護（病みの軌跡・危機理論を応用した関り）	講義
5	慢性期疾患を持つ対象への看護（成人期）⑤	セルフマネジメントを促進するための看護（脳血管疾患）	講義
6	慢性期疾患を持つ対象への看護（成人期）⑥	セルフマネジメントを促進するための看護（難病）	講義
7	慢性期疾患を持つ対象への看護（成人期）⑦	フィジカルアセスメントの実際	演習
8	慢性期における小児看護の理解①	慢性状態にある小児の特徴（疾患の特徴 生活の変化）	講義
9	慢性期における小児看護の理解②	慢性状態が子どもに与える影響（身体的、認知・情緒的、社会的影響）	講義・演習
10	慢性期における小児看護の理解③	慢性状態にある小児の看護（フィジカルアセスメント プレパレーション）	講義・演習
11	慢性期における小児看護の理解④	プライマリーヘルスケア（フォローアップケア 外来 予防医療）	講義・演習
12	慢性期における小児看護の理解⑤	移行期過程を生きる小児と家族への看護（セルフケア 自己管理 連携）	講義・演習
13	慢性期にある対象の理解と看護（精神）①	対象の特徴・症状・看護の視点 治療的環境	講義
14	慢性期にある対象の理解と看護（精神）②	慢性期における看護・事例を通して考える（アセスメントの視点・看護の実際）	講義・グループワーク
15	慢性期にある対象の理解と看護（精神）③	慢性期における看護・事例を通して考える（看護の実際・看護の留意点）	講義・グループワーク

回	単元	内容	備考
16	慢性期にある対象の理解と看護（精神）④	長期入院患者の退院支援に向けての患者理解	講義
17	慢性期にある対象の理解と看護（精神）⑤	長期入院患者の退院支援 （家族支援・多職種連携）	講義
18	療養時期別の看護Ⅱ① （在宅）	生活の場における健康の維持と介護予防看護	講義
19	療養時期別の看護Ⅱ② （在宅）	在宅療養安定期の看護	講義
20	慢性期疾患を持つ対象の理解と退院に向けた看護（成人期）	コンプライアンスの低い対象への接し方	講義
21	慢性期疾患を持つ対象の退院に向けた看護（成人期）①	リーフレット作成・簡易血糖自己測定	演習
22	慢性期疾患を持つ対象の退院に向けた看護（成人期）②	リーフレット作成・発表	演習
23	試験	60分試験 学習のまとめ	
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習														
学科名	看護学科			配当時間	45	対象年次	2年次														
科目名	エンドオブライフケア		担当者	湯澤桂子 近藤桂子 福永紫乃 非常勤講師																	
	☐ 実務経験のある教員による授業																				
使用教材	がん看護、緩和ケア（医学書院）																				
科目概要	<p>医師・看護師としての実務経験を活かし、学生が人生の終末期を迎える人々やその周囲の人たちが抱える思いや苦悩について理解し、対象者の尊厳ある生き方を支える意思を尊重した支援ができるよう教授する。また全人的視点で対象者を捉え、過去・現在・未来という時間軸において対象者の「いのち」に向き合うことの重要性について解説する。死生観や自己の存在と意味について考え、対象者の生き方の理解を深められるよう支援する。</p>																				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エンドオブライフケアの特徴を知り、看護実践の視点及び苦痛の緩和への支援について具体的方法を理解する。</li> <li>2. 人生の最終章の生き方や最後の迎え方について、関わる対象者および家族の意思を尊重した援助について理解する。</li> <li>3. エンドオブライフケアにおける多職種連携およびチームアプローチの意義や役割について説明できる。</li> </ol>																				
評価方法	<p>試験結果および提出物・授業態度などを含め総合的に評価し、60点以上を合格とする。</p> <p>&lt; 配点 &gt;</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">近藤：10点</td> <td style="text-align: center;">福永：10点</td> <td style="text-align: center;">吉澤：20点</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">野末：10点</td> <td style="text-align: center;">湯澤：50点</td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: right;">計100点</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>							近藤：10点	福永：10点	吉澤：20点					野末：10点	湯澤：50点			計100点		
近藤：10点	福永：10点	吉澤：20点																			
野末：10点	湯澤：50点			計100点																	
課題に対するフィードバック	<p>試験採点后、採点結果を掲示する。問題用紙、および答案用紙は返却しないが、正答率に応じて問題解説を行う。</p>																				
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>初回講義時に説明する。</p> <p>各領域の「概論」「健康障害と看護」「技術と実践」「生活援助技術」等の既習科目を復習して臨む。</p>																				

授業計画

回	単元	内容	備考
1	エンドオブライフケアの概念（在宅）	1. エンドオブライフケアの背景と基本となる考え方 2. 意思決定支援	講義
2	エンドオブライフケアにおける構成要素と看護の役割	1. 看護実践の構成要素 2. 看護の役割	講義
3	流産・死産後の女性と家族への看護①	人工妊娠中絶を受ける妊婦の看護 子宮内胎児死亡・妊産婦の死亡	講義
4	流産・死産後の女性と家族への看護②	グリーフケア	講義
5	終末期における小児と家族の看護①	治療中の子どもへのケア （症状のコントロール いのちの教育）	講義・演習
6	終末期における小児と家族の看護②	家族へのケア 悲嘆 グリーフケア	講義・演習
7	病院で緩和ケアを受けるがん患者（成人）①	成人の終末期医療の現状 病院における緩和ケアとチームアプローチ	講義
8	病院で緩和ケアを受けるがん患者（成人）②	緩和ケアにおける倫理的課題 AYA世代の緩和ケア	講義
9	病院で緩和ケアを受けるがん患者（高齢者）③	高齢者の緩和ケアと家族のケア 尊厳死と延命治療	講義
10	病院で緩和ケアを受けるがん患者（高齢者）③	医療スタッフのケア 緩和ケアに関する教育と研究	講義
11	在宅におけるエンドオブライフケアの特徴	1 エンドオブライフケアの条件 2. 在宅終末期療養者の時期別のケアマネジメント	講義
12	在宅緩和ケア①	在宅緩和ケア症状マネジメントの実際①	講義
13	在宅緩和ケア②	在宅緩和ケア症状マネジメントの実際②	講義
14	在宅緩和ケア③	死の臨床の場におけるコミュニケーションと看護	講義
15	在宅緩和ケア④	日常生活における安楽なケアと療養者の望む生活に向けた看護	講義

回	単元	内容	備考
16	在宅における看取りの技術①	1. 家族への看護とグリーフケア 2. 多職種連携とケア体制の構築	講義
17	在宅における看取りの技術②	3. 様々な場における看取り 4. 臨死期のケアと死後のケア	講義・演習
18	尊厳ある生を支える看護①	意思決定支援	講義・演習
19	尊厳ある生を支える看護②	スピリチュアルペインとは	講義
20	尊厳ある生を支える看護③	スピリチュアルケアといのちについて考える	GW
21	尊厳ある生を支える看護④	スピリチュアルケアといのちについて考える	GW
22	尊厳ある生を支える看護⑤	スピリチュアルケアといのちについて考える	講義
23	試験	60分試験 学習のまとめ	
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	地域と暮らしを支える看護Ⅰ		担当者	大屋 真由美			
	☐ 実務経験のある教員による授業			金子 久美子			
使用教材	地域・在宅看護論（医学書院）						
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かし、地域で暮らす人々が支えあって生きる社会について、生活者の視点で学習を支援する。地域の特性を把握し、人々の発達段階における健康課題と予防に対する地域ケアシステムのとのつながりについて考察できるよう解説する。また、個人の生活環境が暮らしや健康に与える影響について理解が深まるよう支援する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.人が暮らしていくための基盤となる地域の実態を調査・診断して特性を知り、生活の場としての地域（コミュニティ）について理解する。</li> <li>2. 看護の対象である「地域で生活する人々」がかかえる健康課題を解決するための地域資源や環境整備について理解する。</li> <li>3. 個人の生活環境が健康に与える影響について説明することができる。</li> </ol>						
評価方法	<p>出席状況、授業・演習の参加状況、提出物をもとに評価する。  ※以上総合で、60点以上得点した者は、単位を取得できる。</p> <p>金子 50点      大屋 50点</p>						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、得点表を返却する。						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	<p>地域・在宅看護論では、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを支援する看護を学習するため、地域や暮らしを理解する必要がある。人間理解、環境などの基礎知識、保健医療福祉の制度や活動についての理解が必要である。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	人々の暮らしと地域社会	1. 人が暮らすということ 2. 地域社会とのつながり	講義
2	地域共生社会と地域・在宅 看護の役割	1. 支え合って生きる社会とは	講義
3	地域の特性を知る①	太田市の地域の特性を知る：フィールドワーク計画立案（テーマ別）	GW
4	地域の特性を知る②	フィールドワーク（公共・民間・活動の場）	演習
5	地域の特性を知る③	フィールドワーク（公共・民間・活動の場）	演習
6	地域の特性を知る④	フィールドワーク（公共・民間・活動の場）	演習
7	地域の特性を知る⑤	フィールドワーク（公共・民間・活動の場）	演習／講義
8	地域の特性を知る⑥	フィールドワークまとめ・発表	講義
9	生活環境を整える看護①	生活環境が暮らしに与える影響	演習
10	生活環境を整える看護②	生活の場の環境測定とアセスメント	演習
11	生活者としての関わりと 援助①	暮らしから療養者を知る：事例検討、または 施設訪問	講義・演習
12	生活者としての関わりと 援助②	暮らしから療養者を知る：事例検討、または 施設訪問	演習
13	生活者としての関わりと 援助③	暮らしから療養者を知る：事例検討、または 施設訪問	演習
14	生活者としての関わりと 援助④	暮らしから療養者を知る：事例検討、または 施設訪問	講義
15	試験	暮らしから療養者を知る：事例検討、または 施設訪問	講義

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	地域と暮らしを支える看護Ⅱ		担当者	金子 久美子 非常勤講師			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	地域・在宅看護論、医療福祉総合ガイドブック(医学書院) 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)						
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かし、在宅看護の変遷や社会背景、保健・医療・福祉の動向をふまえ、地域を捉えた在宅看護の目的や基本理念について解説する。地域や在宅看護の対象者の特性を知り、在宅ケアを支える制度及び訪問看護制度を学び、支援の場や方法について学習が深まるよう支援する。</p> <p>また、在宅ケアにおけるケアマネジメントや社会資源、そして地域連携・継続看護の視点ならびにその必要性について解説する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護の目的・対象・特徴が理解する。</li> <li>2. 地域と暮らしを支える法・制度・施策について理解する。</li> <li>3. 訪問看護の動向及び地域連携と継続看護について理解する。</li> <li>4. 地域で暮らしていくための支援についてマネジメントの視点が説明できる。</li> <li>5. 生活環境において可能な限り自立した生活援助を考える。</li> </ol>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験：80点</li> <li>・グループワーク：20点</li> </ul> <p>&lt;配点&gt; 金子：40点 湯澤：60点 ※以上総合で、60点以上得点した者は、単位を取得できる。</p>						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、得点表を返却する。						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	在宅看護論の対象は、年齢や健康レベルも多岐にわたるため、各発達段階における人間の理解及び、保健医療福祉の制度や活動についての理解が必要である。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	地域・在宅看護の目的と特性	1. 地域・在宅看護が求められる社会的背景 2. 地域・在宅看護の目指すもの	講義
2	地域・在宅看護の対象者	1. 対象者の特徴 2. 家族への支援	講義
3	地域共生社会と地域包括ケアシステム	1. 地域包括ケアシステム 2. 自助・互助・共助・公助の意義と看護の役割	講義
4	地域・在宅看護の提供	1. 地域・在宅看護の提供方法と療養の場 2. 退院支援と多職種連携	講義
5	地域・在宅ケアを支える制度 ①	1. 医療保険・介護保険制度 2. 地域・在宅にかかわる医療体制	講義
6	地域・在宅ケアを支える制度 ②	3. 地域保健・高齢者制度 4. 障害者・難病に関する制度 5. 関係法規	講義
7	訪問看護制度	1. 訪問看護の制度 2. 訪問看護サービスの提供	講義
8	地域・在宅看護と安全 ①	1. 地域・在宅での暮らしにおけるリスクマネジメント 2. 災害対策と災害時の支援	講義
9	地域・在宅看護と安全 ②	3. 生活環境の整備 4. 自立度に合わせた生活用具の種類と活用	講義・演習
10	暮らしを支える生活援助①	1. 療養者の生活支援 2. 日常生活の特徴と援助の工夫	講義
11	暮らしを支える生活援助②	3. 訪問看護ステーション開設 4. 療養者の状態に合わせた援助の工夫	GW
12	暮らしを支える生活援助③	5. 家庭用品を使用した事例の援助計画立案	GW
13	暮らしを支える生活援助④	6. 家庭用品を使用した援助の実際	GW
14	暮らしを支える生活援助⑤	7. 家庭用品を使用した援助の発表とまとめ	GW/講義
15	試験	筆記試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	在宅医療と生活援助技術		担当者	金子 久美子 非常勤講師			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	地域・在宅看護論（医学書院） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 写真でわかる訪問看護（インターメディア出版）						
科目概要	在宅では医療依存度の高い療養者が増えている。医師・看護師としての実務経験を活かし、合併症などのトラブルが起きないで療養者や家族が安心して生活し、適切な自己管理ができるように、援助方法について説明する。病院とは異なる在宅看護ならではの工夫や視点について学部が深まるよう支援する。在宅日常生活援助では、療養者の生活環境において、可能な限り自立して快適に生活ができるための援助を考えられるよう支援する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療処置を行いながら生活する療養者及び家族への援助方法について理解する。</li> <li>2. セルフケア能力や家族の条件を考慮した生活支援の方法を考える。</li> </ol>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験：90点</li> <li>・グループワーク：10点</li> </ul> <p>&lt;配点&gt; 金子：55点 野末：35点 三田：10点 ※以上総合で、60点以上得点した者は、単位を取得できる。</p>						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、得点表を返却する。						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	医療ニーズのある療養者の看護は、病状・病態について理解を深め、全ての看護学で学んだことを基盤にして、家庭や療養者の状況によって応用していく。また、在宅日常生活援助を考える上では、基礎看護学の生活援助技術の学習が不可欠である。						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	在宅医療における主な疾患と治療①	1. 在宅医療とは 2. 呼吸器疾患	講義
2	在宅医療における主な疾患と治療②	神経難病	講義
3	在宅医療における主な疾患と治療③	創傷ケア、フットケア	講義
4	在宅医療における主な疾患と治療④	栄養サポート（摂食嚥下障害・口腔ケア）	講義
5	在宅医療における主な疾患と治療⑤	悪性腫瘍、疼痛管理	講義
6	在宅における感染予防	1. 在宅療養における感染対策 2. 在宅感染予防の実際	講義
7	薬物療法と服薬管理	1. 服薬管理の重要性とアセスメント 2. 在宅における薬物療法の実際と支援体制	講義
8	在宅酸素療法(HOT)	1. 在宅酸素療法の適応 2. 在宅における安全管理と支援	講義・演習
9	在宅人工呼吸療法	1. 在宅人工呼吸器療法の適応 2. 在宅における安全管理と支援	講義・演習
10	輸液・在宅中心静脈栄養法	1. 在宅における輸液・中心静脈栄養の適応 2. 中心静脈栄養法を用いる療養者の看護	講義
11	膀胱留置カテーテル	1. 膀胱留置カテーテルの目的 2. 在宅で起こり得る合併症とその対策	講義
12	在宅経管栄養法・胃瘻	1. 在宅経管栄養法・胃瘻の種類と適応 2. 経管栄養法・胃瘻の管理と栄養投与	講義
13	在宅褥瘡管理	1. 褥瘡発生のリスクアセスメント 2. 褥瘡のステージとケアの実際	講義
14	在宅ストーマ管理	1. 人工肛門・人工膀胱の適応 2. ストーマの合併症とその対応	講義
15	試験		

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	暮らしの場における看護の展開		担当者	金子 久美子 非常勤講師			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	地域・在宅看護論（医学書院）・医療福祉総合ガイドブック（医学書院）						
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かし、学生が、新生児から高齢者まで年齢も疾患も様々である在宅看護の対象者に対して、それぞれの状況や状態に合わせた関わり方や症状のとらえ方を理解し、社会資源の活用方法などを通して、在宅看護の実際を学べるように支援する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護の対象を捉える視点について説明できる。</li> <li>2. 在宅で療養する人に多い症状や状態の特徴を知り、制度を含めた支援について理解する。</li> <li>3. 様々な疾患・状況に合わせたケアマネジメント及び看護の役割を説明できる。</li> </ol>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験：90点</li> <li>・グループワーク：10点</li> </ul> <p>※以上総合で、60点以上得点した者は、単位を取得できる。</p> <p>&lt; 配点 &gt; 金子：55点 井上：15点 石倉：15点 藤掛：15点</p>						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、得点表を返却する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	症状のとらえ方や関わり方については、成人看護学・老年看護学・精神看護学・小児看護学など、既習の知識を活用することが必要となる。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	地域・在宅看護ケアマネジメント①	1. ケアマネジメントとは 2. 地域・在宅看護ケアマネジメント	講義
2	地域・在宅看護ケアマネジメント②	1. 地域の社会資源と多職種連携・支援のネットワーク	講義
3	認知症の療養者の事例展開①	1. 若年性認知症療養者の在宅看護のケアマネジメント	講義
4	認知症の療養者の事例展開②	1. 若年性認知症療養者の在宅看護のケアマネジメント	演習
5	認知症の療養者の事例展開③	1. 若年性認知症療養者の在宅看護のケアマネジメント	演習
6	認知症の療養者の事例展開④	1. 若年性認知症療養者の在宅看護のケアマネジメント	GW
7	認知症の療養者の事例展開⑤	1. 初回訪問（ロールプレイング）	GW
8	認知症の療養者の事例展開⑥	1. まとめ	講義
9	精神症状の療養者に対する看護①	1. 在宅における精神疾患療養者の理解 2. 症状のアセスメント	講義
10	精神症状の療養者に対する看護②	3. コミュニケーション技術 4. 社会資源の活用	講義
11	難病で療養する人に対する看護①	1. 難病療養者に対する施策と制度 2. 難病療養者の支援に必要な視点	講義
12	難病で療養する人に対する看護②	3. 在宅で難病療養者を支える家族への理解と支援 4. 難病療養者に対する在宅看護の事例	講義
13	小児の療養者に対する看護①	1. 在宅ケアを必要とする小児の特徴 2. 療養者・家族への支援	講義
14	小児の療養者に対する看護②	3. 小児の在宅療養を支える制度と社会資源 4. 小児の療養者に対する在宅看護の事例	講義
15		試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	実習
学科名	看護学科			配当時間	90	対象年次	3年次
科目名	地域福祉看護実習			担当者	諏訪 由美子		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	系統看護学講座 統合「地域・在宅看護論」(医学書院) 「医療と福祉総合ガイドブック」(医学書院)、実習要綱、DVD						
科目概要	看護師としての実務経験を活かして、地域の健康レベルを査定し、地域に生活する人々の健康を支えている看護について解説し、支援の必要な対象への健康の保持増進、疾病・介護予防および看護実践の方法を学べるよう支援する  健康管理センター 9時間×1日 地域包括支援センター 9時間×2日 外来・退院調整部門 9時間×2日 社会福祉協議会 8時間×2日 乳児院 9時間×2日 学内実習 11時間 (臨地実習は1時間=45分)						
到達目標	1. 地域における保健活動の実際を知り、住民の健康を支える意義と看護の役割について理解する。 2. 地域包括ケアシステムの機能と保健・医療・福祉の基盤となる社会資源の活用について理解する。 3. 成人・高齢者の疾病・介護予防支援の意義と健康課題について捉える。						
評価方法	1. 成績評価を受ける資格は、実習においては所定時間数の6分の5以上の出席とする。 2. 実習評価は、実践・記録・態度等総合的に行う。 3. 詳細については、実習要綱の実習評価表を参照。						
課題に対するフィードバック	総合的評価の結果、評価面接で可否を伝え、自己の課題を明確にして次の実習に生かしていく。						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	1. 実習要綱に基づいて、授業資料やテキストを用いて事前学習を行う。 2. 実習施設が5施設であり、各施設の特徴や役割について学習しておく必要がある。 3. 訪問マナーについては、事前に演習を行う。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	実習オリエンテーション	1. 全体オリエンテーション 2. フロアオリエンテーション	学内
2	事前学習・準備	事前学習・準備	学内
3	健康管理センター実習	業務に同行	臨地
4	地域包括支援センター実習 ①	事業に参加、同行訪問	臨地
5	地域包括支援センター実習 ②	事業に参加、同行訪問	臨地
6	外来・退院調整部門実習 ①	業務に同行し、地域連携について学ぶ	臨地
7	外来・退院調整部門実習 ②	業務に同行し、地域連携について学ぶ	臨地
8	学内実習	リフレクション	学内
9	社会福祉協議会実習 ①	福祉の事業に参加	臨地
10	社会福祉協議会実習 ②	福祉の事業に参加	臨地
11	乳児院児実習 ①	福祉施設における業務に同行	臨地
12	乳児院児実習 ②	福祉施設における業務に同行	臨地
13	記録の整理・まとめ	学習成果のまとめ	学内
14	グループワーク・まとめ	自己の成長、自己の課題、まとめ	学内
15	評価	評価面談	学内

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	実習
学科名	看護学科			配当時間	90	対象年次	3年次
科目名	在宅看護論実習			担当者	金子 久美子		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	地域・在宅看護論(医学書院) 「写真でわかる訪問看護アドバンス」 インターメディアカ、 実習要綱、DVD						
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かし、地域の中で在宅療養を必要とする対象の特徴と健康ニーズを理解し、療養生活の維持向上を促す看護実践能力と態度を修得できるよう支援する。</p> <p>居宅介護支援事業所 9時間×1日    在宅療養支援診療所 11時間×1日  看護小規模多機能型 居宅介護施設 9時間×2日  訪問看護ステーション 9時間×4日    学内実習 16.5時間  (臨地実習は1時間=45分とする)</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な場で療養する人の生活の実際を知り、療養者と家族の思いに関心を寄せ、対象の望む生活を考えながら指導者とともに、看護を実施する。</li> <li>2. 利用者と一緒に過ごし、関わりをとおして安全に安心して過ごせるような生活の支援を捉える。</li> <li>3. 地域連携の意義と多職種連携について理解する。</li> <li>4. 自立やQOLの向上を目指した、その人らしい生活を支えるための看護の役割について説明できる。</li> </ol>						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成績評価を受ける資格は、実習においては所定時間数の6分の5以上の出席とする。</li> <li>2. 実習評価は、実践・記録・態度等総合的に行う。</li> <li>3. 詳細については、実習要綱の実習評価表を参照。</li> </ol>						
課題に対するフィードバック	総合的評価の結果、評価面接で可否を伝え、自己の課題を明確にして次の実習に生かしていく。						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習要綱に基づいて、授業資料やテキストを用いて事前学習を行う。</li> <li>2. 実習施設が4施設であり、各施設の特徴や役割について学習しておく必要がある。</li> <li>3. 訪問マナーについては、DVDで確認後、グループ内で役割分担をして演習を行う。</li> </ol>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	実習オリエンテーション	1. 全体オリエンテーション 2. フロアオリエンテーション	学内
2	事前学習・準備	事前学習・準備	学内
3	福祉用具の活用・住宅環境測定	学内実習	学内
4	居宅介護支援事業所	施設実習	臨地
5	看護小規模多機能型 居宅介護施設	施設実習	臨地
6	看護小規模多機能型 居宅介護施設	施設実習	臨地
7	在宅療養支援診療所	同行訪問	臨地
8	思考の整理・リフレクション	学内実習	学内
9	訪問看護ステーション	同行訪問	臨地
10	訪問看護ステーション	同行訪問	臨地
11	訪問看護ステーション	同行訪問	臨地
12	訪問看護ステーション	同行訪問	臨地
13	記録の整理・まとめ	まとめ	学内
14	グループワーク・まとめ	まとめ	学内
15	評価		学内

<b>履修区分</b>	必修	<b>単位数</b>	1	<b>開講時期</b>	前期	<b>形態</b>	講義
<b>学科名</b>	看護学科			<b>配当時間</b>	30	<b>対象年次</b>	1年次
<b>科目名</b>	成人看護学概論		<b>担当者</b>	淀川 竜也			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
<b>使用教材</b>	成人看護学総論 (医学書院)						
<b>科目概要</b>	<p>看護師としての実務経験を活かし、成人期のライフサイクルと発達課題に基づいて成人期の身体的・精神的・社会的特徴や取り巻く環境、健康問題について総合的に理解できるよう支援する。また成人を対象とした健康上の問題に対処する際の看護の役割や機能について学び、有用な概念についても説明する。</p>						
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクルにおける成人の位置づけについて説明する。</li> <li>2. 成人期にみられる健康障害について、成人の特徴・生活行動と関連付けて説明する。</li> <li>3. 成人の健康レベルに対応した看護について説明する。</li> <li>4. 成人への看護に有用な主な概念について説明する。</li> </ol>						
<b>評価方法</b>	<p>全講義終了後に筆記試験を行う。100点満点。ただし、夏季休暇中に課題を出題する。課題は提出期限厳守とし、遅れた場合は減点となる。また授業態度等から減点となる場合もある。</p>						
<b>課題に対するフィードバック</b>	<p>試験採点后、採点結果を掲示する。問題用紙、および答案用紙は基本的には返却しないが、正答率に応じて問題解説を行う。</p>						
<b>履修要件 (準備学習の具体的な内容)</b>	<p>初回講義時に説明する。 必要な予習・復習を主体的に実施する。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	成人であるということ	・成人の定義 ・成人の特徴の概要	講義
2	成長発達の特徴①	・成人の成長発達 ・成人の役割	講義
3	成長発達の特徴②	・成人各期の健康問題 ・成人と死 ・個人の成長発達のアセスメント	講義
4	身体機能の特徴と看護	・身体機能の安定性と変化 ・身体機能の変化を分析する視点 ・身体機能の変化に着目した看護	講義
5	成人の生活を理解する 視点と方法	・生活とは何か ・成人の生活の理解 ・成人の生活のアセスメント	講義
6	健康観の多様性と看護	・主要な健康観 ・個人の健康観に影響を及ぼす要因 ・個人の健康観を理解する方法	講義
7	学習の特徴と看護	・おとなの学びの特徴 ・成人教育学の概念 ・おとな学びの目標 ・健康状態と学習方法	講義
8	生活習慣に関連する 健康障害①	・生活習慣に関連する健康課題	講義
9	生活習慣に関連する 健康障害②	・生活習慣の是正	講義
10	ワーク・ライフ・バランス と健康障害	・職業と健康障害 ・生活ストレスと健康障害 ・身体活動と健康障害	講義
11	セクシュアリティとジェンダー に関連する健康障害	・セクシュアリティと健康に関連する概念 ・性的健康の指標および実態 ・DVとジェンダー	講義
12	更年期にみられる健康障害 /病みの軌跡	・更年期障害の原因 ・更年期障害の予防と治療 ・病みの軌跡という考え方	講義
13	セルフケア/ストレス/危機	・セルフケアとは ・オレムの看護理論 ・ストレスとは ・危機とは ・危機介入	講義
14	適応/自己効力/ ヘルスプロモーション	・ロイの看護適応モデル ・自己効力とは ・ヘルスプロモーションの目標	講義
15	試験	60分試験 学習のまとめ	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習	
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次	
科目名	成人期の健康障害と看護		担当者	岩崎 恵理 非常勤講師				
	☐ 実務経験のある教員による授業							
使用教材	成人看護学総論、がん看護学 (医学書院)							
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かし、学生が成人各期の特徴を捉え、健康問題を抱えた対象とその看護について理解できるよう講義する。成人期前半は受療率、死亡率ともに低く、健康問題は少ない時期といえる。しかし、ストレス社会の中で、健康問題が引き起こす対象への負担は大きい。生産年齢の中心である成人期の対象が疾患を持つことの意味を考え、成人期の中での死亡原因の上位である悪性新生物と自殺に着目し、日本が直面している社会背景をつかめるよう講義する。また、成人期の健康を守るための看護の専門的役割についても考えられるよう指導する。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.成人期の特徴と発達課題をもとに、成人期の対象が健康障害をもつことの意味を認識する。</li> <li>2.成人期の死因の上位である悪性新生物について理解し、疾患や治療が対象に与える影響や対象が抱える全人的苦痛について考察する。</li> <li>3.成人期の死因の上位である自殺について、その背景や対象が抱える苦痛を全人的に理解し、日本における社会的問題として捉える。</li> <li>4.成人期の対象が利用可能な社会保障について説明する。</li> <li>5.上記の学習を通して、成人期の対象の健康を守るために看護がどのような役割を果たしていくべきかについて検討する。</li> </ol>							
評価方法	<p>15回目に筆記試験を行う。 総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。 &lt;配点&gt; 岩崎：40点 木村：30点 小山：20点 石井：10点</p>							
課題に対するフィードバック	<p>試験採点后、採点結果を掲示する。問題用紙、および答案用紙は返却しないが、正答率に応じて問題解説を行う。</p>							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>初回講義時に説明する。 成人看護学概論の復習をして臨む。</p>							

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	対象の理解①	成人期の対象が健康障害を持つことの意味	講義
2	対象の理解②	成人期の対象が健康障害を持つことの意味	講義
3	成人期における健康障害1	がん患者が抱える苦悩 (全人的苦悩、分類など)	講義
4	治療を受けるがん患者の 看護①	がん治療を受ける患者の看護の実際 (手術療法・麻酔の影響など)	講義
5	治療を受けるがん患者の 看護②	がん治療を受ける患者の看護の実際 (放射線療法・合併症の影響など)	講義
6	治療を受けるがん患者の 看護③	がん治療を受ける患者の看護の実際 (化学療法・有害反応など)	講義
7	治療を受けるがん患者の 看護④	がん治療を受ける患者の看護の実際 (大腸がんストーマケア、乳房摘出後の体操、など)	講義
8	治療を受けるがん患者の 看護⑤	がん対策推進基本計画、がん検診 がんサバイバーの就労支援と家族ケア	講義
9	がん患者の社会参加への 支援	がんサバイバーシップと看護	講義
10	成人期における健康障害2①	成人期における自殺の背景①	講義
11	成人期における健康障害2②	成人期における自殺の背景②	演習
12	成人期の対象と社会資源	成人期の対象が利用できる社会資源	講義
13	成人期の対象の病態理解	疾患を持った成人期の対象に必要な看護援助	演習
14	成人期の対象の看護	成人期の対象の看護 障害受容	演習
15		60分試験 学習のまとめ	

<b>履修区分</b>	必修	<b>単位数</b>	1	<b>開講時期</b>	後期	<b>形態</b>	講義・演習	
<b>学科名</b>	看護学科			<b>配当時間</b>	30	<b>対象年次</b>	2年次	
<b>科目名</b>	成人看護の展開		<b>担当者</b>	淀川 竜也				
	☐ 実務経験のある教員による授業							
<b>使用教材</b>	成人看護学総論、臨床外科看護総論（医学書院）							
<b>科目概要</b>	<p>看護師としての実務経験を活かし、成人期の特徴と、疾患や治療・回復過程、対象の健康状態のアセスメントを関連付けて、対象の看護問題を解決するために看護過程を展開方法を教授する。</p>							
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.成人期の対象に看護過程を展開する意味について考察する。</li> <li>2.対象の情報を整理し、アセスメントの視点に基づいて記述する。</li> <li>3.関連図を用いて抽出した看護問題に優先順位をつける。</li> <li>4.看護計画を立案、および修正する方法を説明する。</li> <li>5.対象の個別性を重視し、統一した看護を提供するために看護過程を展開することに意義を認める。</li> </ol>							
<b>評価方法</b>	<p>提出物、評価表、終講試験をもとに評価する。 総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。</p>							
<b>課題に対するフィードバック</b>	<p>紙面にて合否を伝える。 提出物を返却する。</p>							
<b>履修要件 (準備学習の具体的な内容)</b>	<p>成人看護学概論・援助論Ⅰ～Ⅳの復習を行う。 基本技術Ⅱの講義資料で振り返りを行う。</p>							

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	成人のライフサイクル	疾患や入院が対象に与える影響 (発達課題、身体・精神・社会的影響)	講義 演習
2	看護過程とは	成人期の対象に看護過程を展開する意味	講義 演習
3	看護過程の展開 (紙面事例) ①	情報整理 アセスメントの視点	講義 演習
4	看護過程の展開 (紙面事例) ②	情報整理 アセスメントの視点	講義 演習
5	看護過程の展開 (紙面事例) ③	情報整理 アセスメントの視点	講義 演習
6	看護過程の展開 (紙面事例) ④	看護関連図	講義 演習
7	看護過程の展開 (紙面事例) ⑤	看護関連図	講義 演習
8	看護過程の展開 (紙面事例) ⑥	看護関連図	講義 演習
9	看護過程の展開 (紙面事例) ⑦	看護問題の抽出・看護診断 優先順位の決定・看護計画の立案	講義 演習
10	看護過程の展開 (紙面事例) ⑧	看護問題の抽出・看護診断 優先順位の決定・看護計画の立案	講義 演習
11	看護過程の展開 (紙面事例) ⑨	看護問題の抽出・看護診断 優先順位の決定・看護計画の立案	講義 演習
12	看護過程の展開 (紙面事例) ⑩	看護計画の評価	講義 演習
13	看護過程の展開 (紙面事例) ⑪	看護計画の評価	講義 演習
14	看護過程の展開 (紙面事例) ⑫	SOAP 看護計画の追加・修正	講義 演習
15	試験	看護の展開のまとめ	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	実習
学科名	看護学科			配当時間	90	対象年次	3年次
科目名	急性期看護実習			担当者	岩崎 恵理		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	事前学習により各自でまとめた資料、参考書、テキスト等						
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かし、学生が実習を通じて、成人期・老年期の対象の特徴と現在まで授業・演習で獲得してきた基礎知識および基礎技術を関連付けて、手術療法を受ける対象や急性期疾患に罹患した対象に科学的根拠に基づいた看護過程を展開し、看護計画に沿って必要な看護援助を安全・安楽に実践できるように指導する。</p> <p>臨地実習 9時間×8日間 学内実習 18時間（臨地実習は1時間=45分とする）</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象の生活背景や意思決定を尊重し、良好な人間関係のもと対象を理解していくために必要な準備を整える。</li> <li>2) 急性期、周術期の対象を全人的に理解し、回復促進・合併症予防・治療終了後の生活に向けた支援を考え、一連の看護過程を展開し、評価・修正する。</li> <li>3) 対象の疾病や治療・回復過程で起こりうる形態的・機能的変化を予測して看護の必要性を認識し、必要な看護援助を科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施する。</li> <li>4) 回復を促進し、対象のセルフマネジメントを支援するためのチームアプローチの実際を理解し、多職種チームにおける看護の調整的役割について学ぶ。</li> <li>5) 実習全体を俯瞰し、獲得した学びを振り返ることで、自己の成長を認識するとともに、今後に向けた課題を明確にする。</li> </ol>						
評価方法	評価規準に沿い、到達目標をルーブリックにて評価する。						
課題に対するフィードバック	<p>ルーブリック評価、課題の内容、実習態度等を総合的に評価し、認定会議にて可否を検討した結果を面接にて伝える。</p> <p>各自の課題をもって臨み、実習終了時に成長を俯瞰できること、また残された課題を明確にし、次の実習につなげていくことで段階的に成長を実感できることも目標としている。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>実習に関わる必須科目を履修し、合格しておくことを条件とする。</p> <p>事前課題をもとに、主体的に自己学習をすすめ、ポートフォリオにまとめる。</p>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	急性期看護実習	成人実習全体オリエンテーション	学内
2	急性期看護実習	フロアオリエンテーション・事前課題準備、学習計画作成・実施	学内
3	急性期看護実習	事前学習・実技練習・持参物品の確認	学内
4	急性期看護実習	病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定・挨拶・情報収集	臨地
5	急性期看護実習	看護実践（情報収集、援助の見学・実施・観察）	臨地
6	急性期看護実習	看護実践（情報収集、援助の実施・観察）	臨地
7	急性期看護実習	情報整理、追加学習、看護の方向性確認	学内
8	急性期看護実習	看護実践（看護計画立案、援助の実際）	臨地
9	急性期看護実習	看護実践（看護計画立案、援助の実際）	臨地
10	急性期看護実習	看護実践（看護計画立案、援助の実際）	臨地
11	急性期看護実習	看護実践（看護計画実践、評価、修正）	臨地
12	急性期看護実習	看護実践（看護計画実践、評価、修正、まとめ）	臨地
13	急性期看護実習	記録の整理、学習成果のまとめ	学内
14	急性期看護実習	ワーク、学習成果のまとめ	学内
15	急性期看護実習	記録の整理、学習成果のまとめ	学内

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	実習
学科名	看護学科			配当時間	90	対象年次	3年次
科目名	回復期看護実習			担当者	淀川 竜也		
	□ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	事前学習により各自でまとめた資料、テキスト、参考書など						
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かし、学生が実習を通じて成人期・老年期の対象の特徴と現在まで授業・演習で獲得してきた基礎知識および基礎技術を関連付けて、回復期にある看護の対象やリハビリテーションを行っている対象に科学的根拠に基づいた看護過程を展開し、看護計画に沿って必要な看護援助を安全・安楽に実践できるよう指導する。</p> <p>臨地実習 9時間×8日間 学内実習 18時間（臨地実習は1時間=45分とする）</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象の生活背景や希望を尊重し、良好な人間関係のもと対象を理解していくために必要な準備を整える。</li> <li>2) 対象の経過・症状に応じてケアマネジメントを促すための支援を考え、一連の看護過程を展開し、評価、修正する。</li> <li>3) 対象の健康障害の特徴や程度、回復過程における看護の必要性を認識し、必要な看護援助を科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施する。</li> <li>4) 医療・福祉関連職種によるチームアプローチの実際を理解し、回復期の多職種チームにおける看護の調整的役割について学ぶ</li> <li>5) 実習全体を俯瞰し、獲得した学びを振り返ることで自己の成長を認識するとともに、今後に向けた課題を明確にする。</li> </ol>						
評価方法	評価規準に沿い、到達目標をルーブリックにて評価する。						
課題に対するフィードバック	<p>ルーブリック評価、課題の内容、実習態度等を総合的に評価し、認定会議にて可否を検討した結果を面接にて伝える。</p> <p>各自の課題を持って臨み、実習終了時に成長を俯瞰できること、また残された課題を明確にし、次の実習につなげていくことで段階的に成長を実感できることも目標としている。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>実習に関わる必須科目を履修し、合格しておくことを条件とする。</p> <p>事前課題をもとに、自己学習をすすめ、ポートフォリオにまとめる。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	回復期看護実習	成人実習全体オリエンテーション	学内
2	回復期看護実習	フロアオリエンテーション・事前課題準備、学習計画作成・実施	学内
3	回復期看護実習	事前学習・実技練習・持参物品の確認	学内
4	回復期看護実習	病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定・挨拶・情報収集	臨地
5	回復期看護実習	看護実践（情報収集、援助の見学・実施・観察）	臨地
6	回復期看護実習	看護実践（情報収集、援助の実施・観察）	臨地
7	回復期看護実習	情報整理、追加学習、看護の方向性確認	学内
8	回復期看護実習	看護実践（看護計画立案、援助の実際）	臨地
9	回復期看護実習	看護実践（看護計画立案、援助の実際）	臨地
10	回復期看護実習	看護実践（看護計画立案、援助の実際）	臨地
11	回復期看護実習	看護実践（看護計画実践、評価、修正）	臨地
12	回復期看護実習	看護実践（看護計画実践、評価、修正、まとめ）	臨地
13	回復期看護実習	記録の整理、学習成果のまとめ	学内
14	回復期看護実習	ワーク、学習成果のまとめ	学内
15	回復期看護実習	記録の整理、学習成果のまとめ	学内

回	単元	内容	備考
16	回復期看護実習	評価	学内
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	実習
学科名	看護学科			配当時間	90	対象年次	3年次
科目名	慢性期・終末期看護実習		担当者	淀川 竜也			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	事前学習により各自でまとめた資料、テキスト、参考書など						
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かして、学生が実習を通じて成人期・老年期の対象の特徴と現在まで授業・演習で獲得してきた基礎知識および基礎技術を関連付けて、慢性期・終末期にある対象に科学的根拠に基づいた看護過程を展開し、看護計画に沿って必要な看護援助を安全・安楽に実践できるように指導する。</p> <p>臨地実習 9時間×8日間 学内実習 18時間（臨地実習は1時間=45分とする）</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象のこれまでの生活背景や治療・療養への希望、意思決定を尊重し、良好な人間関係のもと対象を理解していくために必要な準備を整える。</li> <li>2) 対象が抱える全人的苦痛（身体的・精神的・社会的・霊的苦痛）や不安、苦悩に共感的理解を示し、病態と治療による影響をふまえて一連の看護過程を展開し、評価、修正する。</li> <li>3) 疾患や治療にともなう生活上の留意点などから看護の必要性を認識し、必要な看護援助を科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施する。</li> <li>4) 対象の意思決定を支援し、今後の生活を支えていくためのチームアプローチの実際を理解し、多職種チームにおける看護の役割を学ぶ。</li> <li>5) 実習全体を俯瞰し、獲得した学びを振り返ることで、自己の成長を認識するとともに、今後に向けた課題を明確にする。</li> </ol>						
評価方法	評価規準に沿い、到達目標をルーブリックにて評価する。						
課題に対するフィードバック	<p>ルーブリック評価、課題の内容、実習態度等を総合的に評価し、認定会議にて可否を検討した結果を面接にて伝える。</p> <p>各自の課題をもって臨み、実習終了時に成長を俯瞰できること、また残された課題を明確にし、次の実習につなげていくことで段階的に成長を実感できることも目標としている。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>実習に関わる必須科目を履修し、合格しておくことを条件とする。</p> <p>事前課題をもとに、自己学習をすすめ、ポートフォリオにまとめる。</p>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	慢性期・終末期看護実習	成人実習全体オリエンテーション	学内
2	慢性期・終末期看護実習	フロアオリエンテーション・事前課題準備、学習計画作成・実施	学内
3	慢性期・終末期看護実習	事前学習・実技練習・持参物品の確認	学内
4	慢性期・終末期看護実習	病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定・挨拶・情報収集	臨地
5	慢性期・終末期看護実習	看護実践（情報収集、援助の見学・実施・観察）	臨地
6	慢性期・終末期看護実習	看護実践（情報収集、援助の実施・観察）	臨地
7	慢性期・終末期看護実習	情報整理、追加学習、看護の方向性確認	学内
8	慢性期・終末期看護実習	看護実践（看護計画立案、援助の実際）	臨地
9	慢性期・終末期看護実習	看護実践（看護計画立案、援助の実際）	臨地
10	慢性期・終末期看護実習	看護実践（看護計画立案、援助の実際）	臨地
11	慢性期・終末期看護実習	看護実践（看護計画実践、評価、修正）	臨地
12	慢性期・終末期看護実習	看護実践（看護計画実践、評価、修正、まとめ）	臨地
13	慢性期・終末期看護実習	記録の整理、学習成果のまとめ	学内
14	慢性期・終末期看護実習	ワーク、学習成果のまとめ	学内
15	慢性期・終末期看護実習	記録の整理、学習成果のまとめ	学内

<b>履修区分</b>	必修	<b>単位数</b>	1	<b>開講時期</b>	前期	<b>形態</b>	講義・演習
<b>学科名</b>	看護学科			<b>配当時間</b>	30	<b>対象年次</b>	1年次
<b>科目名</b>	老年看護学概論		<b>担当者</b>	大屋 真由美			
	□ 実務経験のある教員による授業						
<b>使用教材</b>	老年看護学、老年看護 病態・疾患論（医学書院） 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)						
<b>科目概要</b>	<p>看護師としての実務経験を活かし、老年期のライフサイクルと身体的・社会的・精神的特徴と関連付けて、高齢者や家族を巻き取る社会について解説する。また、高齢者の疑似体験を通して、身体的な機能低下が日常生活にどのように影響しているか考察し、看護の必要性を認められるよう支援する。</p>						
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計や発達課題・ライフサイクルと関連付けて、老年期の身体的・社会的・精神的特徴について説明する。</li> <li>2. 健康レベルや療養形態に応じた高齢者と家族に対する看護について考察する。</li> <li>3. 保健医療福祉制度における看護の役割について説明する。</li> <li>4. 高齢者の疑似体験を通して高齢者の身体機能の変化と心理状態を知り、日常生活にどのように影響しているか気付きを示す。</li> </ol>						
<b>評価方法</b>	<p>終講時に筆記試験を行う。 提出物・授業態度などを含め総合的に評価し、60点以上を合格とする。</p>						
<b>課題に対するフィードバック</b>	<p>試験採点后、採点結果を掲示する。問題用紙、および答案用紙は返却しないが、正答率に応じて問題解説を行う。</p>						
<b>履修要件（準備学習の具体的な内容）</b>	<p>初回講義時に説明する。</p>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	高齢者の理解①	・加齢と老化 ・高齢者の定義 ・老年期の発達課題 ・4つの力	講義
2	高齢者の理解②	・疾患をめぐる特徴 ・加齢に伴う変化	講義
3	高齢者の理解③	・加齢性変化が及ぼす影響	講義
4	超高齢社会と社会保障①	・超高齢社会の現況 ・高齢者の生活と家族 ・高齢者の健康	講義
5	超高齢社会と社会保障②	・介護保険制度 ・高齢者の権利擁護 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業	講義
6	超高齢社会と社会保障③	・老年看護の特徴 ・老年看護の概念	講義
7	高齢者のヘルスアセスメント	・高齢者総合機能評価 ・日常生活自立度 ・ICF ・加齢性変化とアセスメント	講義
8	生活・療養の場における看護	・老年期のヘルスプロモーション ・介護予防とヘルスプロモーション	講義
9	高齢者のリスクマネジメント	・高齢者におけるチームアプローチ ・高齢者のリスクマネジメント	講義
10	生活を支える看護	・日常生活動作 ・セクシャリティ ・社会参加	講義
11	老年期理解のための演習①	・高齢者とのコミュニケーション ・ユマニチュード	演習
12	老年期理解のための演習②	・高齢者疑似体験	演習
13	認知症①	認知症サポーター養成講座①	介護学科 合同授業
14	認知症②	認知症サポーター養成講座②	介護学科 合同授業
15	試験	60分試験 学習のまとめ	

<b>履修区分</b>	必修	<b>単位数</b>	1	<b>開講時期</b>	前期	<b>形態</b>	講義・演習
<b>学科名</b>	看護学科			<b>配当時間</b>	30	<b>対象年次</b>	2年次
<b>科目名</b>	老年期の健康障害と看護		<b>担当者</b>	非常勤講師			
	□ 実務経験のある教員による授業						
<b>使用教材</b>	老年看護学、老年看護 病態・疾患論（医学書院）						
<b>科目概要</b>	<p>看護師としての実務経験を活かし、老年期の特徴に基づいて高齢者によくみられる疾患や高齢者に特有な健康障害について解説する。また、健康問題を抱えた対象が望む生活にむけて、QOLを考慮した看護を教授する。</p>						
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者によくみられる疾患や高齢者に特有な健康障害について、身体・心理・社会面の特徴と関連づけて説明する。</li> <li>2. さまざまな健康問題を抱えた高齢者について、その人らしい生活を支える看護の必要性を述べる。</li> <li>3. 老年期の特徴を考慮した安全・安楽な生活援助技術を考察する。</li> </ol>						
<b>評価方法</b>	<p>終講時に筆記試験を行う。 総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。</p> <p>&lt; 配点 &gt; 高柳真里子：50点 伊藤まゆみ：50点</p>						
<b>課題に対するフィードバック</b>	<p>試験採点后、採点結果を掲示する。問題用紙、および答案用紙は返却しないが、正答率に応じて問題解説を行う。</p>						
<b>履修要件（準備学習の具体的な内容）</b>	<p>初回講義時に説明する。</p>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	高齢者の疾患の特徴	認知症の病態	講義
2	高齢者の疾患の特徴	中枢神経・心疾患の病態	講義
3	高齢者の疾患の特徴	内分泌・腎臓疾患の病態、高齢者の薬物療法、アドバンス・ケア・プランニング	講義
4	高齢者の疾患の特徴	消化器・肺疾患の病態	講義
5	高齢者の疾患の特徴	眼疾患・皮膚疾患の病態	講義
6	高齢者の疾患の特徴	運動障害の病態	講義
7	高齢者の生活を支える看護 ①	食生活を支える看護	講義
8	高齢者の生活を支える看護 ②	排泄を支える看護	講義
9	高齢者の生活を支える看護 ③	清潔・衣生活を支える看護	講義・演習
10	高齢者の生活を支える看護 ④	活動と休息を支える看護	講義
11	高齢者の生活を支える看護 ⑤	歩行・移動を支える看護	講義
12	高齢者の生活を支える看護 ⑥	高齢者に特徴的な症状・疾患を支える看護	講義
13	高齢者のレクリエーション ①	レクリエーションの基礎	演習
14	高齢者のレクリエーション ①	レクリエーションの企画・運営	演習
15	試験	60分試験 学習のまとめ	

<b>履修区分</b>	必修	<b>単位数</b>	1	<b>開講時期</b>	後期	<b>形態</b>	講義・演習
<b>学科名</b>	看護学科			<b>配当時間</b>	30	<b>対象年次</b>	2年次
<b>科目名</b>	老年看護の展開		<b>担当者</b>	大屋 真由美			
	□ 実務経験のある教員による授業						
<b>使用教材</b>	老年看護学、老年看護 病態・疾患論（医学書院）						
<b>科目概要</b>	<p>看護師としての実務経験を活かし、疾患や治療・回復過程、加齢による変化を関連付けて考えられるよう教授する。また、生活行動や持てる力に着目して看護問題や対象・家族が望む生活に向けた看護を展開できるよう指導する。</p>						
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康障害や加齢に伴う機能低下をもつ老年期の対象の看護過程を展開することの 意味を考察する。</li> <li>高齢者の特徴に基づき、生活行動やもてる力に着目した看護過程を展開する。</li> <li>課題の事例展開を通して、その人らしい生活を支える看護の意義を認める。</li> </ol>						
<b>評価方法</b>	<p>出席状況、グループワークの参加状況、提出物、評価表をもとに評価する。 総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。</p>						
<b>課題に対するフィードバック</b>	<p>口頭にて合否を伝える。 提出物を返却する。</p>						
<b>履修要件 (準備学習の 具体的な 内容)</b>	<p>老年看護学概論、老年の健康障害と看護の復習を行う。 基本技術Ⅱの講義資料で振り返りを行う。初回講義時に説明する。</p>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	老年看護の特徴	・老年期の発達課題 ・加齢性変化が与える影響	演習
2	老年看護の特徴	高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方	演習
3	看護過程の展開 (紙面事例)	事例提示 プロフィール・基礎知識	演習
4	看護過程の展開 (紙面事例)	情報整理	演習
5	看護過程の展開 (紙面事例)	データベースアセスメント①	演習
6	看護過程の展開 (紙面事例)	データベースアセスメント②	演習
7	看護過程の展開 (紙面事例)	データベースアセスメント③	演習
8	看護過程の展開 (紙面事例)	データベースアセスメント④	演習
9	看護過程の展開 (紙面事例)	情報関連図①	演習
10	看護過程の展開 (紙面事例)	情報関連図②	演習
11	看護過程の展開 (紙面事例)	看護診断・問題リスト	演習
12	看護過程の展開 (紙面事例)	看護計画①	演習
13	看護過程の展開 (紙面事例)	看護計画②	演習
14	看護過程の展開 (紙面事例)	看護介入の実施	演習
15	まとめ	経過記録・まとめ	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	実習
学科名	看護学科			配当時間	90	対象年次	3年次
科目名	老年看護学実習			担当者	大屋 真由美		
	□ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	事前学習により各自でまとめた資料、テキスト、参考書など						
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かし、学生が実習を通じて、生活の場の一つである介護保険施設と通所介護の機能と役割について解説し、高齢者の価値観や個性を尊重した態度と健康維持増進を目指した看護の継続の必要性が学べるよう指導を行う。</p> <p>通所介護 9時間×2日、4時間×1日      介護老人保健施設 9時間×2日  介護老人福祉施設 9時間×3日              老人福祉センター 8時間×1日  学内実習 15時間</p>						
到達目標	<p>1) 対象の生活背景や思いに関心を寄せ、既習の知識や技術を活用して良好な人間関係を築いていくために必要な準備を整える。</p> <p>2) 介護保険施設と通所介護、老人福祉センターの位置づけと機能・役割を説明する。</p> <p>3) 高齢者がこれまで培ってきた価値観や個性を尊重し、QOLを支えるための支援を行う。</p> <p>4) 高齢者の「もてる力」を最大限に生かした日常生活援助の必要性を述べる。</p> <p>5) 高齢者の自立した生活を支えるための多職種連携と看護の役割を説明する。</p> <p>6) 実習全体を俯瞰し、修得した学びを振り返ることで自己の成長を確認する。</p>						
評価方法	<p>1. 評価は「老年看護学実習」の規定時間の6分の5以上の出席をもって評価の対象とする。</p> <p>2. 評価は「評価規定」に基づき行う。</p> <p>* 詳細は実習要項参照。</p>						
課題に対するフィードバック	<p>ルーブリック評価、課題の内容、実習態度等を総合的に評価し、認定会議にて可否を検討した結果を面接にて伝える。</p> <p>各自の課題をもって臨み、実習終了時に成長を俯瞰できること、また残された課題を明確にし、次の実習につなげていくことで段階的に成長を実感できることも目標としている。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>実習に関わる必須科目を履修し、合格しておくことを条件とする。</p> <p>事前課題をもとに、自己学習をすすめ、ポートフォリオにまとめる。</p>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	実習オリエンテーション①	1.全体オリエンテーション 2.フロアオリエンテーション	学内
2	事前学習・準備	事前課題 準備、学習計画作成・実施	学内
3	実習オリエンテーション②	臨地オリエンテーション	臨地
4	通所デイサービス①	施設実習	臨地
5	通所デイサービス②	施設実習	臨地
6	学内実習	レクリエーション企画	学内
7	通所デイサービス③	施設実習	臨地
8	介護老人福祉施設①	施設実習	臨地
9	介護老人福祉施設②	施設実習	臨地
10	介護老人福祉施設③	施設実習	臨地
11	介護老人保健施設①	施設実習	臨地
12	介護老人保健施設②	施設実習	臨地
13	老人福祉センター	施設実習	臨地
14	学内実習	ワーク、学習成果のまとめ	学内
15	評価	評価面談	学内

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	小児看護学概論		担当者	福永 紫乃 近藤 桂子			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	小児看護学概論、小児臨床看護総論、看護のための人間発達学（医学書院） 写真でわかる小児看護技術(インターメディア)、国民衛生の動向（厚生労働統計協会）						
科目概要	<p>小児の成長・発達と身体的・心理社会的・精神的变化を理解する。</p> <p>小児看護に携わる看護師としての実務経験を活かし、子どもを一人の人間としてとらえ、子どもの基本的な人権や子どもが本来持つ生きる力について教授する。また、変化する社会の中で、子どもと家族のおかれている状況を把握し、成長・発達や様々な健康状態に応じた看護の理解が深まるように支援する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.小児看護の対象を理解する。</li> <li>2.子どもの権利・倫理を基に小児看護の理念を説明する。</li> <li>3.成長・発達を含めた小児各期の特徴を説明する。</li> <li>4.小児に起こる健康障害について小児の特徴・成長発達と関連付け説明をする。</li> <li>5.小児を取り巻く環境を理解し安全安楽考えをアセスメントする必要性を見出す。</li> </ol>						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.終講時に筆記試験を行う。</li> <li>2.課題学習、小テストの内容の採点も含む。</li> </ol> <p>総合的に60点以上取得した学生に単位を認定する。</p> <p>評価基準については、学科の規定による。</p> <p>&lt;配点&gt; 福永：75点 近藤：35点</p>						
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験の採点后、点数のみ返却する。</li> <li>・合格者についてのみ学籍番号を掲示する。</li> <li>・必要時においては、課題等の提出を課す。</li> </ul>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	初回講義時に説明する。予習、復習を実施する。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	小児看護の特徴と理念	1. 小児看護の対象と目指すところ 2. 小児看護・医療の変遷	講義
2	小児看護の特徴と理念	1. 小児看護における倫理 1) 子どもの権利 2) 小児看護における倫理	講義
3	小児の理解	1. 小児の特徴と成長発達 2. 小児の分類と各期の発達課題	講義
4	小児の各期の特徴	1. 各期の形態的特徴と機能的・精神運動機能の発達 1) 新生児期	講義・演習
5	小児の各期の特徴	1. 各期の形態的特徴と機能的・精神運動機能の発達 2) 乳幼児期	講義・演習
6	小児の各期の特徴	1. 各期の形態的特徴と機能的・精神運動機能の発達 3) 幼児期	講義・演習
7	小児の各期の特徴	1. 各期の形態的特徴と機能的・精神運動機能の発達 4) 学童期	講義・演習
8	小児の各期の特徴	1. 各期の形態的特徴と機能的・精神運動機能の発達 5) 思春期（青年期）	講義・演習
9	小児の各期の特徴	1. 各期の形態的特徴と機能的・精神運動機能の発達 基本的な生活習慣・子どもの遊び・コミュニケーション	講義・演習
10	小児の各期の特徴	1. 各期の形態的特徴と機能的・精神運動機能の発達 フィジカルアセスメント	講義・演習
11	小児を取り巻く環境	1. 小児保健の意義（対策）（福祉） 2. 小児を取り巻く環境（統計）（法律）	講義
12	小児を取り巻く環境	3. 集団の健康管理 1) 学校保健 2) 予防接種 3) 病児教育	講義・演習
13	小児を取り巻く環境	4. 子どもの安全な環境と事故防止 5. 社会情勢と小児の諸問題（虐待）	講義
14	小児を取り巻く環境	6. 子どもと家族のアセスメントと 小児看護の課題	講義
15		試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	小児期の健康障害と看護 ☐ 実務経験のある教員による授業		担当者	福永 紫乃 斎藤 美都江 非常勤講師			
使用教材	小児看護学概論・小児臨床看護総論、小児臨床看護各論、 看護のための人間発達学（医学書院） 写真でわかる小児看護技術(インターメディア)国民衛生の動向（厚生労働統計協会）						
科目概要	小児医療に携わる医師・看護師としての実務経験を活かし、学生が心や身体に健康問題を抱える小児の状況を理解し、状態に合わせた看護の知識や技術を習得できるように教授する。健康障害が小児と家族にどのような影響を及ぼすのか、また、必要な看護について理解が深まるよう支援する。						
到達目標							
評価方法	1. 「小児の主な疾患」と「小児の看護」の授業を合わせて筆記試験を行う。 2. 課題学習、小テストの内容も採点に含む。 総合的に60点以上取得した学生に単位を認定する。 評価基準については、学科の規定による。 配点：福永（10点）島村（30点）志関（15点） 大澤（20点）中井（5点）斎藤（5点）半田（15点）						
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験の採点后、点数のみ返却する。</li> <li>・合格者についてのみ学籍番号を掲示する。</li> <li>・必要時においては、課題等の提出を課す。</li> </ul>						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	<p>初回講義時に説明する。</p> <p>予習、復習を実施する。</p> <p>小児の成長・発達と特徴を理解しておく。</p>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	健康障害のある 小児と家族の看護	1. 病気・障害が小児と家族に与える影響 2. 小児の健康問題と看護及び発達段階別看護 3. 小児のアセスメント	講義
2	主な症状と小児の疾患	1. 小児に出現しやすい疾患と治療 新生児・低出生児の疾患 代謝性疾患・内分泌疾患	講義
3	主な症状と小児の疾患	1. 小児に出現しやすい疾患と治療 代謝性・内分泌疾患・循環器疾患・血液疾患・感染症	講義
4	主な症状と小児の疾患	1. 小児に出現しやすい疾患と治療 アレルギー疾患・呼吸器疾患・消化器疾患・運動器疾患	講義
5	主な症状と小児の疾患	1. 小児に出現しやすい疾患と治療 脳・神経疾患・悪性新生物疾患皮膚・眼疾患・精神疾患	講義
6	主な症状と小児の疾患	1. 小児の外科的治療を要する疾患 呼吸器・循環器疾患（先天性）・腎臓。泌尿器・生殖器	講義
7	主な症状と小児の疾患	1. 小児の外科的治療を要する疾患 消化器・運動器・感覚器	講義
8	主な疾患や障害による 症状を示す小児の看護	症状を示す子どもの看護 呼吸困難・チアノーゼ・発熱・痙攣・脱水・下痢・嘔吐	講義
9	主な疾患や障害による 症状を示す小児の看護	症状を示す子どもの看護 小児の主な疾患の看護 感染症	講義
10	主な疾患や障害による 症状を示す小児の看護	ハイリスク新生児・低出生児の看護 NICU・GCU 新生児の主な疾患と看護	講義
11	主な疾患や障害による 症状を示す小児の看護	検査・治療を受ける子どもの看護 検査・治療の体験 薬物治療時の看護	講義
12	主な疾患や障害による 症状を示す小児の看護	事故・外傷・と看護 救急処置	講義
13	長期にわたる障害のある 小児の支援	障害のある子どもと家族の看護 1) 障害のとらえ方 2) 障害のある小児と家族の特徴	講義
14	長期にわたる障害のある 小児の支援	障害のある子どもと家族の看護 1) 社会資源 2) 療育病院における看護の実際	講義
15		試験 学習のまとめ	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	小児看護の展開			担当者	福永 紫乃		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	小児看護学概論・小児臨床看護総論、小児臨床看護各論、看護のための人間発達学（医学書院） 写真でわかる小児看護技術(インターメディア)、国民衛生の動向（厚生労働統計協会）						
科目概要	小児看護に携わる看護師としての実務経験を活かし、小児の特徴と、疾患や治療・回復過程、成長発達を関連付けて、対象の看護問題を解決するために看護過程を展開する方法を教授する。対象児及び家族に応じた援助方法・技術を学び小児看護の基本的な看護実践が出来るように学習を支援する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>子どもに対する特徴的な看護技術を習得する。</li> <li>事例を通して健康障害を持つ対象（家族を含む）の看護過程を展開する意義を認める。 <ol style="list-style-type: none"> <li>対象の情報を整理・情報の分析を記述する。</li> <li>上記内容を関連付け、対象の全体像が見える関連図を記述する。</li> <li>関連図から優先順位を付けた問題を抽出する。</li> <li>抽出した問題点が解決できるように対象の成長・発達を考慮した看護計画を立案する。（プレパレーションやディストラクションも計画に入れる）</li> <li>計画に基づき実施する。</li> <li>上記5）から経過記録を記述し計画の評価・修正をする。</li> </ol> </li> </ol>						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>技術を伴う演習では、演習時に技術の習得を見る。</li> <li>事例の看護展開は、点数化し評価する。</li> <li>課題提出は厳守とする。 総合的に60点以上取得した学生に単位を認定する。 評価基準については、学科の規定による。</li> </ol>						
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の習得、事例展開の結果を返却し、合格を伝える。</li> <li>・必要時には、課題学習を課す。</li> </ul>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)							

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	小児の看護技術	1. 子どものアセスメント	講義・演習
2	小児の看護技術	2. 小児の観察の技術 1) バイタルサイン測定 2) 身体計測 3) 検査時	講義・演習
3	小児の看護技術	2. 小児の観察の技術 1) バイタルサイン測定 2) 身体計測 3) 検査時	講義・演習
4	小児の看護技術	3. 小児の日常生活援助技術 1) 清潔・排泄の援助 2) 食事援助 3) 午睡の援助	講義・演習
5	小児の看護技術	3. 小児の日常生活援助技術 1) 清潔・排泄の援助 2) 食事援助 3) 午睡の援助	講義・演習
6	小児の看護技術	4. 子どもと家族とのコミュニケーション 1) 遊び 2) タッチング	講義・演習
7	小児看護の展開方法	1. 小児の看護過程とは	講義・演習
8	小児看護の展開方法	2. 事例による看護過程の展開 1) 情報収集の分析・解釈の視点 2) 成長・発達段階の理解	講義・演習
9	小児看護の展開方法	3. 対象の理解 1) 疾患の病態生理・治療・検査 2) 健康の段階	講義・演習
10	小児看護の展開方法	3. 対象の理解 3) 領域別のアセスメント	講義・演習
11	小児看護の展開方法	3. 対象の理解 3) 領域別のアセスメント	講義・演習
12	小児看護の展開方法	4. 全体像の把握（関連図）	講義・演習
13	小児看護の展開方法	5. 看護問題の抽出 1) 看護問題の抽出 2) 優先順位の決定	講義・演習
14	小児看護の展開方法	6. 看護目標・看護計画立案	講義・演習
15	小児看護の展開方法	看護計画実施（発表）まとめ	講義・演習

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	実習
学科名	看護学科			配当時間	90	対象年次	3年次
科目名	小児看護学実習			担当者	福永 紫乃		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	小児看護学概論・小児看護学総論、小児臨床看護学各論、看護のための人間発達学（医学書院） 写真でわかる小児看護技術（インターメディカ）						
科目概要	<p>小児の発達段階と健康状態に合わせた看護過程を展開し看護援助を実践する。 看護師としての実務経験をいかし、学生が、小児看護学の対象であるすべての子どもたち、健康な子ども、健康障害をもつ子ども、障害をもつ子どもとの関わりを通して小児の基本的看護を学べるよう支援する。</p> <p>太田記念病院または 桐生厚生総合病院 7時間×5日 足利しらゆり幼稚園 7時間×3日 療育センター きぼう 7時間×2日</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認定こども園における実習を通して健康な幼児の成長・発達過程を理解する。</li> <li>2. 実際に子どもたちとふれあい、幼児とのコミュニケーションや関わり方を学ぶ。</li> <li>3. 療育病院実習を通して障害をもつ小児の理解を深め、障害児を取り巻く社会・福祉・医療・教育の現状とその中で看護の役割について考える。</li> <li>4. 認定こども園における実習を基盤とし、小児の成長・発達段階をとらえ、健康障害をもつ小児とその家族の看護を実践するために必要な基礎能力を養う。</li> </ol>						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習評価を受ける資格は、実習において所定時間数の6分の5以上の出席とする。</li> <li>2. 実習評価は、実践・記録・態度など総合的に行う。</li> <li>3. 詳細については、実習要綱の実習評価表（ルーブリック）による。</li> </ol>						
課題に対するフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記録物、カンファレンスを通して必要時個別対応を行う。</li> <li>2. 中間評価を行い、目標が達成できるよう個別対応を行う。</li> <li>3. 最終評価は、実習要綱の実習評価表（ルーブリック）を基に評価面接を行い、可否を伝える。</li> <li>4. 自己の課題が明確になるようフィードバックしていく。</li> </ol>						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護学概論・小児看護学各論（健康障害と看護）・小児看護の展開（技術面・看護展開）の講義内容を復習しておく。</li> <li>2. 実習前には、講義で使用した資料を整理して実習で活用できるようにする。 また、実技練習をし、技術強化を図ること。</li> <li>3. 視聴覚教材を活用し、小児への関心を深める。</li> </ol>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	小児看護学実習	全体実習オリエンテーション・事前学習	学内
2	小児看護学実習	認定こども園実習	臨地
3	小児看護学実習	認定こども園実習	臨地
4	小児看護学実習	認定こども園実習	臨地
5	小児看護学実習	リフレクション・療育病院オリエンテーション	学内
6	小児看護学実習	療育病院実習	臨地
7	小児看護学実習	療育病院実習	臨地
8	小児看護学実習	リフレクション・小児病棟オリエンテーション	学内
9	小児看護学実習	小児病棟実習	臨地
10	小児看護学実習	小児病棟実習	臨地
11	小児看護学実習	小児病棟実習	臨地
12	小児看護学実習	小児病棟実習	臨地
13	小児看護学実習	小児病棟実習	臨地
14	小児看護学実習	実習のまとめ・情報の共有・発表	学内
15	小児看護学実習	評価	学内

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	リプロダクティブヘルスと看護		担当者	高木 道代			
	☑ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	母性看護学概論（医学書院） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）公衆衛生がみえる（メディックメディア）						
科目概要	母性看護は、妊娠、分娩を通して、その人の母性や父性、愛着、親子の相互作用を育むことに深く関わる。また、セクシュアリティ、ジェンダーの概念を通して、人格形成に関わることを学習する。助産師としての実務経験を活かして、女性のライフサイクルとリプロダクティブヘルスに関する動向、概念、倫理、法や施策支援について教授する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>母性の概念、人間の性と生殖の概念を説明する。</li> <li>リプロダクティブヘルスと母性看護の対象を説明する。</li> <li>母性看護の変遷及び母性保健の動向と対策を関連付ける。</li> <li>女性のライフサイクル各期における看護を認める。</li> </ol>						
評価方法	後期末に筆記試験を行う。受講態度を評価に含む。総合的に60点以上取得した学生に単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、得点表を返却する。合格者についてのみ、学籍番号を掲示する。						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	厚生労働省ホームページ：http://www.mhlw.go.jp/index.html 国民衛生の動向の母子保健に関する動向に目を通しておく						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	母性の基盤となる概念	母性看護学を支える概念 家族の発達と機能 女性のライフサイクル	講義 GW
2	リプロダクティブヘルス に関する概念	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 人間の成長発達過程と セクシュアリティ	//
3	リプロダクティブヘルス に関する動向	出生に関する動向 死亡に関する動向	//
4	リプロダクティブヘルス に関する倫理	母性看護実践における倫理的・法的・社会的 課題	//
5	リプロダクティブヘルス に関する法や施策と支援①	母性看護に関連する組織と法律	//
6	リプロダクティブヘルス に関する法や施策と支援②	母性看護の対象と環境	//
7	生殖に関する生理①	生殖器 性周期のメカニズム	//
8	生殖に関する生理②	妊娠の成立 性分化のメカニズム 性反応	//
9	生殖における健康問題 と看護①	月経異常 性感染症 女性生殖器の腫瘍	//
10	生殖における健康問題 と看護②	出生前診断 不妊症	//
11	ライフサイクル各期 における看護①	思春期の健康と看護 身体・心理・社会的特 徴 月経異常 月経教育、性教育	//
12	ライフサイクル各期 における看護②	成熟期の健康と看護 身体・心理・社会的特徴 家族計画と受胎調節	//
13	ライフサイクル各期 における看護③	更・老年期の健康と看護 身体・心理・社会的特徴 更年期障害と看護	//
14	倫理的課題の実際	事例検討	//
15		試験	



授業計画

回	単元	内容	備考
1	妊娠期の看護①	1. 妊娠期の身体的・心理・社会的特性	講義
2	妊娠期の看護②	2. 妊婦健診と保健指導	講義
3	妊娠期の看護③	3. 母性の発揮を促す看護	講義
4	分娩期の看護①	1. 分娩の要素と分娩経過	講義
5	分娩期の看護②	2. 分娩進行に伴う産婦の身体的・心理・社会的変化	講義
6	分娩期の看護③	3.産婦の看護	講義
7	新生児期の看護①	1. 新生児の生理	講義
8	新生児期の看護②	2. 新生児のアセスメントと看護	講義
9	新生児期の看護③	3. ハイリスク新生児の看護	講義
10	新生児期の看護④	4. 新生児の清潔（沐浴）	演習
11	新生児期の看護⑤	5. 新生児計測と観察	演習
12	産褥期の看護①	1. 産褥経過のアセスメントと看護	講義
13	産褥期の看護②	2. 褥婦のアセスメント	講義
14	産褥期の看護③	3. 褥婦と家族の看護	講義
15	試験		

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	母性看護の展開		担当者	高木 道代			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	母性看護学概論、母性看護学各論（医学書院）NANDA I 看護診断						
科目概要	助産師としての実務経験を活かし、女性のライフサイクルと妊娠・分娩による身体的・社会的・精神的変化および新生児の特徴について理解し、より健康を促進することを目的とした母児の看護技術の実践能力を身につけるための知識を教授する。正常な経過の褥婦・新生児の事例の看護過程の展開を通し、対象にあった看護の方法を見出すように指導する。						
到達目標	課題の事例展開を通し、正常分娩の母子に対する看護を考えることができる。						
評価方法	課題については、看護過程のにより総合的に評価する。 60点以上を合格とする。						
課題に対するフィードバック	課題の1事例の看護過程を点数化し、学生に返却する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	看護過程を理解した上で、母性の特性であるウェルネス看護の考え方を取り入れていく必要がある。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	母性看護の展開①	母性看護学展開の考え方	講義
2	母性看護の展開②	産褥期・新生児期の看護展開	個人ワーク
3	母性看護の展開③	産褥期・新生児期の看護展開	個人ワーク
4	母性看護の展開④	産褥期・新生児期の看護展開	個人ワーク
5	母性看護の展開⑤	産褥期・新生児期の看護展開	個人ワーク
6	母性看護の展開⑥	産褥期・新生児期の看護展開	個人ワーク
7	母性看護の展開⑦	産褥期・新生児期の看護展開	個人ワーク
8	母性看護の展開⑧	産褥期・新生児期の看護展開	個人ワーク
9	母性看護の展開⑨	産褥期・新生児期の看護展開	個人ワーク
10	母性看護の展開⑩	産褥期・新生児期の看護展開	個人ワーク
11	母性看護の展開⑪	産褥期・新生児期の看護展開	個人ワーク
12	母性看護の展開⑫	産褥期・新生児期の看護展開	個人ワーク
13	母性看護の展開⑬	産褥期・新生児期の看護展開	グループワーク
14	母性看護の展開⑭	看護計画の実践・グループ発表	演習
15	まとめ		講義

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	実習
学科名	看護学科			配当時間	90	対象年次	3年次
科目名	母性看護学実習			担当者	高木 道代 近藤 桂子		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	ナーシンググラフィカ 概論リプロダクティブヘルスと看護 母性看護の実践 母性看護技術（メディカ出版）病気がみえる10産科（メディックメディア）NANDA-I 看護診断2018-2020（医学書院）						
科目概要	<p>助産師としての実務経験を活かし、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の特徴を理解し、ウェルネスの視点から看護過程を展開し、看護援助を実践できるように指導する。</p> <p>太田記念病院、桐生厚生総合病院 9時間×5日間 子育て支援センター 9時間×1日 太田市保健センター 4時間×1日 学内実習 32時間</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護学実習に必要な事前学習をして実習に臨んでいる。</li> <li>2. 実習の課題を理解し、それを達成するために必要な知識・技術を判断する。</li> <li>3. 出産を終えた褥婦の気持ちに寄り添い産褥期に起こる心身の変化に関心を向ける。</li> <li>4. 褥婦の変化する心身の状態を考える。</li> <li>5. 日々変化する新生児を観察し子宮外生活適応状態を考える。</li> <li>6. 褥婦がより良い経過を遂げるための日常生活支援を行う。</li> <li>7. 新生児の子宮外生活適応過程が順調に経過するための支援を行う。</li> <li>8. 母子相互作用を高める関わりを行う。</li> <li>9. 母子の看護実践から、母性看護の役割がわかる。</li> </ol>						
評価方法	評価はルーブリックにより総合的に行う。						
課題に対するフィードバック	<p>教員全体で評価会議を行い、評価面接を行う。</p> <p>可否を伝え、自己の課題が明確になるようにフィードバックしていく。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	リプロダクティブヘルスと看護・母性看護の技術と実践・母性看護学の展開の内容を復習しておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	母性看護学実習	全体オリエンテーション フロアオリエンテーション	学内
2	母性看護学実習	事前学習	学内
3	母性看護学実習	妊婦事例シミュレーション 妊娠初期・中期・後期の看護のDVD 妊婦健診、保健指導の実際	学内
4	母性看護学実習	分娩事例シミュレーション 分娩期の看護のDVD 分娩第1期から4期までの看護実施	学内
5	母性看護学実習	褥婦事例シミュレーション 新生児事例シミュレーション（観察項目、報告、沐浴含む）	学内
6	母性看護学実習	母子保健センター 各保健センターの母子保健事業に参加	臨地
7	母性看護学実習	子育て支援センター 子育て支援センターでの1日実習に参加	臨地
8	母性看護学実習	（病院）オリエンテーション 受け持ち褥婦・新生児決定・挨拶・同意書説明・情報収集	臨地
9	母性看護学実習	（病院）看護実践 褥婦と新生児の観察、アセスメント 情報収集・授乳見学・沐浴実施	臨地
10	母性看護学実習	（病院）看護実践 褥婦と新生児の観察、アセスメント 情報収集・授乳見学・沐浴実施	臨地
11	母性看護学実習	（病院）看護実践 褥婦と新生児の観察、アセスメント 情報収集・授乳見学・沐浴実施	臨地
12	母性看護学実習	（病院）看護実践 褥婦と新生児の観察、アセスメント 情報収集・授乳見学・沐浴実施	臨地
13	母性看護学実習	妊婦体験 DVD うまれるを見てレポート作成	学内
14	母性看護学実習	ラベルワークテーマ「母性の対象を取り囲む多職種連携と母性看護の意義」	学内
15	母性看護学実習	評価	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	1年次
科目名	精神看護学概論			担当者	石澤 美千代		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	精神看護の基礎、精神看護の展開（医学書院） 精神神経疾患ビジュアルブック（学研メディカル秀潤社）						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし、精神に障害をもつ対象の身体的・精神的・社会的変化、看護理論や倫理、健康回復過程の基礎等を解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健の現状や精神障害者の現状から精神看護の必要性を認める。</li> <li>2. 健康の定義に関連して精神の健康についてどのような状態か述べる。</li> <li>3. 心身に影響を及ぼす危機とストレスについて説明する。</li> <li>4. 精神障害と治療の歴史に関連して法律や社会制度について説明する。</li> <li>5. 心のはたらきについて列挙する。</li> <li>6. 心のはたらきとしくみに関連して人格の発達について説明する。</li> <li>7. 人の成長と回復に影響する家族の在り方について想起する。</li> <li>8. 精神看護学の基本的考え方に基づいて精神看護のケアの原則を説明する。</li> </ol>						
評価方法	授業終了後に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。 評価基準については、学科の規定による。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、得点表を返却する。 不合格者については、学籍番号のみを掲示する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	この科目の看護の対象は、すべての発達段階にある人間であり、心の発達を理解すると共に、人々の生活の場や対人関係における危機的状況を理解する必要がある。そのために、心理学、人間関係論、ヘルスケアシステムⅡ、関係法規、基礎看護学概論などの準備学習も必要である。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	精神看護学の基本	精神障害者の現状 「心のケア」と日本の現状	講義
2	精神保健の考え方	精神の健康 心の危機とストレス	講義
3	精神の健康と障害	精神障害のとらえ方	講義
4	社会の中の精神障害①	精神障害と治療の歴史	講義
5	社会の中の精神障害②	精神障害と文化 精神障害と社会学	講義
6	社会の中の精神障害③	精神障害と法制度	講義
7	社会の中の精神障害④	精神保健医療福祉対策	講義
8	心のはたらき①	精神機能の把握(意識・知覚・記憶)	講義
9	心のはたらき②	精神機能の把握(知能・思考・感情・意欲)	講義
10	心のはたらきと人格	意識・無意識 ライフサイクルと発達理論	講義・演習
11	関係のなかの人間①	人間関係 家族	講義・演習
12	関係のなかの人間②	人間と集団	講義・演習
13	ケアの人間関係①	ケアの前提・原則	講義・演習
14	ケアの人間関係②	ケアの方法	講義
15		試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	精神の健康障害と看護		担当者	石澤 美千代 非常勤講師			
	☑ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	精神看護の基礎、精神看護の展開（医学書院） 精神神経疾患ビジュアルブック（学研メディカル秀潤社）						
科目概要	<p>医師としての実務経験を活かし精神疾患の現れ方、精神科での治療、検査等を解説する。</p> <p>看護師としての実務経験を活かし、回復に向けての過程や社会制度や医療現場や災害時におけるメンタルヘルスと看護について解説する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. おもな精神機能とその障害について列挙する。</li> <li>2. おもな精神疾患に関連した精神症状を列挙する。</li> <li>3. おもな精神症状に応じた治療と看護について説明する。</li> <li>4. 精神障害者の回復過程に応じた看護の必要性を認める。</li> <li>5. 地域における精神障害者の特徴に基づいて看護の実際を想起する。</li> <li>6. 医療現場におけるリエゾン精神看護の役割について説明する。</li> <li>7. 看護における感情労働について説明する。</li> </ol>						
評価方法	<p>授業終了後に筆記試験を行う。</p> <p>外部講師（1～7）50点・石澤（8～14）50点 合計100点の筆記試験 60点以上得点した者に単位を認定する。</p> <p>評価基準については、学科の規定による。</p>						
課題に対するフィードバック	<p>試験の採点后、得点表を返却する。</p> <p>不合格者については、学籍番号のみを掲示する。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>この科目の看護の対象も、すべての発達段階にある人間である。1年次の精神看護学概論の復習をしておく。また、精神科治療の1つである薬物療法を理解するためにも薬理学の復習もしておく。さらに、地域で生活している精神障害者を支えるための法律・制度の予習をしておく。</p>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	精神疾患のあらわれ方①	主な精神症状と診断、検査	講義
2	精神疾患のあらわれ方②	主な精神疾患 ①統合失調症	講義
3	精神疾患のあらわれ方③	主な精神疾患 ②気分障害	講義
4	精神疾患のあらわれ方④	主な精神疾患 ③神経症性障害、ストレス関連障害等	講義
5	精神疾患のあらわれ方⑤	主な精神疾患 ④各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調等	講義
6	精神科での治療①	薬物療法・電気痙攣療法等	講義
7	精神科での治療②	精神療法・環境療法・社会療法 他	講義
8	回復を支援する①	回復の意味・リカバリー 回復のためのプログラム	講義・演習
9	地域におけるケアと支援①	生活支援の方法 (支援する際の原則・社会資源)	講義・演習
10	地域におけるケアと支援②	生活支援の方法 (ケアの方法と実際)	講義
11	身体のケア①	精神科における身体ケア	講義
12	身体のケア②	精神科の治療における身体ケア	講義
13	安全を守る	緊急時に対処する	講義
14	メンタルヘルスと看護	リエゾン精神看護 看護師のメンタルヘルス	講義
15		試験	

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	30	対象年次	2年次
科目名	精神看護の展開			担当者	石澤 美千代		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	精神看護の基礎、精神看護の展開（医学書院） 精神神経疾患ビジュアルブック（学研メディカル秀潤社） 個人の学習資料						
科目概要	看護師の実務経験を活かし、精神に障害をもつ対象の特徴と疾患や治療・回復過程、社会資源の活用を関連付けて、対象の看護問題を解決するために看護過程を解説する。						
到達目標	1. 紙面事例を通して精神に障害をもつ対象の看護過程を展開することに意義を認める。 1) 対象の情報を整理し分析解釈して記述する。 2) 上記の内容を関連させて、対象の全体像を把握できる関連図を記述する。 3) 関連図から優先順位をつけて問題を抽出する。 4) 抽出した問題を解決出来るように看護計画を立案する。 5) 看護計画の介入場面を演じる。 6) 上記の5)から経過記録を記述し計画を修正する。						
評価方法	1. 対象の状態をアセスメントし看護計画を展開。提出物から評価（66点） 1) 対象の状態をアセスメント（個人ワーク）20点 2) 全体像の把握（グループワーク）10点 3) 問題リスト抽出・看護計画の立案（グループワーク）15点 4) グループ発表・介入場面の演示等（グループワーク）15点 5) 経過記録（個人ワーク）6点 2. 状況設定問題、筆記試験34点 各試験とも60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については、学科の規定による。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、得点表を返却する。 不合格者については、学籍番号のみを掲示する。						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	看護計画の実際は実習での前段階の学習として重要である。今までの講義などの資料を用いて復習しておく。また、個人での学習とグループでの学習になるので、他者の意見や考えを取り入れながらチームで協力して課題を進めていく必要がある。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	看護計画の実際①	対象の状態をアセスメント（個人ワーク）	講義
2	看護計画の実際②	対象の状態をアセスメント（個人ワーク）	講義
3	看護計画の実際③	対象の状態をアセスメント（個人ワーク）	講義
4	看護計画の実際④	全体像を把握（グループワーク）	講義・演習
5	看護計画の実際⑤	全体像を把握（グループワーク）	講義・演習
6	看護計画の実際⑥	全体像を把握（グループワーク）	講義・演習
7	看護計画の実際⑦	全体像を把握（グループワーク）	講義・演習
8	看護計画の実際⑧	問題リスト抽出（グループワーク）	講義・演習
9	看護計画の実際⑨	問題リスト抽出（グループワーク）	講義・演習
10	看護計画の実際⑩	看護計画の立案（グループワーク）	講義・演習
11	看護計画の実際⑪	看護計画の立案（グループワーク）	講義・演習
12	看護計画の実際⑫	グループ発表（介入場面等）	講義・演習
13	看護計画の実際⑬	グループ発表（介入場面等）	講義・演習
14	看護計画の実際⑭	経過記録（グループ発表で演じた介入場面）	講義・演習
15		試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	通年	形態	実習
学科名	看護学科			配当時間	90	対象年次	3年次
科目名	精神看護学実習		担当者	石澤 美千代			
	☑ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	精神看護の基礎、精神看護の展開 (医学書院) 精神神経疾患ビジュアルブック (学研が <sup>て</sup> ィカ秀潤社) 事前学習で準備した各自の資料						
科目概要	"看護師の実務経験を活かし、学生が実習を通じて精神に障害をもつ対象を理解・尊重し、精神的健康を可能な限り回復できるように専門職としてのあるべき知識・技能・態度を高める指導を行う。 病院 7時間×8日間 地域活動支援センター実習 9:00～13:00 4時間 2日間 計8時間 グループホーム事業所実習 9:00～17:00 7時間 学内実習 21時間						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.対象の生活背景や意思決定を尊重し、良好な人間関係のもと対象を理解していくために必要な準備を整える。</li> <li>2.対象に合わせた接近方法を取り、対象の身体状況とセルフケアを観察する。</li> <li>3.対象がその人らしいセルフケアができるための援助を考える。</li> <li>4.対象の思いに寄り添い、対象のセルフケアを支援する。</li> <li>5.対象とのかかわりの場面で気がかりを自己洞察し、カンファレンスで検討後さらに関係を発展させ終結を迎えることができる。</li> <li>6.対象の治療環境から安全について考える。</li> <li>7.地域で生活するための社会資源サービスを知ることで、社会復帰に向けた看護師の役割を考える。</li> <li>8.実習全体を俯瞰し、獲得した学びを振り返ることで、自己の成長を認識するとともに、今後に向けた課題を明らかにする。</li> </ol>						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成績評価を受ける資格は所定時間数の6分の5以上の出席とする。</li> <li>2. 実習評価は、実践・記録・態度等総合的に行う。</li> <li>3. 詳細については、実習要綱のルーブリック。</li> </ol>						
課題に対するフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日々の記録やカンファレンスを通して必要時には個別に対応する。</li> <li>2. 中間評価日を設けて目標達成状況を個別に確認する。</li> <li>3. 最終評価面接にて実習の合否を伝える。</li> </ol>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	履修要件：精神看護学概論、精神の健康障害と看護、急性期と看護、回復期と看護、慢性期と看護の科目、精神看護の展開を修得 (準備学習の具体的な内容) <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業資料を用いて復習を行う。特に精神保健に関する法律や統合失調症については十分な学習を行う。</li> <li>2. 今までの実習における自己の課題を明確にしておくこと。</li> <li>3. プロセスレコード資料や実習要綱、オリエンテーション時の配布資料を熟読しておく。</li> </ol>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション	全体オリエンテーション	学内
2	オリエンテーション	フロアーオリエンテーション 事前学習	学内
3	精神看護学実習	午前：地域活動支援センター 午後：学内実習（振り返り等）	臨地・学内
4	精神看護学実習	看護実践 病棟オリエンテーション等	臨地
5	精神看護学実習	看護実践	臨地
6	精神看護学実習	看護実践	臨地
7	精神看護学実習	午前：地域活動支援センター 午後：学内実習（振り返り等）	臨地・学内
8	精神看護学実習	看護実践	臨地
9	精神看護学実習	看護実践	臨地
10	精神看護学実習	看護実践	臨地
11	精神看護学実習	看護実践	臨地
12	精神看護学実習	看護実践	臨地
13	精神看護学実習	午前：地域活動支援センター 午後：学内実習（振り返り、記録の整理等）	臨地・学内
14	精神看護学実習	実習のまとめ・発表（学びの共有）	学内
15	精神看護学実習	評価	学内

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	3年次
科目名	国際看護		担当者	非常勤講師			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	災害看護学・国際看護学 (医学書院)						
科目概要	看護師としての実務経験を活かして、諸外国における保健・医療・福祉体制とその問題点に目を向け、国際的な看護について教授する。						
到達目標	1.近隣諸国における保健・医療・福祉問題に関心を持つ。 2.世界保健機構における健康問題への取り組みに注目する。 3.国際協力において看護師の求められる役割について検討する。						
評価方法	終講試験を実施する。試験結果、授業態度、提出物など、総合的に判断して合否を決定する。						
課題に対するフィードバック	合格者の学籍番号を掲示する						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	初回講義時に説明する						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	国際看護①	国際保健・国際看護とは何か	講義
2	国際看護②	先進国の医療体制と健康問題	講義
3	国際看護③	発展途上国の医療体制と健康問題	講義
4	国際看護④	国際機関の動き WHOの健康問題への取り組み	講義
5	国際看護⑤	JICAにおいて看護師としての活動の実際	講義
6	国際看護⑥	文化を考慮した看護の国際活動	講義
7	国際看護⑦	国際協力を行う看護師に求められるもの SDGS	講義
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	3年次
科目名	災害看護		担当者	諏訪 由美子 非常勤講師			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	災害看護学・国際看護学 (医学書院)						
科目概要	看護師としての実務経験を活かして、災害地などの特殊な状況における看護について説明する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.災害サイクル各期に必要な災害看護の知識を習得する。</li> <li>2.災害時のトリアージの意味と方法を理解し、実際の災害場面を想定して実施する。</li> <li>3.災害看護の実践にどのような知識や技術、能力が必要なのか説明する。</li> <li>4.災害時の心理的プロセスや被災者、遺族、救護者への心の支援の重要性を説明する。</li> </ol>						
評価方法	<p>終講試験を実施する。試験結果、授業態度、提出物など、総合的に評価して合否を決定する。</p> <p>配点 諏訪：10点 川村：50点 青柳：40点 計100点</p>						
課題に対するフィードバック	合格者の学籍番号を掲示する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	初回講義時に説明する						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	災害の定義	災害看護の歩み 災害の種類と健康被害	講義
2	災害医療①	災害看護の特徴・災害サイクル 災害と法律	講義
3	災害医療②	トリアージ演習	演習
4	DMATの役割①	災害各期における看護	講義
5	DMATの役割②	災害医療の実際	講義
6	DPATの役割①	災害時の心理的プロセス、災害によるPTSD	講義
7	DPATの役割②	被災者、遺族、救援者への心のケア	講義
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	後期	形態	講義・演習
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	2年次
科目名	医療安全		担当者	非常勤講師			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	医療安全（医学書院）						
科目概要	看護師としての実務経験を活かして、看護実践に関する問題意識と危機意識を持ち、事故防止のための行動について理解し、対象を安全に看護するための知識を教授する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織として医療安全管理を行う必要性について説明する。</li> <li>2. 看護業務における事故発生要因とそれに対する安全対策について説明する。</li> </ol>						
評価方法	後期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、合格者については、学籍番号のみ掲示する。60点に満たない者には再試験を行う。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	臨地実習の医療安全カンファレンスに積極的に参加する。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	医療安全概論 事故防止の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全を学ぶ意義</li> <li>・事故防止の考え方・看護事故の構造</li> <li>・看護事故防止の考え方</li> </ul>	講義
2	診療の補助の 事故防止Ⅰ・Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務特性からみた患者に投与する業務の事故</li> <li>・注射業務と事故防止・輸血業務と事故防止</li> </ul>	講義
3	〃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内服と薬業務と事故防止・経管栄養（注入）と事故防止</li> <li>・チューブ管理と事故防止・診療の補助の事故防止</li> </ul>	講義
4	療養上の世話の 事故防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総論・転倒、転落事故防止・誤嚥事故防止</li> <li>・異食事故防止・入浴中の事故防止・療養上の事故防止</li> </ul>	講義
5	業務領域をこえて共通する 間違いと発生要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務領域をこえて共通する患者間違い</li> <li>・間違いを誘発するタイムプレッシャーと途中中断</li> <li>・新人特有の危険な思い込みと行動パターン</li> </ul>	講義
6	医療安全と コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因</li> <li>・事故防止のための医療職間のコミュニケーション</li> <li>・医療事故防止のための患者とのコミュニケーション</li> </ul>	講義
	組織的な安全管理体制への 取り組みと我が国の医療安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織としての医療安全対策</li> <li>・システムとしての事故防止の具体例</li> <li>・国の医療安全対策</li> </ul>	講義
7	KYT	KYTとは ヒヤリハット	講義 演習
8		試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	1年次
科目名	ヘルスサポート論Ⅰ		担当者	岩崎 恵理			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト、参考書、図書室などを活用して調べ学習を行う						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし、対象の健康を支えるために多職種が連携することに意義を見出せるよう、演習と解説により知識の統合を図る。						
到達目標	1.保健・医療・福祉に関連する多職種について列挙する。 2.太田医療技術専門学校での8学科の専門職の業務内容を説明する。 3.グループワーク、発表会を通して上記についての理解を深める。 4.対象の健康を支えるために多職種が連携していくことの意義を述べる。						
評価方法	授業参加状況、提出物、レポート内容などを見て総合的に評価する。						
課題に対するフィードバック	可否については学籍番号にて表示する						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	積極的な意見交換ができるよう、調べ学習をして臨む。						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	多職種連携と看護	保健・医療・福祉の現場における多職種連携	講義
2	多職種理解①	太田医療技術専門学校の職種を理解する	調べ学習
3	多職種理解②	太田医療技術専門学校の職種を理解する	調べ学習
4	多職種理解③	8学科の職種の専門性を知る（教員説明）	合同
5	多職種理解④	グループワーク	合同
6	多職種理解⑤	グループワーク	合同
7	学びの発表会①	発表会	演習
8	学びの発表会②	発表会	演習
9		試験（レポート提出）	
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	2年次
科目名	ヘルスサポート論Ⅱ		担当者	岩崎 恵理			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト、参考書、図書室などを活用して調べ学習を行う						
科目概要	<p>看護師としての実務経験を活かし、患者・対象者の意思を重視した生活の質向上のために、多職種チームがそれぞれどのような知識や技術を身につけていくのかについて解説し、演習での学びと統合させて、連携する意義を深く理解できるよう支援する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.保健医療福祉の現場における医療職の役割について思考する。</li> <li>2.看護以外の職種の特徴を理解するために、多学科の演習を見学・観察する。</li> <li>3.1.2を通して、保健・医療・福祉の現場での多職種の役割について説明する。</li> <li>4.対象の生活の質向上のために、多職種が連携することに意義を認める。</li> </ol>						
評価方法	授業参加状況、提出物や発表内容、レポートなどを見て総合的に評価する。						
課題に対するフィードバック	<p>ジグソー学習を活用し、学びを深める          可否については学籍番号で表示する</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>保健医療福祉チーム論Ⅰを履修していることが条件である。          積極的な意見交換ができるよう、調べ学習をして臨む。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	専門職の理解①	専門職として働くための学習とは	講義
2	専門職の理解②	事例検討（各職種のできること）	演習
3	多職種の専門性の理解①	演習見学・グループワーク	演習
4	多職種の専門性の理解②	演習見学・グループワーク	演習
5	多職種の専門性の理解③	演習見学・グループワーク	演習
6	多職種の専門性の理解④	演習見学・グループワーク	演習
7	専門職の理解③	専門職としての看護	演習
8	まとめ	発表・レポート	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	1	開講時期	前期	形態	講義
学科名	看護学科			配当時間	15	対象年次	3年次
科目名	ヘルスサポート論Ⅲ		担当者	岩崎 恵理			
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト、参考書、図書室などを活用して調べ学習を行う						
科目概要	看護師としての実務経験を活かし、様々な現場で多職種と協働する中で発揮されている看護の専門的役割と調整能力の必要性を教授し、演習での学びの統合を図る。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.保健、医療現場における看護の機能と役割について説明する。</li> <li>2.医療現場の事例において、多職種と連携する中で看護の専門性を発揮する。</li> <li>3.合同授業での学びを生かして、看護の専門的役割と調整能力の必要性に意義を認める。</li> <li>4.合同授業での学びを生かして、チームで連携して対象の健康を支えていくことに意義を認める。</li> </ol>						
評価方法	授業参加状況、提出物や発表内容、レポートなどを見て総合的に評価する。						
課題に対するフィードバック	<p>ジグソー学習を活用し、学びを深める。</p> <p>可否については学籍番号で表示する。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>保健医療福祉チーム論Ⅱを履修していることが条件である。</p> <p>積極的な意見交換ができるよう、調べ学習をして臨む。</p>						

## 授業計画

回	単元	内容	備考
1	専門職としての看護①	医療現場における看護の役割	講義
2	専門職としての看護②	事例提示・看護の役割についてグループワーク	演習
3	多職種連携の実際①	医療現場において多職種の中での専門性を発揮する①	合同
4	多職種連携の実際②	医療現場において多職種の中での専門性を発揮する②	合同
5	多職種連携の実際③	医療現場において多職種の中での専門性を発揮する③	合同
6	多職種連携の実際④	医療現場において多職種の中での専門性を発揮する④	合同
7	振り返り①	看護の専門的役割と調整能力の必要性についてグループワーク	演習
8	振り返り②	看護の専門的役割と調整能力の必要性についてグループワーク	演習
9	発表会	発表会・レポート	
10			
11			
12			
13			
14			
15			